

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
6.1	1	<p>■基準労災DBサーバ</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. IEEE 1003.1-1996及びIEEE 1003.2-1992に準拠していること。</p> <p>ウ. 統合サーバでは、15サーバ(30CPU)を統合することを想定しており、将来の拡張分と合わせて、40基以上のCPUをサポートすることが可能なOSであること。</p> <p>エ. 扱える物理メモリの最大容量が1,152GBであること。</p> <p>オ. OSレベルでパーティション機能を有すること。</p> <p>カ. RBAC(Role Based Access Control/ロールベースでのアクセス制御管理)機能を有していること。</p> <p>キ. HTTP、FTP、TELNET、DNS、NTP、DHCP、SNMP、LDAP、SMTP、NISのインターネット標準に準拠していること。</p> <p>ク. システムに関連した問題をシステムの停止なしに、リアルタイムで問題解決できること。</p> <p>ケ. CPU、メモリ、I/Oシステムの監視及び診断を行い、障害リソースを自動的にオフライン化できる予測的自己修復機能を有すること。</p> <p>コ. I18nによる国際化、L10Nによる地域化による英語化、日本語化を実装すること。</p> <p>サ. ネットワーク仮名漢字変換システムを実装すること。</p> <p>シ. サーバシステムで採用するOSについては極力統一を図ることとし、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>ス. ソフトウェア構築上のソフトウェア製品等のプラットフォームについて極力統一し、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>セ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>ソ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>タ. 稼働中のシステムを動作させたまま、ブート環境のコピーを作成したり、コピー環境にパッチを適用したりできる機能を有していること。</p> <p>チ. レプリケーション機能、スナップショット、クローン、クォータを有したボリューム管理機能を備えていること。</p> <p>●RDBMS</p> <p>ア. SQL 92 以降に準拠していること。</p> <p>イ. 64bit対応していること。</p> <p>ウ. 1つのデータベースサーバ(インスタンス)あたり100 以上のデータベースを稼働させられること。</p> <p>エ. 1データベースあたり20TB 以上で作成できること。</p> <p>オ. 物理デバイスが10,000 以上作成できること。物理デバイスとしてローデバイスが指定できること。また、ファイルシステム上に物理デバイスを配置して利用する場合、ハードディスクへの書き込みを保証できること。</p> <p>カ. 1物理デバイスが2TB 以上で作成できること。</p> <p>キ. ページサイズを2KB、4KB、8KB、16KB から選択できること。</p> <p>ク. 1テーブルあたり1,000 を超えるカラムを保持できること。</p> <p>ケ. ロック機構として、行単位、ページ単位、テーブル単位、全ページと指定できること。</p> <p>コ. データベースサーバ内のログインユーザ単位で複数テンポラリ領域を確保できること。テンポラリ領域を使い果たした場合でも、他の処理には影響を与えないこと。</p> <p>サ. データベースサーバにて格納データに対する暗号化をサポートしていること。なお、暗号化の対象をデータベース単位、カラム単位で行えること。</p> <p>シ. SSL等の暗号化通信をサポートしていること。</p> <p>ス. データベースへの更新を契機としてデータベースサーバ外の任意のプログラムにアクセスできること。また、メッセージキューイングシステムに対してメッセージを送受信できること。</p> <p>セ. データベースサーバへのアクセス権限管理にはロールベースのものを利用できること。</p> <p>ソ. ネイティブXML格納及びXML検索とクエリをサポートしていること。 (ア)XMLをそのままの形でデータベースに格納できる。 (イ)XMLを格納時に検証し、データベースには検証済みのXMLドキュメントとして格納できる。 (ウ)XMLファイルと通常のRDBデータを一つのデータベースに格納できる。 (エ)DTD または XMLスキーマの定義に照らしてXMLを検証することができる。 (オ)通常のRDBの検索結果をXML形式で出力する機能を有する。 (カ)検索式によって、格納されたXML形式のデータに対してXMLの構造のどの部分に対してもアクセスできる。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>タ. 現行基準システムで利用しているSybase Adaptive Server Enterpriseのストアド・プロシージャが問題なく利用可能であること。</p> <p>チ. 1ファイル2GB までのテキストやイメージを格納できること。</p>
		ツ. データベースサーバの設定を再起動せずに動的に変更可能であること。
		テ. スケジュールによりデータベースサーバの設定を変更したり、バックアップなどの処理を自動化できる仕組みを有すること。
		ト. クラスタソフトウェアと連動し、起動・停止を自動化できること。また、障害発生時には自動的に系切り替えができること。
		ナ. パーティション機能を有すること。パーティションの種類を複数選択できること。
		ニ. Transact-SQL が利用可能であること。
		ヌ. クライアントアプリケーションからデータベースアクセス用のAPI が利用できること。
		ネ. SQL 文のトレース等の監査ができること。ただし、RDBMS への負荷を小さくすること。
		<p>●レプリケーションソフトウェア</p> <p>ア. レプリケーションはトランザクションログベースタイプのものであり、複写タイミングはデータベースのチェックポイントと連動できること。</p> <p>イ. レプリケーション対象データはデータベース単位、テーブル単位、ロー単位で指定可能であること。</p> <p>ウ. ストアド・プロシージャのレプリケーションを行えること。(ストアド・プロシージャの実行結果の転送ではなく、複写先でストアド・プロシージャの実行を行えること。)</p> <p>エ. レプリケーションのルートに障害が発生した場合、復旧後自動的に複写が行われること。</p> <p>オ. 万レプリケーションに発生した障害によってデータベース間に不整合が発生した場合、不整合を検知できる仕組みがあること。また、不整合を修復するツールを用意すること。</p> <p>カ. 基準労災DBサーバのRDBMSから統計情報サーバのRDBMS(DWH)へのレプリケーションが可能であること。</p> <p>キ. 複数のトランザクションの中の有効な変更差分を取り出し、一括して複写側データベースに適用することで、複写側データベース更新の高速化が図れる機能を有していること。</p> <p>ク. 上記の機能は、複写先としてRDBMS(DWH)と、通常のRDBMSの両方に対応していること。</p>
		<p>●クラスタソフトウェア</p> <p>ア. 3ノード以上のクラスタ構成をサポートできること。</p> <p>イ. 稼動待機構成以外に、複数の稼動系に対して1台に待機系(N:1)、あるいはすべて稼動系(N:N)といった柔軟なクラスタ構成が可能であること。</p> <p>ウ. アプリケーション単位に柔軟に最適なサーバに処理を引き継ぐことが可能であること。</p> <p>エ. 複数サービスを連動したサービス切り替えが可能であること。たとえば、Web サーバは DB サーバが必要であるとサービス間で依存関係を定義した場合、Web アプリケーションサーバが DB サーバの起動を待ってから起動し、DB サーバで障害を検出した場合には Web アプリケーションサーバも切り替えるといった運用が可能である等。</p> <p>オ. RDBMSに対応したエージェント(起動・停止・系切り替え等の処理を行う)を有すること。</p> <p>カ. Quoramサーバとして構成したサーバを、共有ディスクの代わりにQuoramデバイスとして構成できること。</p> <p>キ. 全クラスタノードに対して、一度に同じコマンドを実行するためのユーティリティを備えていること。</p>
		<p>●ボリューム管理ソフトウェア</p> <p>ア. ノード間での排他制御機能を有すること。</p> <p>イ. バスのマネージメント機能を有すること。</p> <p>ウ. ストレージ筐体をまたいだRAIDが構成できること。</p> <p>エ. ファイルシステムと連携した書き込みが可能であること。</p> <p>オ. ファイルシステムのオンラインデフラグが可能であること。</p> <p>カ. ファイルシステムの拡張・縮小が可能であること。</p> <p>キ. 現存するバッチプログラムを継続利用できること。</p>
		<p>●COBOLアプリケーション実行用ソフトウェア</p> <p>ア. オペレーティングシステムに依存しないCOBOL アプリケーションの可搬性を確保できること。</p> <p>イ. ハードウェア固有のネイティブコード命令を実行可能な仕組みを有すること。</p> <p>ウ. Java 及びJ2EE (Java 2 Platform, Enterprise Edition)との接続が可能であること。J2EE コンテナからのCOBOL アプリケーションへのアクセスが可能であること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>エ. Java とCOBOL の混成アプリケーションの実行が可能であること。</p> <p>オ. COBOL アプリケーションから、Web サービスへのアクセスが可能なWeb サービスクライアントを備えていること。</p> <p>カ. COBOL アプリケーションからのXML 文書の利用、作成または更新ができ、COBOLシステムとの直接のインタフェースを持たない他のアプリケーションやシステムとのデータ共有が可能であること。</p> <p>キ. GUI の管理コンソールを備えていること。</p>
		<p>●帳票アプリケーション(マネージャ)</p> <p>ア. 帳票の情報、出力先などの情報をセンターで一元管理できること。</p> <p>イ. 帳票を管理されている情報を元に出先の出力先へ配信して出力できること。</p> <p>ウ. 帳票の印刷エラー/用紙交換の自動通知ができること。</p> <p>エ. 帳票の原本保存、監査ログによる操作の追跡ができること。</p> <p>オ. Web環境での帳票閲覧・操作ができること。</p> <p>カ. 帳票をPDFに変換して保存ができること。</p> <p>キ. 詳細なプリンタエラーを別の端末に通知できること。</p> <p>ク. 帳票出力インターフェースとして、COBOLをサポートしていること。</p> <p>ケ. Windowsシステムに接続可能な全てのプリンタをサポートしていること。</p> <p>コ. マルチサーバ構成に対応していること。</p>
		<p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>ウ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p>
		<p>●バックアップソフトウェア</p> <p>ア. RDBMSに対応するデータベース エージェントが用意されていること。</p> <p>イ. SAN上の共有テープストレージに対してエージェントから直接バックアップが可能であること。</p> <p>ウ. バックアップクライアント、バックアップサーバ側でSANのバックアップが可能であること。</p>
		<p>●所在地コード</p> <p>ア. CD またはDVD に収めたテキストデータで提供されること。</p> <p>イ. 所在地を示すコードと、カナ地名、漢字地名等が関連付けられていること。</p> <p>ウ. 「都道府県」「市区町村」「町・大字・通称」「字・丁目」の4 段階に階層化されていること。</p> <p>エ. 全国地方公共団体コード(JIS X 0401、JIS X 0402)に準じ、「都道府県」については数字2 桁、「市区町村」については数字3 桁のコードで提供されること。</p> <p>オ. 「町・大字・通称」については数字3 桁、「字・丁目」については数字2 桁のコードで提供されること。</p> <p>カ. 「字・丁目」までの住所を示すレコードに加え、「市区町村」以下を省略したレコード、「町・大字・通称」以下を省略したレコード、「字・丁目」を省略したレコードが提供されること。</p> <p>キ. 7 桁の郵便番号と対応付けがなされていること。</p> <p>ク. システム切り替え時に現行システムで使用されているコードとの対応表が提供されること。</p> <p>ケ. コードに関連付けられたデータの内容に更新がある場合は、月末までの更新データを翌月に提供すること。</p> <p>コ. データの更新内容として、「新規追加」「訂正」「削除(マスタ上に残る)」「旧地名表示(マスタ上に残らない)」「復活(削除されたものを元に戻す)」の区分があること。</p> <p>サ. 市町村合併や市制変更などに伴う場合を除き、同一の地区に割り当てられるコード値は不変であること。</p> <p>シ. 市町村合併や市制変更などに伴い、同一地区に割り当てられるコード値の変更がある場合は、新旧コードの対応テーブルが提供されること。</p> <p>ス. 市町村合併や市制変更などに伴う新旧コードの対応テーブルは、実際に合併等が行われ新しいコードでの運用が開始される月の前月末までに提供されること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>セ. また、搬入するソフトウェア等に第三者が権利を有する著作物が含まれている場合は、当該著作物を次期基準労災システムで使用(二次利用、改修、翻案及び複製等)することに関して、発注者は一切の費用負担を必要としないものとする。また必要な手続き等はすべて受注者が行うこと。</p>
6.1	2	<p>■基準労災APサーバ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●オペレーティングシステム(OS) <ul style="list-style-type: none"> ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。 イ. IEEE 1003.1-1996及びIEEE 1003.2-1992に準拠していること。 ウ. 扱える物理メモリの最大容量が1,152GBであること。 エ. OSレベルでパーティション機能を有すること。 オ. RBAC(Role Based Access Control/ロールベースでのアクセス制御管理)機能を有していること。 カ. HTTP、FTP、TELNET、DNS、NTP、DHCP、SNMP、LDAP、SMTP、NISのインターネット標準に準拠していること。 キ. システムに関連した問題をシステムの停止なしに、リアルタイムで問題解決できること。 ク. CPU、メモリ、I/Oシステムの監視及び診断を行い、障害リソースを自動的にオフライン化できる予測的自己修復機能を有すること。 ケ. I18nによる国際化、L10Nによる地域化による英語化、日本語化を実装すること。 コ. ネットワーク仮名漢字変換システムを実装すること。 サ. サーバシステムで採用するOSについては極力統一を図ることとし、システムメンテナンス性を確保すること。 シ. ソフトウェア構築上のソフトウェア製品等のプラットフォームについて極力統一し、システムメンテナンス性を確保すること。 ス. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。 セ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。 ソ. 稼働中のシステムを動作させたまま、ブート環境のコピーを作成したり、コピー環境にパッチを適用したりできる機能を有していること。 タ. レプリケーション機能、スナップショット、クローン、クォータを有したボリューム管理機能を備えていること。 ●コネクションプール用ソフトウェア <ul style="list-style-type: none"> ア. クライアントとなるアプリケーションは、データベースサーバ障害時のフェールオーバーを意識することなく、データベースアクセスを行うことができること。 イ. サーバのバックアップを行う際などに、クライアントとなるアプリケーションの接続先を簡単に切替えることができること。 ウ. Transact-SQL が利用可能であること。 エ. クライアントアプリケーションからデータベースアクセス用のAPI としてODBC、OLEDB、JDBC 等が利用できること。 ●帳票アプリケーション(コネクタ) <ul style="list-style-type: none"> ア. 圧縮送信が可能であること。 イ. PDF などの電子帳票化が可能であること。 ウ. ユーザごとの帳票アクセス権限を管理できること。 エ. 一次元バーコードを生成できること。 オ. 帳票アプリケーションと連携して、分散帳票出力が可能であること。 ●エージェントソフトウェア <ul style="list-style-type: none"> ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。 イ. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。 ウ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。 ●アプリケーションサーバ <ul style="list-style-type: none"> ア. J2EE 1.4 以降の仕様をサポートしていること。 イ. JDK1.4.2_10 以降、JDK1.5.0_04 以降上で動作すること。 ウ. 静的コンテンツだけでなく、動的コンテンツをキャッシュする機能及び各サーバ間の通信でもロードバランシングが設定可能であること。

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>エ. データベースサーバに対してJDBC 等を用いたコネクションプール機能を有していること。</p> <p>オ. IPv6をサポートしていること。</p> <p>カ. 業務を停止せずにアプリケーションの追加・削除・修正が行えること。</p> <p>キ. データベースサーバに対する負荷分散と障害時のフェイルオーバー機能を有していること。</p> <p>ク. 障害時の自動的な情報収集の機能を有していること。</p>
6.1	3	<p>■帳票サーバ</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. IEEE 1003.1-1996及びIEEE 1003.2-1992に準拠していること。</p> <p>ウ. 統合サーバでは、15サーバ(30CPU)を統合することを想定しており、将来の拡張分と合わせて、40基以上のCPUをサポートすることが可能なOSであること。</p> <p>エ. 扱える物理メモリの最大容量が1,152GBであること。</p> <p>オ. OSレベルでパーティション機能を有すること。</p> <p>カ. RBAC(Role Based Access Control/ロールベースでのアクセス制御管理)機能を有していること。</p> <p>キ. HTTP、FTP、TELNET、DNS、NTP、DHCP、SNMP、LDAP、SMTP、NISのインターネット標準に準拠していること。</p> <p>ク. システムに関連した問題をシステムの停止なしに、リアルタイムで問題解決できること。</p> <p>ケ. CPU、メモリ、I/Oシステムの監視及び診断を行い、障害リソースを自動的にオフライン化できる予測的自己修復機能を有すること。</p> <p>コ. I18nによる国際化、L10Nによる地域化による英語化、日本語化を実装すること。</p> <p>サ. ネットワーク仮名漢字変換システムを実装すること。</p> <p>シ. サーバシステムで採用するOSについては極力統一を図ることとし、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>ス. ソフトウェア構築上のソフトウェア製品等のプラットフォームについて極力統一し、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>セ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>ソ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>タ. 稼働中のシステムを動作させたまま、ブート環境のコピーを作成したり、コピー環境にパッチを適用したりできる機能を有していること。</p> <p>チ. レプリケーション機能、スナップショット、クローン、クォータを有したボリューム管理機能を備えていること。</p> <p>●帳票アプリケーション</p> <p>ア. 圧縮送信が可能であること。</p> <p>イ. PDFなどの電子帳票化が可能であること。</p> <p>ウ. ユーザごとの帳票アクセス権限を管理できること。</p> <p>エ. 一次元バーコードを生成できること。</p> <p>オ. 論理データでの圧縮転送により、データ転送量が1/50になること。</p> <p>カ. 次のアプリケーションインターフェースを標準サポートしていること。 コマンド/Java/.NET/カスタムコントロール(COX)/COBOL/CFX/SAP R/3 RDI連携/Oracle EBS連携/帳票Webサービス</p> <p>キ. 標準で、Excel、PDF出力をサポートしていること。</p> <p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>ウ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p>
6.1	4	<p>■申請受理サーバ</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>イ. IEEE 1003.1-1996及びIEEE 1003.2-1992に準拠していること。</p> <p>ウ. 統合サーバでは、15サーバ(30CPU)を統合することを想定しており、将来の拡張分と合わせて、40基以上のCPUをサポートすることが可能なOSであること。</p> <p>エ. 扱える物理メモリの最大容量が1,152GBであること。</p> <p>オ. OSレベルでパーティション機能を有すること。</p> <p>カ. RBAC(Role Based Access Control/ロールベースでのアクセス制御管理)機能を有していること。</p> <p>キ. HTTP、FTP、TELNET、DNS、NTP、DHCP、SNMP、LDAP、SMTP、NISのインターネット標準に準拠していること。</p> <p>ク. システムに関連した問題をシステムの停止なしに、リアルタイムで問題解決できること。</p> <p>ケ. CPU、メモリ、I/Oシステムの監視及び診断を行い、障害リソースを自動的にオフライン化できる予測的自己修復機能を有すること。</p> <p>コ. I18nによる国際化、L10Nによる地域化による英語化、日本語化を実装すること。</p> <p>サ. ネットワーク仮名漢字変換システムを実装すること。</p> <p>シ. サーバシステムで採用するOSについては極力統一を図ることとし、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>ス. ソフトウェア構築上のソフトウェア製品等のプラットフォームについて極力統一し、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>セ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>ソ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>タ. 稼働中のシステムを動作させたまま、ブート環境のコピーを作成したり、コピー環境にパッチを適用したりできる機能を有していること。</p> <p>チ. レプリケーション機能、スナップショット、クローン、クォータを有したボリューム管理機能を備えていること。</p>
		<p>●メッセージキューイングシステム</p> <p>ア. 汎用受付システムとの電子申請データの送受信に使用するため、汎用受付システム指定のIBM WebSphere MQ とする。バージョンは汎用受付システムの仕様に合わせてのこと。</p>
		<p>●クラスタソフトウェア</p> <p>ア. 3ノード以上のクラスタ構成をサポートできること。</p> <p>イ. 稼働待機構成以外に、複数の稼働系に対して1台に待機系(N:1)、あるいはすべて稼働系(N:N)といった柔軟なクラスタ構成が可能であること。</p> <p>ウ. アプリケーション単位に柔軟に最適なサーバに処理を引き継ぐことが可能であること。</p> <p>エ. 複数サービスを連動したサービス切り替えが可能であること。たとえば、Web サーバは DB サーバが必要であるとサービス間で依存関係を定義した場合、Web アプリケーションサーバが DB サーバの起動を待ってから起動し、DB サーバで障害を検出した場合には Web アプリケーションサーバも切り替えるといった運用が可能である等。</p>
		<p>●ボリューム管理ソフトウェア</p> <p>ア. ノード間での排他制御機能を有すること。</p> <p>イ. パスのマネージメント機能を有すること。</p> <p>ウ. ストレージ筐体をまたいだRAIDが構成できること。</p> <p>エ. ファイルシステムと連携した書き込みが可能であること。</p> <p>オ. ファイルシステムのオンラインデフラグが可能であること。</p> <p>カ. ファイルシステムの拡張・縮小が可能であること。</p> <p>キ. 現存するパッチプログラムを継続利用できること。</p>
		<p>●RDBMS</p> <p>ア. SQL 92以降に準拠していること。</p> <p>イ. 64bit対応していること。</p> <p>ウ. 1データベースあたり20TB以上で作成できること。</p> <p>エ. 物理デバイスが10,000以上作成できること。物理デバイスとしてローデバイスを指定できること。また、ファイルシステム上に物理デバイスを配置して利用する場合、ハードディスクへの書き込みを保証できること。</p> <p>オ. 1物理デバイスが2TB以上で作成できること。</p> <p>カ. ページサイズを2KB、4KB、8KB、16KBから選択できること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>キ. データベースサーバにて格納データに対する暗号化をサポートしていること。なお、暗号化の対象をデータベース単位、カラム単位で行えること。</p> <p>ク. SSL等の暗号化通信をサポートしていること。</p> <p>ケ. データベースサーバへのアクセス権限管理にはロールベースのものを利用できること。</p> <p>コ. ストアド・プロシージャが利用可能であること。</p> <p>サ. クラスタソフトウェアと連動し、起動・停止を自動化できること。また、障害発生時には自動的に系切り替えができること。</p> <p>シ. パーティション機能を有すること。パーティションの種類を複数選択できること。</p> <p>ス. クライアントアプリケーションからデータベースアクセス用のAPIとしてODBC、OLEDB、JDBC 等が利用できること。</p> <p>セ. SQL文のトレース等の監査ができること。ただし、RDBMSへの負荷を可能な限り小さくすること。</p> <p>ソ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>タ. データベース・ファイルを多重化する機能を自身に備えていること。</p> <p>チ. 行レベルロックをサポートし、ページ単位や表単位にエスカレートしない仕組みであること。</p> <p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>ウ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>●アプリケーションサーバ</p> <p>ア. J2EE 1.4 以降の仕様をサポートしていること。</p> <p>イ. JDK1.4.2_10 以降、JDK1.5.0.04 以降上で動作すること。</p> <p>ウ. 静的コンテンツだけでなく、動的コンテンツをキャッシュする機能及び各サーバ間の通信でもロード・バランシングが設定可能であること。</p> <p>エ. データベースサーバに対してJDBC 等を用いたコネクションプール機能を有していること。</p> <p>オ. IPv6をサポートしていること。</p> <p>カ. 業務を停止せずにアプリケーションの追加・削除・修正が行えること。</p> <p>キ. データベースサーバに対する負荷分散と障害時のフェイルオーバー機能を有していること。</p> <p>ク. 障害時の自動的な情報収集の機能を有していること。</p> <p>●アンチウイルス</p> <p>ア. アプリケーションサーバ上の業務アプリケーションから、任意のタイミングにて指定するファイルに対してウイルスの検知を行い、駆除する機能を有すること。</p> <p>イ. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。</p> <p>ウ. 1つのライセンスで複数のOS (Windows、UNIX) に対応できること。</p> <p>エ. 複数のOS (Windows、UNIX) を一元的に管理できるコンソールを有すること。</p> <p>オ. 1つのライセンスでデータ流出を防ぐデバイス制御機能を有すること。</p>
6.1	5	<p>■原本管理サーバ</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. IEEE 1003.1-1996及びIEEE 1003.2-1992に準拠していること。</p> <p>ウ. 統合サーバでは、15サーバ(30CPU)を統合することを想定しており、将来の拡張分と合わせて、40基以上のCPUをサポートすることが可能なOSであること。</p> <p>エ. 扱える物理メモリの最大容量が1,152GBであること。</p> <p>オ. OSレベルでパーティション機能を有すること。</p> <p>カ. RBAC (Role Based Access Control/ロールベースでのアクセス制御管理) 機能を有していること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>キ. HTTP、FTP、TELNET、DNS、NTP、DHCP、SNMP、LDAP、SMTP、NISのインターネット標準に準拠していること。</p> <p>ク. システムに関連した問題をシステムの停止なしに、リアルタイムで問題解決できること。</p> <p>ケ. CPU、メモリ、I/Oシステムの監視及び診断を行い、障害リソースを自動的にオフライン化できる予測的自己修復機能を有すること。</p> <p>コ. I18nによる国際化、L10Nによる地域化による英語化、日本語化を実装すること。</p> <p>サ. ネットワーク仮名漢字変換システムを実装すること。</p> <p>シ. サーバシステムで採用するOSについては極力統一を図ることとし、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>ス. ソフトウェア構築上のソフトウェア製品等のプラットフォームについて極力統一し、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>セ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>ソ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>タ. 稼働中のシステムを動作させたまま、ブート環境のコピーを作成したり、コピー環境にパッチを適用したりできる機能を有していること。</p> <p>チ. レプリケーション機能、スナップショット、クローン、クォータを有したボリューム管理機能を備えていること。</p>
		<p>●メッセージキューイングシステム</p> <p>ア. 汎用受付システムとの電子申請データの送受信に使用するため、汎用受付システム指定のIBM WebSphere MQ とする。バージョンは汎用受付システムの仕様に合わせてのこと。</p>
		<p>●RDBMS</p> <p>ア. SQL 92以降に準拠していること。</p> <p>イ. 64bit対応していること。</p> <p>ウ. 1データベースあたり20TB以上で作成できること。</p> <p>エ. 物理デバイスが10,000以上作成できること。物理デバイスとしてローデバイス指定できること。また、ファイルシステム上に物理デバイスを配置して利用する場合、ハードディスクへの書き込みを保証できること。</p> <p>オ. 1物理デバイスが2TB以上で作成できること。</p> <p>カ. ページサイズを2KB、4KB、8KB、16KBから選択できること。</p> <p>キ. データベースサーバにて格納データに対する暗号化をサポートしていること。なお、暗号化の対象をデータベース単位、カラム単位で行えること。</p> <p>ク. SSL等の暗号化通信をサポートしていること。</p> <p>ケ. データベースサーバへのアクセス権限管理にはロールベースのものを利用できること。</p> <p>コ. スタアド・プロシージャが利用可能であること。</p> <p>サ. クラスタソフトウェアと連動し、起動・停止を自動化できること。また、障害発生時には自動的に系切り替えができること。</p> <p>シ. パーティション機能を有すること。パーティションの種類を複数選択できること。</p> <p>ス. クライアントアプリケーションからデータベースアクセス用のAPIが利用できること。</p> <p>セ. SQL文のトレース等の監査ができること。ただし、RDBMSへの負荷を可能な限り小さくすること。</p> <p>ソ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>タ. データベース・ファイルを多重化する機能を自身に備えていること。</p> <p>チ. 行レベルロックをサポートし、ページ単位や表単位にエスカレートしない仕組みであること。</p>
		<p>●クラスタソフトウェア</p> <p>ア. 3ノード以上のクラスタ構成をサポートできること。</p> <p>イ. 稼働待機構成以外に、複数の稼働系に対して1台に待機系(N:1)、あるいはすべて稼働系(N:N)といった柔軟なクラスタ構成が可能であること。</p> <p>ウ. アプリケーション単位に柔軟に最適なサーバに処理を引き継ぐことが可能であること。</p> <p>エ. 複数サービスを連動したサービス切り替えが可能であること。たとえば、Web サーバは DB サーバが必要であるとサービス間で依存関係を定義した場合、Web アプリケーションサーバが DB サーバの起動を待ってから起動し、DB サーバで障害を検出した場合には Web アプリケーションサーバも切り替えるといった運用が可能である等。</p> <p>オ. RDBMSに対応したエージェント(起動・停止・系切り替え等の処理を行う)を有すること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>カ. Quorumサーバとして構成したサーバを、共有ディスクの代わりにQuorumデバイスとして構成できること。</p> <p>キ. 全クラスタノードに対して、一度に同じコマンドを実行するためのユーティリティを備えていること。</p> <p>●ボリューム管理ソフトウェア</p> <p>ア. ノード間での排他制御機能を有すること。</p> <p>イ. パスのマネージメント機能を有すること。</p> <p>ウ. ストレージ筐体をまたいだRAIDが構成できること。</p> <p>エ. ファイルシステムと連携した書き込みが可能であること。</p> <p>オ. ファイルシステムのオンラインデフラグが可能であること。</p> <p>カ. ファイルシステムの拡張・縮小が可能であること。</p> <p>キ. 現存するパッチプログラムを継続利用できること。</p> <p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>ウ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>●バックアップソフトウェア</p> <p>ア. RDBMSに対応するデータベース エージェントが用意されていること。</p> <p>イ. SAN上の共有テープストレージに対してエージェントから直接バックアップが可能であること。</p> <p>ウ. バックアップクライアント、バックアップサーバ側でSANのバックアップが可能であること。</p> <p>●アプリケーションサーバ</p> <p>ア. J2EE 1.4 以降の仕様をサポートしていること。</p> <p>イ. JDK1.4.2_10 以降、JDK1.5.0_04 以降上で動作すること。</p> <p>ウ. 静的コンテンツだけでなく、動的コンテンツをキャッシュする機能及び各サーバ間の通信でもロード・バランシングが設定可能であること。</p> <p>エ. データベースサーバに対してJDBC 等を用いた接続プール機能を有していること。</p> <p>オ. IPv6をサポートしていること。</p> <p>カ. 業務を停止せずにアプリケーションの追加・削除・修正が行えること。</p> <p>キ. データベースサーバに対する負荷分散と障害時のフェイルオーバー機能を有していること。</p> <p>ク. 障害時の自動的な情報収集の機能を有していること。</p> <p>●アンチウイルス</p> <p>ア. アプリケーションサーバ上の業務アプリケーションから、任意のタイミングにて指定するファイルに対してウイルスの検知を行い、駆除する機能を有すること。</p> <p>イ. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。</p> <p>ウ. 1つのライセンスで複数のOS (Windows、UNIX) に対応できること。</p> <p>エ. 複数のOS (Windows、UNIX) を一元的に管理できるコンソールを有すること。</p> <p>オ. 1つのライセンスでデータ流出を防ぐデバイス制御機能を有すること。</p>
6.1	6	<p>■審査状況管理サーバ</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. IEEE 1003.1-1996及びIEEE 1003.2-1992に準拠していること。</p> <p>ウ. 統合サーバでは、15サーバ(30CPU)を統合することを想定しており、将来の拡張分と合わせて、40基以上のCPUをサポートすることが可能なOSであること。</p> <p>エ. 扱える物理メモリの最大容量が1,152GBであること。</p> <p>オ. OSレベルでパーティション機能を有すること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>カ. RBAC (Role Based Access Control / ロールベースでのアクセス制御管理) 機能を有していること。</p> <p>キ. HTTP、FTP、TELNET、DNS、NTP、DHCP、SNMP、LDAP、SMTP、NISのインターネット標準に準拠していること。</p> <p>ク. システムに関連した問題をシステムの停止なしに、リアルタイムで問題解決できること。</p> <p>ケ. CPU、メモリ、I/Oシステムの監視及び診断を行い、障害リソースを自動的にオフライン化できる予測的自己修復機能を有すること。</p> <p>コ. I18nによる国際化、L10Nによる地域化による英語化、日本語化を実装すること。</p> <p>サ. ネットワーク仮名漢字変換システムを実装すること。</p> <p>シ. サーバシステムで採用するOSについては極力統一を図ることとし、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>ス. ソフトウェア構築上のソフトウェア製品等のプラットフォームについて極力統一し、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>セ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>ソ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>タ. 稼働中のシステムを動作させたまま、ブート環境のコピーを作成したり、コピー環境にパッチを適用したりできる機能を有していること。</p> <p>チ. レプリケーション機能、スナップショット、クローン、クォータを有したボリューム管理機能を備えていること。</p>
		<p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>ウ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p>
		<p>●アプリケーションサーバ</p> <p>ア. J2EE 1.4 以降の仕様をサポートしていること。</p> <p>イ. JDK1.4.2_10 以降、JDK1.5.0_04 以降上で動作すること。</p> <p>ウ. 静的コンテンツだけでなく、動的コンテンツをキャッシュする機能及び各サーバ間の通信でもロード・バランシングが設定可能であること。</p> <p>エ. データベースサーバに対してJDBC 等を用いたコネクションプール機能を有していること。</p> <p>オ. IPv6をサポートしていること。</p> <p>カ. 業務を停止せずにアプリケーションの追加・削除・修正が行えること。</p> <p>キ. データベースサーバに対する負荷分散と障害時のフェイルオーバー機能を有していること。</p> <p>ク. 障害時の自動的な情報収集の機能を有していること。</p>
6.1	7	<p>■グループウェアサーバ</p> <p>◆グループウェアサーバ(メールストア)</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. IEEE 1003.1-1996及びIEEE 1003.2-1992に準拠していること。</p> <p>ウ. 統合サーバでは、15サーバ(30CPU)を統合することを想定しており、将来の拡張分と合わせて、40基以上のCPUをサポートすることが可能なOSであること。</p> <p>エ. 扱える物理メモリの最大容量が1,152GBであること。</p> <p>オ. OSレベルでパーティション機能を有すること。</p> <p>カ. RBAC (Role Based Access Control / ロールベースでのアクセス制御管理) 機能を有していること。</p> <p>キ. HTTP、FTP、TELNET、DNS、NTP、DHCP、SNMP、LDAP、SMTP、NISのインターネット標準に準拠していること。</p> <p>ク. システムに関連した問題をシステムの停止なしに、リアルタイムで問題解決できること。</p> <p>ケ. CPU、メモリ、I/Oシステムの監視及び診断を行い、障害リソースを自動的にオフライン化できる予測的自己修復機能を有すること。</p> <p>コ. I18nによる国際化、L10Nによる地域化による英語化、日本語化を実装すること。</p> <p>サ. ネットワーク仮名漢字変換システムを実装すること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		シ. サーバシステムで採用するOSについては極力統一を図ることとし、システムメンテナンス性を確保すること。
		ス. ソフトウェア構築上のソフトウェア製品等のプラットフォームについて極力統一し、システムメンテナンス性を確保すること。
		セ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。
		ソ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。
		タ. 稼働中のシステムを動作させたまま、ブート環境のコピーを作成したり、コピー環境にパッチを適用したりできる機能を有していること。
		チ. レプリケーション機能、スナップショット、クローン、クォータを有したボリューム管理機能を備えていること。
		●クラスタソフトウェア
		ア. 3ノード以上のクラスタ構成をサポートできること。
		イ. 稼働待機構成以外に、複数の稼働系に対して1台に待機系(N:1)、あるいはすべて稼働系(N:N)といった柔軟なクラスタ構成が可能であること。
		ウ. アプリケーション単位に柔軟に最適なサーバに処理を引き継ぐことが可能であること。
		エ. 複数サービスを連動したサービス切り替えが可能であること。たとえば、Web サーバは DB サーバが必要であるとサービス間で依存関係を定義した場合、Web アプリケーションサーバが DB サーバの起動を待ってから起動し、DB サーバで障害を検出した場合には Web アプリケーションサーバも切り替えるといった運用が可能である等。
		オ. RDBMSに対応したエージェント(起動・停止・系切り替え等の処理を行う)を有すること。
		カ. Quorumサーバとして構成したサーバを、共有ディスクの代わりにQuorumデバイスとして構成できること。
		キ. 全クラスタノードに対して、一度に同じコマンドを実行するためのユーティリティを備えていること。
		●ボリューム管理ソフトウェア
		ア. ノード間での排他制御機能を有すること。
		イ. パスのマネージメント機能を有すること。
		ウ. ストレージ筐体をまたいだRAIDが構成できること。
		エ. ファイルシステムと連携した書き込みが可能であること。
		オ. ファイルシステムのオンラインデフラグが可能であること。
		カ. ファイルシステムの拡張・縮小が可能であること。
		キ. 現存するバッチプログラムを継続利用できること。
		●エージェントソフトウェア
		ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。
		イ. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。
		ウ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。
		●メールサーバ
		ア. 送受信される1通あたりの電子メールのサイズ制限を設定できること。
		イ. 電子メールへのファイル添付ができること。
		ウ. メールボックス単位で容量制限が行えること。
		エ. 受信した電子メールに対して迷惑メールを自動的に判別できること。
		オ. 自分宛の電子メールを許可された指定の電子メールアドレス宛てへ再送信する転送機能を有すること。
		カ. SMTP (Simple Mail Transfer Protocol)、POP3 (Post Office Protocol3)、IMAP4 (Internet Mail Access Protocol4)、HTTP、HTTPS、HTML、MIME、SMTP Authentication、LDAPに対応していること。
		キ. ユーザに割り当てたメールボックスサイズに対して、指定の量(%)を超えた場合に指定した期間より前のメールを削除すること。
		ク. ポリシー強制ルールの適用対象はユーザ単位、グループ単位で設定可能であること。
		ケ. 適用対象を限定して不適切な通信を防止するルールを作成することができること。
		コ. メールボックス数として13,000を確保できること。また将来ユーザー数がさらに増加した場合にも対応可能な拡張性を有すること。

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>サ. サーバが外部からメッセージを受け付ける前にディレクトリ検索を実施し、ディレクトリに登録されていないユーザー(退職した社員や架空のアドレスなど)へのメールは拒否できること。</p> <p>シ. クラスタによる冗長化構成がとれること。</p> <p>ス. アカウント管理用にWebGUIツールが用意されていること。また、あわせてコマンドラインツールも提供されること。</p> <p>セ. 利用可能なサービス(POP、IMAP等)の制限をユーザ単位でかけられること。またユーザ単位での制限はIPベースでの制限も設定できること。</p> <p>ソ. サーバ側で定義したポリシーにより、不要なメールを自動的に削除できること。</p> <p>タ. マルチドメインがサポートされていること。</p> <p>チ. 容量制限実施時、メールボックスの使用量が一定の閾値を超えた場合ユーザに通知できること。</p> <p>ツ. Quota Overしたユーザ宛のメールをキューに保持できること。また、Quota Overしたメールのキューへの保持期間を指定できること。</p> <p>テ. 現存するメールデータを全て次期環境に移管できること。</p>
		<p>◆グループウェアサーバ(メールアーカイブ)</p>
		<p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. IEEE 1003.1-1996及びIEEE 1003.2-1992に準拠していること。</p> <p>ウ. 統合サーバでは、15サーバ(30CPU)を統合することを想定しており、将来の拡張分と合わせて、40基以上のCPUをサポートすることが可能なOSであること。</p> <p>エ. 扱える物理メモリの最大容量が1,152GBであること。</p> <p>オ. OSレベルでパーティション機能を有すること。</p> <p>カ. RBAC(Role Based Access Control/ロールベースでのアクセス制御管理)機能を有していること。</p> <p>キ. HTTP、FTP、TELNET、DNS、NTP、DHCP、SNMP、LDAP、SMTP、NISのインターネット標準に準拠していること。</p> <p>ク. システムに関連した問題をシステムの停止なしに、リアルタイムで問題解決できること。</p> <p>ケ. CPU、メモリ、I/Oシステムの監視及び診断を行い、障害リソースを自動的にオフライン化できる予測的自己修復機能を有すること。</p> <p>コ. I18nによる国際化、L10Nによる地域化による英語化、日本語化を実装すること。</p> <p>サ. ネットワーク仮名漢字変換システムを実装すること。</p> <p>シ. サーバシステムで採用するOSについては極力統一を図ることとし、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>ス. ソフトウェア構築上のソフトウェア製品等のプラットフォームについて極力統一し、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>セ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>ソ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>タ. 稼働中のシステムを動作させたまま、ブート環境のコピーを作成したり、コピー環境にパッチを適用したりできる機能を有していること。</p> <p>チ. レプリケーション機能、スナップショット、クローン、クォータを有したボリューム管理機能を備えていること。</p>
		<p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>ウ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p>
		<p>●メーリングリスト</p> <p>ア. メーリングリストの設定を行うことができること。</p> <p>イ. 過去の投稿メールの取り寄せを容易に行うことができること。また、HTML形式で閲覧可能であること。</p> <p>ウ. リストへの登録人数の制限設定が可能であること。</p>
		<p>●メール管理・監査(メールアーカイブ)</p> <p>ア. テラバイトサイズのメールアーカイブから高速に検索することのできる検索エンジンを備えていること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>イ. 演算子を使用した条件式検索、データベースからの直接検索が可能であること。</p> <p>ウ. システムの故障、過失などで消失したメールをアーカイブされたメールデータから復元することができること。</p> <p>エ. 多数のキーワードをキーワードグループとして1つのフィルタに設定でき、フィルタの数が無制限に増えるのを防止できること。</p> <p>オ. コンテンツタイプ、送信メールソフト名(X-Mailer)、添付ファイル名、差出人、宛先、表題、本文及び添付ファイル内のテキストに対してフィルタ条件を設定できる機能を提供すること。</p> <p>カ. フィルタが検出したメールのその後の処理、通知メールの送付などを設定できること。</p> <p>キ. 保留されたメール、削除されたメールは管理者が内容を確認し、その後の処理を、配送、返送、削除、転送から選択できること。</p> <p>ク. コンテンツをチェックして不適切なコンテンツをフィルタリング可能であること。</p> <p>ケ. ファイル拡張子のみでなくファイルタイプに基づいて不要または有害なファイルをブロック可能であること。</p>
		<p>●アプリケーションサーバ</p> <p>ア. 蓄積されたHTML文書や画像等のファイルを、Webブラウザ等の端末ソフトウェアからの要求に応じてHTTP1.1対応の手順で送信可能であること。</p> <p>イ. HTTPS接続に対応可能であること。</p> <p>ウ. 仮想ホスト、ソフトウェアロードバランシング機能を有すること。</p> <p>エ. コンテンツへのアクセス記録、エラー記録等の記録をcombined形式、common形式等の標準的な書式で保管可能であること。</p> <p>オ. アクセスもとのマシン名とともに、アクセスしたコンテンツの内容を記録・保管可能であること。</p> <p>カ. 保管に当たっては、外部補助記録媒体への保管が可能であること。</p> <p>キ. ディレクトリ単位でのアクセス制限を定義可能であること。</p>
		<p>◆グループウェアサーバ(データストア)</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. IEEE 1003.1-1996及びIEEE 1003.2-1992に準拠していること。</p> <p>ウ. 統合サーバでは、15サーバ(30CPU)を統合することを想定しており、将来の拡張分と合わせて、40基以上のCPUをサポートすることが可能なOSであること。</p> <p>エ. 扱える物理メモリの最大容量が1,152GBであること。</p> <p>オ. OSレベルでパーティション機能を有すること。</p> <p>カ. RBAC(Role Based Access Control/ロールベースでのアクセス制御管理)機能を有していること。</p> <p>キ. HTTP、FTP、TELNET、DNS、NTP、DHCP、SNMP、LDAP、SMTP、NISのインターネット標準に準拠していること。</p> <p>ク. システムに関連した問題をシステムの停止なしに、リアルタイムで問題解決できること。</p> <p>ケ. CPU、メモリ、I/Oシステムの監視及び診断を行い、障害リソースを自動的にオフライン化できる予測的自己修復機能を有すること。</p> <p>コ. I18nによる国際化、L10Nによる地域化による英語化、日本語化を実装すること。</p> <p>サ. ネットワーク仮名漢字変換システムを実装すること。</p> <p>シ. サーバシステムで採用するOSについては極力統一を図ることとし、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>ス. ソフトウェア構築上のソフトウェア製品等のプラットフォームについて極力統一し、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>セ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>ソ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>タ. 稼働中のシステムを動作させたまま、ブート環境のコピーを作成したり、コピー環境にパッチを適用したりできる機能を有していること。</p> <p>チ. レプリケーション機能、スナップショット、クローン、クォータを有したボリューム管理機能を備えていること。</p>
		<p>●RDBMS</p> <p>ア. グループウェアパッケージが指定、推奨するRDBMSとする。</p>
		<p>●クラスタソフトウェア</p> <p>ア. 3ノード以上のクラスタ構成をサポートできること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>イ. 稼働待機構成以外に、複数の稼働系に対して1台に待機系(N:1)、あるいはすべて稼働系(N:N)といった柔軟なクラスタ構成が可能であること。</p> <p>ウ. アプリケーション単位に柔軟に最適なサーバに処理を引き継ぐことが可能であること。</p> <p>エ. 複数サービスを連動したサービス切り替えが可能であること。たとえば、Web サーバは DB サーバが必要であるとサービス間で依存関係を定義した場合、Web アプリケーションサーバが DB サーバの起動を待ってから起動し、DB サーバで障害を検出した場合には Web アプリケーションサーバも切り替えるといった運用が可能である等。</p> <p>オ. RDBMSに対応したエージェント(起動・停止・系切り替え等の処理を行う)を有すること。</p> <p>カ. Quorumサーバとして構成したサーバを、共有ディスクの代わりにQuorumデバイスとして構成できること。</p> <p>キ. 全クラスターノードに対して、一度に同じコマンドを実行するためのユーティリティを備えていること。</p> <p>●ボリューム管理ソフトウェア</p> <p>ア. ノード間での排他制御機能を有すること。</p> <p>イ. パスのマネージメント機能を有すること。</p> <p>ウ. ストレージ筐体をまたいだRAIDが構成できること。</p> <p>エ. ファイルシステムと連携した書き込みが可能であること。</p> <p>オ. ファイルシステムのオンラインデフラグが可能であること。</p> <p>カ. ファイルシステムの拡張・縮小が可能であること。</p> <p>キ. 現存するパッチプログラムを継続利用できること。</p> <p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>ウ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>●バックアップソフトウェア</p> <p>ア. エージェントを配置しネットワークを経由してマネージャにバックアップデータを転送可能であること。</p> <p>イ. RAWデバイスのバックアップから、個別のファイルがリストアできること。</p>
6.1	8	<p>■研修サーバ</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. IEEE 1003.1-1996及びIEEE 1003.2-1992に準拠していること。</p> <p>ウ. 扱える物理メモリの最大容量が1,152GBであること。</p> <p>エ. OSレベルでパーティション機能を有すること。</p> <p>オ. RBAC(Role Based Access Control/ロールベースでのアクセス制御管理)機能を有していること。</p> <p>カ. HTTP、FTP、TELNET、DNS、NTP、DHCP、SNMP、LDAP、SMTP、NISのインターネット標準に準拠していること。</p> <p>キ. システムに関連した問題をシステムの停止なしに、リアルタイムで問題解決できること。</p> <p>ク. CPU、メモリ、I/Oシステムの監視及び診断を行い、障害リソースを自動的にオフライン化できる予測的自己修復機能を有すること。</p> <p>ケ. I18nによる国際化、L10Nによる地域化による英語化、日本語化を実装すること。</p> <p>コ. ネットワーク仮名漢字変換システムを実装すること。</p> <p>サ. サーバシステムで採用するOSについては極力統一を図ることとし、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>シ. ソフトウェア構築上のソフトウェア製品等のプラットフォームについて極力統一し、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>ス. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>セ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>ソ. 稼働中のシステムを動作させたまま、ブート環境のコピーを作成したり、コピー環境にパッチを適用したりできる機能を有していること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>タ. レプリケーション機能、スナップショット、クローン、クォータを有したボリューム管理機能を備えていること。</p>
		<p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>ウ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p>
		<p>●グループウェア</p> <p>ア. 予定管理機能、設備予約管理機能として以下を有すること。 (ア) 予定は同一時間帯に重複して作成できること。 ただし、重複していることがわかるように表示されること。 (イ) 個人の予定だけでなく、会議等のグループの予定も作成できること。 なお、作成したスケジュールを他の職員に対して通知できること。 (ウ) 個人の予定とグループのスケジュールが連携、同期されること。 (エ) 会議等の予定作成時に出席者の複数メンバーに対して空き時間を検索できること。 (オ) 自分に対して予定が予約された職員は、承認、非承認、保留ができること。 また、空き時間検索時には設備や備品も併せて対象とできること。 なお、設備等については各局署のスケジュール管理者が管理できるようにすること。 (カ) 休日情報を登録し、各職員に対して自動的に反映されること。 (キ) 個人の予定が日別、週別、月別でリスト表示ができること。 (ク) 繰り返しの予定を作成できること。 (ケ) 個人の予定の詳細を任意に他の職員に公開できること。</p> <p>イ. メンテナンス、カスタマイズ機能として以下を有すること。 (ア) 設備、備品等の登録・変更・削除ができること。 (イ) 登録された設備、備品に対して付属設備を登録できること。 (ウ) 該当職員に代わって予定設定等が行える、代替設定者を指定できること。 (エ) 行先・区分の設定ができること。 (オ) 上記の設定を行った後は、該当局署の職員にその設定が自動的に反映されること。</p> <p>ウ. 電子掲示板機能として以下を有すること。 (ア) 電子掲示板メニュー選択時は電子掲示板フォルダの一覧を、また、任意の電子掲示板フォルダの選択時はその中に登録されている掲示文書の一覧を表示できること。 (イ) 掲載期間及び掲示する日時を指定できること。 また、指定日時前であれば掲示を取り消すことができること。 (ウ) 掲載期間を超えた掲示文書を自動削除する機能を有すること。 (エ) 電子掲示板ごとに容量制限を行えること。 (オ) 容量が指定されたサイズに達した場合、システム管理者に警告を発することができること。 (カ) 一覧表示された参照可能な掲示文書の未読／既読の区別ができること。 (キ) 参照可能な掲示文書において、クリック可能なURLをサポートしていること。 (ク) 掲示文書には当システムで指定する外字が使用できること。 (ケ) 新規投稿または編集時には、職員ポータル等へ新着情報として通知・掲載できること。 (コ) 電子掲示板ごとに、開示範囲を指定可能なこと。 (サ) 電子掲示板の掲示板数として、300以上保持可能なこと。</p> <p>エ. プログラムソースが公開されていること。</p> <p>オ. 電子掲示板ごとに、管理者権限を付与できること。</p> <p>カ. 施設グループの設定ができ、ユーザごとにデフォルト表示グループを設定できること。</p> <p>キ. 現存する施設情報、掲示板などの登録情報を全て次期環境に移管できること。</p>
		<p>●メールサーバ</p> <p>ア. 送受信される1通あたりの電子メールのサイズ制限を設定できること。</p> <p>イ. 電子メールへのファイル添付ができること。</p> <p>ウ. メールボックス単位で容量制限が行えること。</p> <p>エ. 受信した電子メールに対して迷惑メールを自動的に判別できること。</p> <p>オ. 自分宛の電子メールを許可された指定の電子メールアドレス宛てへ再送信する転送機能を有すること。</p> <p>カ. SMTP (Simple Mail Transfer Protocol)、POP3 (Post Office Protocol3)、IMAP4 (Internet Mail Access Protocol4)、HTTP、HTTPS、HTML、MIME、SMTP Authentication、LDAPに対応していること。</p> <p>キ. ユーザに割り当てたメールボックスサイズに対して、指定の量(%)を超えた場合に指定した期間より前のメールを削除する。</p> <p>ク. ポリシー強制ルールの適用対象はユーザ単位、グループ単位で設定可能であること。</p> <p>ケ. 適用対象を限定して不適切な通信を防止するルールを作成することができること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>コ. メールボックス数として13,000 を確保できること。また将来ユーザー数がさらに増加した場合にも対応可能な拡張性を有すること。</p> <p>サ. サーバが外部からメッセージを受け付ける前にディレクトリ検索を実施し、ディレクトリに登録されていないユーザー(退職した社員や架空のアドレスなど)へのメールは拒否できること。</p> <p>シ. クラスタによる冗長化構成がとれること。</p> <p>ス. アカウント管理用にWebGUIツールが用意されていること。また、あわせてコマンドラインツールも提供されること。</p> <p>セ. 利用可能なサービス(POP、IMAP等)の制限をユーザ単位でかけられること。またユーザ単位での制限はIPベースでの制限も設定できること。</p> <p>ソ. サーバ側で定義したポリシーにより、不要なメールを自動的に削除できること。</p> <p>タ. マルチドメインがサポートされていること。</p> <p>チ. 容量制限実施時、メールボックスの使用量が一定の閾値を超えた場合ユーザに通知できること。</p> <p>ツ. Quota Overしたユーザ宛のメールをキューに保持できること。また、Quota Overしたメールのキューへの保持期間を指定できること。</p> <p>テ. 現存するメールデータを全て次期環境に移管できること。</p> <p>●アンチウイルス</p> <p>ア. メールを媒介とした攻撃をフィルタリングプロセスの前段階でブロックするメールファイアウォール機能があること。</p> <p>イ. 最新情報に基づいたスパムフィルタリングを行うアンチスパム機能があること。</p> <p>ウ. SMTPトラフィックに対して、頻繁に変更され多発する不正コードの受信を予防できること。</p> <p>エ. 監視時間、比率、総メール数により、スパイ型(ターゲティングアタック)のスパムメールの送信元IPアドレスを特定し、それらのメールをブロック可能であること。</p> <p>オ. 監視時間、比率、総メール数により、スパイ型(ターゲティングアタック)のウイルスメールの送信元IPアドレスを特定し、それらのメールをブロック可能であること。</p> <p>カ. DNSBL機能においてメールサーバの設定が不要なブラックリストをレピュテーションサービスのサーバ側で設定し、メールサーバの再起動なしに運用に反映できること。</p> <p>キ. DNSBL機能においてメールサーバの設定が不要なホワイトリストをレピュテーションサービスのサーバ側で設定し、メールサーバの再起動なしに運用に反映できること。</p> <p>●アンチウイルス</p> <p>ア. アプリケーションサーバ上の業務アプリケーションから、任意のタイミングにて指定するファイルに対してウイルスの検知を行い、駆除する機能を有すること。</p> <p>イ. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。</p> <p>ウ. 1つのライセンスで複数のOS(Windows、UNIX)に対応できること。</p> <p>エ. 複数のOS(Windows、UNIX)を一元的に管理できるコンソールを有すること。</p> <p>オ. 1つのライセンスでデータ流出を防ぐデバイス制御機能を有すること。</p> <p>●アプリケーションサーバ</p> <p>ア. 蓄積されたHTML文書や画像等のファイルを、Webブラウザ等の端末ソフトウェアからの要求に応じてHTTP1.1対応の手順で送信可能であること。</p> <p>イ. HTTPS接続に対応可能であること。</p> <p>ウ. 仮想ホスト、ソフトウェアロードバランシング機能を有すること。</p> <p>エ. コンテンツへのアクセス記録、エラー記録等の記録をcombined形式、common形式等の標準的な書式で保管可能であること。</p> <p>オ. アクセスもとのマシン名とともに、アクセスしたコンテンツの内容を記録・保管可能であること。</p> <p>カ. 保管に当たっては、外部補助記録媒体への保管が可能であること。</p> <p>キ. ディレクトリ単位でのアクセス制限を定義可能であること。</p>
6.1	9	<p>■全文検索サーバ</p> <p>(搭載ソフトウェアはなし)</p>
6.1	10	<p>■統計分析サーバ</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. ファイアウォール機能を有すること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		ウ. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能を備えていること。
		エ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。
		オ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408 におけるEAL4以上の認定を取得していること。
		カ. 冗長化構成が組めること。
		キ. 仮想化機能を備えていること。
		●エージェントソフトウェア
		ア. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。
		イ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。
		●統計分析ソリューション(BI)
		ア. 統計情報サーバのRDBMS(DWH)とODBC等の標準化アクセスルーチンを用いて接続が可能であること。
		イ. OLAP(OnLine Analytical Processing)等の多次元分析が行えること。なお、MOLAP(Multi-dimensional OLAP)、ROLAP(Relational OLAP)両方をサポートすること。
		ウ. 職員が任意に統計用テンプレートを作成する機能があること。また、職員が作成した統計情報を他の職員と共有できること。
		エ. 同一検索条件に対するキャッシュ機能を有すること。
		オ. 職員が統計情報を取得するためのスケジュールを任意に設定できること。
		カ. 統計情報を取得するための操作について、Webブラウザを用いたGUIで実行でき、検索条件入力からレポート作成にかかる操作を同一アプリケーションで実現できること。また、検索の結果をPDFや表計算ソフトウェアに対して出力が可能であること。
		キ. 検索、分析処理の完了を電子メール等で職員へ通知できること。
		ク. 設定情報や、処理結果等のデータをバックアップできること。また、リストアが可能であること。
		ケ. 職員に対して提供可能なレポートの様式を修正・追加開発できるツールを提供すること。
		コ. 単純集計、平均値、最大値、最小値、最頻値等の基本統計量を簡便な操作で求めることができる機能があること。
		サ. 現存するユニバース(キューブ)を全て次期環境に移管できること。
		●アンチウイルス
		ア. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。
		イ. リアルタイムスキャンにより、スパイウェアを自動的に検知して駆除する機能を有すること。
		ウ. Webベースのグラフィカルなレポートと集中管理を1台のコンソールから実行可能であること。
		エ. 定期的なディスク操作のほかに、メール受信や補助記憶媒体へのアクセスの都度、ファイルの走査を行う機能を有すること。
		オ. 複合的なコンピュータ環境にも対応可能であること。
		カ. 更新されたウイルスパターンファイルを端末に配布できること。
		キ. メニューが日本語であること。
		●アプリケーションサーバ
		ア. 蓄積されたHTML文書や画像等のファイルを、Webブラウザ等の端末ソフトウェアからの要求に応じてHTTP1.1対応の手順で送信可能であること。
		イ. HTTPS接続に対応可能であること。
		ウ. 仮想ホスト、ソフトウェアロードバランシング機能を有すること。
		エ. コンテンツへのアクセス記録、エラー記録等の記録をcombined形式、common形式等の標準的な書式で保管可能であること。
		オ. アクセスもとのマシン名とともに、アクセスしたコンテンツの内容を記録・保管可能であること。
		カ. 保管に当たっては、外部補助記録媒体への保管が可能であること。
		キ. ディレクトリ単位でのアクセス制限を定義可能であること。
		●Webブラウザソフトウェア
		ア. W3C HTML5に準拠したコンテンツの処理が行えること。
		イ. ECMAScript5に準拠したコンテンツの処理が行えること。

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		ウ. メニューが日本語で表示できること。
6.1	11	<p>■統計情報サーバ</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. IEEE 1003.1-1996及びIEEE 1003.2-1992に準拠していること。</p> <p>ウ. 統合サーバでは、15サーバ(30CPU)を統合することを想定しており、将来の拡張分と合わせて、40基以上のCPUをサポートすることが可能なOSであること。</p> <p>エ. 扱える物理メモリの最大容量が1,152GBであること。</p> <p>オ. OSレベルでパーティション機能を有すること。</p> <p>カ. RBAC(Role Based Access Control/ロールベースでのアクセス制御管理)機能を有していること。</p> <p>キ. HTTP、FTP、TELNET、DNS、NTP、DHCP、SNMP、LDAP、SMTP、NISのインターネット標準に準拠していること。</p> <p>ク. システムに関連した問題をシステムの停止なしに、リアルタイムで問題解決できること。</p> <p>ケ. CPU、メモリ、I/Oシステムの監視及び診断を行い、障害リソースを自動的にオフライン化できる予測的自己修復機能を有すること。</p> <p>コ. I18nによる国際化、L10Nによる地域化による英語化、日本語化を実装すること。</p> <p>サ. ネットワーク仮名漢字変換システムを実装すること。</p> <p>シ. サーバシステムで採用するOSについては極力統一を図ることとし、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>ス. ソフトウェア構築上のソフトウェア製品等のプラットフォームについて極力統一し、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>セ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>ソ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>タ. 稼働中のシステムを動作させたまま、ブート環境のコピーを作成したり、コピー環境にパッチを適用したりできる機能を有していること。</p> <p>チ. レプリケーション機能、スナップショット、クローン、クォータを有したボリューム管理機能を備えていること。</p> <p>●RDBMS(DWH)</p> <p>ア. SQL 92以降に準拠していること。</p> <p>イ. 64bit対応していること。</p> <p>ウ. 1データベースあたり20TB以上で作成できること。</p> <p>エ. 1物理デバイスが2TB以上で作成できること。</p> <p>オ. ページサイズを4KB、8KB、16KB、32KB、64KB、128KB、256KB、512KBから選択できること。</p> <p>カ. 1テーブルあたり1,000を超えるカラムを保持できること。</p> <p>キ. カラム単位でデータの保存とアクセスを行う仕組みであること。</p> <p>ク. DB単位、カラム単位で暗号化が可能であること。</p> <p>ケ. SSL等の暗号化通信をサポートしていること。</p> <p>コ. パーティション機能を有すること。</p> <p>サ. すべてのデータを圧縮して格納できること。</p> <p>シ. データベースサーバへのアクセス権限管理にはロールベースのものを利用できること。</p> <p>ス. カラムのデータ型やカーディナリティに応じたインデックスの種類を設定できること。</p> <p>セ. データをビット化して演算を高速化することが可能な技術が採用されていること。</p> <p>ソ. 現行基準システムで利用しているSybase Adaptive Server Enterpriseのストアド・プロシージャが問題なく利用可能であること。</p> <p>タ. Transact-SQLが利用可能であること。</p> <p>チ. クライアントアプリケーションからデータベースアクセス用のAPIが利用できること。</p> <p>ツ. SQL文のトレース等の監査ができること。ただし、RDBMSへの負荷を小さくすること。</p> <p>●レプリケーションソフトウェア</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>ア. レプリケーションはトランザクションログベースタイプのものであり、複写タイミングはデータベースのチェックポイントと連動できること。</p> <p>イ. レプリケーション対象データはデータベース単位、テーブル単位、ロー単位で指定可能であること。</p> <p>ウ. ストアド・プロシージャのレプリケーションを行えること。(ストアド・プロシージャの実行結果の転送ではなく、複写先でストアド・プロシージャの実行を行えること。)</p> <p>エ. レプリケーションのルートに障害が発生した場合、復旧後自動的に複写が行われること。</p> <p>オ. 万レプリケーションに発生した障害によってデータベース間に不整合が発生した場合、不整合を検知できる仕組みがあること。また、不整合を修復するツールを用意すること。</p> <p>カ. 基準労災DBサーバのRDBMSから統計情報サーバのRDBMS (DWH) へのレプリケーションが可能であること。</p> <p>キ. 複数のトランザクションの中の有効な変更差分を取り出し、一括して複写側データベースに適用することで、複写側データベース更新の高速化が図れる機能を有していること。</p> <p>ク. 上記の機能は、複写先としてRDBMS (DWH) と、通常のRDBMSの両方に対応していること。</p>
		<p>●クラスタソフトウェア</p> <p>ア. 3ノード以上のクラスタ構成をサポートできること。</p> <p>イ. 稼働待機構成以外に、複数の稼働系に対して1台に待機系(N:1)、あるいはすべて稼働系(N:N)といった柔軟なクラスタ構成が可能であること。</p> <p>ウ. アプリケーション単位に柔軟に最適なサーバに処理を引き継ぐことが可能であること。</p> <p>エ. 複数サービスを連動したサービス切り替えが可能であること。たとえば、Web サーバは DB サーバが必要であるとサービス間で依存関係を定義した場合、Web アプリケーションサーバが DB サーバの起動を待ってから起動し、DB サーバで障害を検出した場合には Web アプリケーションサーバも切り替えるといった運用が可能である等。</p> <p>カ. Quorumサーバとして構成したサーバを、共有ディスクの代わりにQuorumデバイスとして構成できること。</p> <p>キ. 全クラスタノードに対して、一度に同じコマンドを実行するためのユーティリティを備えていること。</p>
		<p>●ボリューム管理ソフトウェア</p> <p>ア. ノード間での排他制御機能を有すること。</p> <p>イ. パスのマネージメント機能を有すること。</p> <p>ウ. ストレージ筐体をまたいだRAIDが構成できること。</p> <p>エ. ファイルシステムと連携した書き込みが可能であること。</p> <p>オ. ファイルシステムのオンラインデフラグが可能であること。</p> <p>カ. ファイルシステムの拡張・縮小が可能であること。</p> <p>キ. 現存するバッチプログラムを継続利用できること。</p>
		<p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>ウ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p>
6.1	12	<p>■シンククライアントサーバ</p> <p>◆シンククライアントサーバ(ライセンス管理)</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. ファイアウォール機能を有すること。</p> <p>ウ. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能を備えていること。</p> <p>エ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>オ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408 におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>カ. 冗長化構成が組めること。</p> <p>キ. 仮想化機能を備えていること。</p> <p>●シンククライアント制御ソフトウェア</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>ア. クライアントソフトウェア及び情報リソースをサーバに集約可能な仕組み(サーバベースコンピューティング)を提供できること。</p> <p>イ. サーバ側にてアプリケーションが実行され、サーバからクライアントへは画面データが送信される仕組み(画面転送型のサーバベースコンピューティング環境)を実現できること。</p> <p>ウ. 専用エージェントからの利用だけではなく、Web ブラウザを用いてシンクライアントサーバ上のアプリケーションを起動して利用できること。(画面表示クライアントとして2種類の選択肢があること。)</p> <p>エ. アプリケーションを使用中のユーザが、場所を移動してネットワークやデバイスを変えても、サーバに再接続すれば、それまで使っていたアプリケーションを継続して使うことができること。</p> <p>オ. モバイルやWAN などの狭帯ネットワーク環境でも常に快適にアプリケーションを利用できること。</p> <p>カ. 64bit環境での動作に対応していること。</p> <p>キ. サーバベースコンピューティング未対応のアプリケーション(ファイルやレジストリ、TCP ポートが競合する)を利用可能にする仮想化テクノロジー(ストリーム配信機能と仮想IP アドレス付与機能)を備えていること。</p> <p>ク. すべてのユーザにサーバのCPU をバランス良く割り振り、メモリ使用を最適化する機能を備えていること。</p> <p>ケ. 複数台のシンクライアントサーバへのアクセスに対して各種リソース(CPU、メモリ、ログイン数等)の使用状況に応じて複数の方式が可能である負荷分散機能を有すること。</p> <p>コ. ユーザ、グループだけでなく、接続先サーバ、クライアントのIP アドレス、コンピュータ名にもポリシーの割り当てが可能であること。帯域幅、優先ゾーン、プリンタなどもポリシーで制御可能であること。</p> <p>サ. クライアントセッション切断時にも作業画面を保持し、再ログオンなしに作業を継続できること。</p>
		<p>●RDBMS</p> <p>ア. シンクライアント制御ソフトウェアが指定、推奨するRDBMSとする。</p>
		<p>●RDBMS</p> <p>ア. SQL 92 以降に準拠していること。</p> <p>イ. Transact-SQL が利用可能であること。</p> <p>ウ. 非同期通信によるイメージデータ転送を行うことができること。</p> <p>エ. SSL等の暗号化通信をサポートしていること。</p> <p>オ. IPv6に対応していること。</p> <p>カ. 原本管理サーバのRDBMS との接続及び同期が可能であること。同期元と同期先(原本管理サーバ)とで、整合性が保障されること。</p> <p>キ. 同期時には、データの消失が発生しない仕組みを有すること。</p> <p>ク. ページサイズを2KB、4KB、8KB、16KB から選択できること。</p> <p>ケ. クライアントアプリケーションからデータベースアクセス用のAPI としてODBC、OLEDB、JDBC 等が利用できること。</p> <p>コ. 1,000 台以上での転送実績を有すること。</p>
		<p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p>
		<p>●アンチウイルス</p> <p>ア. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。</p> <p>イ. リアルタイムスキャンにより、スパイウェアを自動的に検知して駆除する機能を有すること。</p> <p>ウ. Webベースのグラフィカルなレポートと集中管理を1台のコンソールから実行可能であること。</p> <p>エ. 定期的なディスク操作のほかに、メール受信や補助記憶媒体へのアクセスの都度、ファイルの走査を行う機能を有すること。</p> <p>オ. 複合的なコンピュータ環境にも対応可能であること。</p> <p>カ. 更新されたウイルスパターンファイルを端末に配布できること。</p> <p>キ. メニューが日本語であること。</p>
		<p>◆シンクライアントサーバ(データストア)</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>イ. ファイアウォール機能を有すること。</p> <p>ウ. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能を備えていること。</p> <p>エ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>オ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408 におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>カ. 冗長化構成が組めること。</p> <p>キ. 仮想化機能を備えていること。</p>
		<p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p>
		<p>●アンチウイルス</p> <p>ア. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。</p> <p>イ. リアルタイムスキャンにより、スパイウェアを自動的に検知して駆除する機能を有すること。</p> <p>ウ. Webベースのグラフィカルなレポートと集中管理を1台のコンソールから実行可能であること。</p> <p>エ. 定期的なディスク操作のほかに、メール受信や補助記憶媒体へのアクセスの都度、ファイルの走査を行う機能を有すること。</p> <p>オ. 複合的なコンピュータ環境にも対応可能であること。</p> <p>カ. 更新されたウイルスパターンファイルを端末に配布できること。</p> <p>キ. メニューが日本語であること。</p>
		<p>◆シンクライアントサーバ(Thin Client ファーム)</p>
		<p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. ファイアウォール機能を有すること。</p> <p>ウ. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能を備えていること。</p> <p>エ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>オ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408 におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>カ. 冗長化構成が組めること。</p> <p>キ. 仮想化機能を備えていること。</p>
		<p>●RDBMS</p> <p>ア. SQL 92 以降に準拠していること。</p> <p>イ. Transact-SQL が利用可能であること。</p> <p>ウ. 非同期通信によるイメージデータ転送を行うことができること。</p> <p>エ. SSL等の暗号化通信をサポートしていること。</p> <p>オ. IPv6に対応していること。</p> <p>カ. 原本管理サーバのRDBMS との接続及び同期が可能であること。同期元と同期先(原本管理サーバ)とで、整合性が保障されること。</p> <p>キ. 同期時には、データの消失が発生しない仕組みを有すること。</p> <p>ク. ページサイズを2KB、4KB、8KB、16KB から選択できること。</p> <p>ケ. クライアントアプリケーションからデータベースアクセス用のAPI としてODBC、OLEDB、JDBC 等が利用できること。</p> <p>コ. 1,000 台以上での転送実績を有すること。</p>
		<p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>● オフィスアプリケーションソフトウェア (OAソフトウェア)</p> <p>ア. Microsoft Office 2003以降で作成された現行資産を正常に扱うことができること。</p> <p>イ. 文書作成ソフトウェア、表計算ソフトウェア、プレゼンテーションソフトウェア、簡易データベースソフトウェア、メール閲覧・作成ソフトウェアで構成されていること。</p> <p>ウ. メール閲覧・作成ソフトウェアとしては、POP3、IMAP4、SMTP に対応可能であること。S/MIME ならびにOpenPGP に対応した暗号化メールのための拡張機能を有していること。</p> <p>エ. OASIS (Organization for the Advancement of Structured Information Standards) 公開文書形式標準に準拠した文書の読み込み、編集、印刷、書き出しが可能であること。</p> <p>オ. メニューが日本語であること。</p> <p>カ. ディレクトリサービスと連携し、制限等を一括管理できること。</p> <p>キ. インターフェイスのメニューがリボンスタイルであること。</p> <p>ク. スクリーンショット機能として、2クリックの操作でウィンドウを貼り付けられること。</p> <p>ケ. [保存]、[印刷]、[送信]、などのファイル全体の操作が一括でできること。</p>
		<p>● ワープロソフトウェア</p> <p>ア. Justsystem 一太郎13以降で作成された現行資産を正常に扱うことができること。</p> <p>イ. 公文書の作成を支援する辞書を標準搭載していること。</p> <p>ウ. 公用文に特化した文書校正機能を有すること。</p> <p>エ. 文書中の個人情報や特定固有名詞などを自動抽出し、一つ一つをチェックしながら伏せ字に置き換える機能を有すること。</p> <p>オ. 文書にすかし文字をいれて保存する機能を有すること。</p> <p>カ. 文書の閲覧・編集を制限して保存する機能を有すること。</p> <p>キ. さまざまなファイル形式での文書保存が可能であること。</p> <p>ク. 公務に便利な機能を厳選、追加した専用メニュー機能を有すること。</p> <p>ケ. 行政機関での利用シーンを想定したヘルプ機能を有すること。</p>
		<p>● Webブラウザソフトウェア</p> <p>ア. W3C HTML5に準拠したコンテンツの処理が行えること。</p> <p>イ. ECMAScript5に準拠したコンテンツの処理が行えること。</p> <p>ウ. メニューが日本語で表示できること。</p>
		<p>● PDFファイル編集ソフトウェア</p> <p>ア. OA ソフトウェアから、PDF 文書をドラッグ & ドロップやワンクリックで作成できること。</p> <p>イ. 印刷可能な、どのアプリケーションからでも、印刷メニューで選択するだけで PDF文書を作成できること。</p> <p>ウ. PDF ファイルの表示、編集、注釈の付加、電子署名または印刷を許可するかどうかを制御できること。</p> <p>エ. PDF 文書にパスワードを割り当てて、第三者が機密性の高い文書を開いたり表示することを防ぐことができること。</p> <p>オ. メニューが日本語であること。</p> <p>カ. 作成されたPDFファイルは、無償で配布されている閲覧用ソフトウェアを使用して閲覧や印刷が可能であること。</p> <p>キ. 一度作成したPDF文書から、任意のページを削除したり、新たに追加したり、ページの順番を入れ替えることが可能であること。</p> <p>ク. パスワード、アクセス権を設定でき、機密文書をより安全に保護可能であること。</p> <p>ケ. 電子署名とタイムスタンプを組み合わせた長期保存署名に対応していること。</p> <p>コ. テキストの直接編集が可能であること。</p> <p>サ. PDF作成時に、自動ファイル名生成(連番/日付)が可能であること。また、同名ファイルがある場合に、元ファイルに追加できること。</p>
		<p>● ファイル圧縮ソフトウェア</p> <p>ア. ファイルの圧縮、解凍ができること。</p> <p>イ. ファイルの分割、結合ができること。</p> <p>ウ. 圧縮時には解凍用パスワードを設定できること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		エ. メニューが日本語であること。
		オ. パスワード条件や暗号化方法を事前に指定してインストールできること。
		●CADデータ閲覧ソフトウェア
		ア. CAD データ交換標準フォーマット(DWG)に対応したCAD ソフトウェアによって作成された図面データを表示・印刷できること。
		イ. 全体表示やズーム・画面移動などの操作が CAD データ／画像データともに同じ操作で扱え、データの種類を意識することなく利用できること。
		ウ. データ全体、または表示しているデータ範囲の印刷が可能であること(全体／部分印刷)。
		エ. メニューが日本語であること。
		●アンチウイルス
		ア. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。
		イ. リアルタイムスキャンにより、スパイウェアを自動的に検知して駆除する機能を有すること。
		ウ. Webベースのグラフィカルなレポートングと集中管理を1台のコンソールから実行可能であること。
		エ. 定期的なディスク操作のほかに、メール受信や補助記憶媒体へのアクセスの都度、ファイルの走査を行う機能を有すること。
		オ. 複合的なコンピュータ環境にも対応可能であること。
		カ. 更新されたウイルスパターンファイルを端末に配布できること。
		キ. メニューが日本語であること。
		●画像処理ソフトウェア
		ア. 定画像データの処理等を目的として、サイズ変更、減色処理、形式変更が可能であること。
		イ. 画像形式としては、BMP、JPEG、GIF、PNG が含まれていること。
		ウ. メニューが日本語であること。
		●PDFファイル閲覧ソフトウェア
		ア. 無償のPDFファイル閲覧ソフトウェアであること。
		●OCR-K/Bフォント
		ア. JIS X 9001(B) 準拠
		イ. JIS X 9003(K) 準拠
		ウ. TrueType フォント
		エ. 上記に示す要件を満たすフォントの利用者として、約5,000名を想定している(センタ環境(本番用)及びセンタ環境(総合試験用)用で共通)。
		●OCR手書き認識用半角フォント
		ア. JIS X 9005～8 準拠
		イ. TrueType フォント
		ウ. 上記に示す要件を満たすフォントの利用者として、約5,000名を想定している(センタ環境(本番用)及びセンタ環境(総合試験用)用で共通)。
		●OCR手書き認識用全角フォント
		ア. 一般的にいわれる「教科書体」と呼ばれる手書き風の書体
		イ. JIS X 0208 における第一水準漢字(16区～47区)、第二水準漢字(48区～84区)の範囲
		ウ. JIS X 0208 における英数字、かな(01区～08区)の範囲
		エ. TrueType フォント
		オ. 上記に示す要件を満たすフォントの利用者として、約5,000名を想定している(センタ環境(本番用)及びセンタ環境(総合試験用)用で共通)。
		●クライアントツール
		ア. 帳票アプリケーションにおけるWebプラグイン機能を有すること。
		●帳票アプリケーション(XMLライブラリ)
		ア. 帳票アプリケーションに同梱されているXMLライブラリを有すること。
		●プリンタ監視ツール
		ア. 汎用プリンタの監視が可能であること。

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>◆シンクライアントサーバ機器 (Fat Client ファーム)</p> <p>●オペレーティングシステム (OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム (OS) であること。</p> <p>イ. ファイアウォール機能を有すること。</p> <p>ウ. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能を備えていること。</p> <p>エ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>オ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408 におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>カ. 冗長化構成が組めること。</p> <p>キ. 仮想化機能を備えていること。</p> <p>●RDBMS</p> <p>ア. SQL 92 以降に準拠していること。</p> <p>イ. Transact-SQL が利用可能であること。</p> <p>ウ. 非同期通信によるイメージデータ転送を行うことができること。</p> <p>エ. SSL等の暗号化通信をサポートしていること。</p> <p>オ. IPv6に対応していること。</p> <p>カ. 原本管理サーバのRDBMS との接続及び同期が可能であること。同期元と同期先 (原本管理サーバ) とで、整合性が保障されること。</p> <p>キ. 同期時には、データの消失が発生しない仕組みを有すること。</p> <p>ク. ページサイズを2KB、4KB、8KB、16KB から選択できること。</p> <p>ケ. クライアントアプリケーションからデータベースアクセス用のAPI としてODBC、OLEDB、JDBC 等が利用できること。</p> <p>コ. 1,000 台以上での転送実績を有すること。</p> <p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>●オフィスアプリケーションソフトウェア (OAソフトウェア)</p> <p>ア. Microsoft Office 2003以降で作成された現行資産を正常に扱うことができること。</p> <p>イ. 文書作成ソフトウェア、表計算ソフトウェア、プレゼンテーションソフトウェア、簡易データベースソフトウェア、メール閲覧・作成ソフトウェアで構成されていること。</p> <p>ウ. メール閲覧・作成ソフトウェアとしては、POP3、IMAP4、SMTP に対応可能であること。S/MIME ならびにOpenPGP に対応した暗号化メールのための拡張機能を有していること。</p> <p>エ. OASIS (Organization for the Advancement of Structured Information Standards) 公開文書形式標準に準拠した文書の読み込み、編集、印刷、書き出しが可能であること。</p> <p>オ. メニューが日本語であること。</p> <p>カ. ディレクトリサービスと連携し、制限等を一括管理できること。</p> <p>キ. インターフェイスのメニューがリボンスタイルであること。</p> <p>ク. スクリーンショット機能として、2クリックの操作でウィンドウを貼り付けられること。</p> <p>ケ. [保存]、[印刷]、[送信]、などのファイル全体の操作が一括でできること。</p> <p>●ワープロソフトウェア</p> <p>ア. Justsystem 一太郎13以降で作成された現行資産を正常に扱うことができること。</p> <p>イ. 公文書の作成を支援する辞書を標準搭載していること。</p> <p>ウ. 公用文に特化した文書校正機能を有すること。</p> <p>エ. 文書中の個人情報や特定固有名詞などを自動抽出し、一つ一つをチェックしながら伏せ字に置き換える機能を有すること。</p> <p>オ. 文書にすかし文字をいれて保存する機能を有すること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>カ. 文書の閲覧・編集を制限して保存する機能を有すること。</p> <p>キ. さまざまなファイル形式での文書保存が可能であること。</p> <p>ク. 公務に便利な機能を厳選、追加した専用メニュー機能を有すること。</p> <p>ケ. 行政機関での利用シーンを想定したヘルプ機能を有すること。</p>
		<p>●Webブラウザソフトウェア</p> <p>ア. W3C HTML5に準拠したコンテンツの処理が行えること。</p> <p>イ. ECMAScript5に準拠したコンテンツの処理が行えること。</p> <p>ウ. メニューが日本語で表示できること。</p>
		<p>●PDFファイル編集ソフトウェア</p> <p>ア. OA ソフトウェアから、PDF 文書をドラッグ & ドロップやワンクリックで作成できること。</p> <p>イ. 印刷可能な、どのアプリケーションからでも、印刷メニューで選択するだけで PDF文書を作成できること。</p> <p>ウ. PDF ファイルの表示、編集、注釈の付加、電子署名または印刷を許可するかどうかを制御できること。</p> <p>エ. PDF 文書にパスワードを割り当てて、第三者が機密性の高い文書を開いたり表示することを防ぐことができること。</p> <p>オ. メニューが日本語であること。</p> <p>カ. 作成されたPDFファイルは、無償で配布されている閲覧用ソフトウェアを使用して閲覧や印刷が可能であること。</p> <p>キ. 一度作成したPDF文書から、任意のページを削除したり、新たに追加したり、ページの順番を入れ替えることが可能であること。</p> <p>ク. パスワード、アクセス権を設定でき、機密文書をより安全に保護可能であること。</p> <p>ケ. 電子署名とタイムスタンプを組み合わせた長期保存署名に対応していること。</p> <p>コ. テキストの直接編集が可能であること。</p> <p>サ. PDF作成時に、自動ファイル名生成(連番/日付)が可能であること。また、同名ファイルがある場合に、元ファイルに追加できること。</p>
		<p>●ファイル圧縮ソフトウェア</p> <p>ア. ファイルの圧縮、解凍ができること。</p> <p>イ. ファイルの分割、結合ができること。</p> <p>ウ. 圧縮時には解凍用パスワードを設定できること。</p> <p>エ. メニューが日本語であること。</p> <p>オ. パスワード条件や暗号化方法を事前に指定してインストールできること。</p>
		<p>●CADデータ閲覧ソフトウェア</p> <p>ア. CAD データ交換標準フォーマット(DWG)に対応したCAD ソフトウェアによって作成された図面データを表示・印刷できること。</p> <p>イ. 全体表示やズーム・画面移動などの操作が CAD データ/画像データともに同じ操作で扱え、データの種類を意識することなく利用できること。</p> <p>ウ. データ全体、または表示しているデータ範囲の印刷が可能であること(全体/部分印刷)。</p> <p>エ. メニューが日本語であること。</p>
		<p>●アンチウイルス</p> <p>ア. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。</p> <p>イ. リアルタイムスキャンにより、スパイウェアを自動的に検知して駆除する機能を有すること。</p> <p>ウ. Webベースのグラフィカルなレポートと集中管理を1台のコンソールから実行可能であること。</p> <p>エ. 定期的なディスク操作のほかに、メール受信や補助記憶媒体へのアクセスの都度、ファイルの走査を行う機能を有すること。</p> <p>オ. 複合的なコンピュータ環境にも対応可能であること。</p> <p>カ. 更新されたウイルスパターンファイルを端末に配布できること。</p> <p>キ. メニューが日本語であること。</p>
		<p>●画像処理ソフトウェア</p> <p>ア. 定画像データの処理等を目的として、サイズ変更、減色処理、形式変更が可能であること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>イ. 画像形式としては、BMP、JPEG、GIF、PNG が含まれていること。</p> <p>ウ. メニューが日本語であること。</p> <p>●PDFファイル閲覧ソフトウェア ア. 無償のPDFファイル閲覧ソフトウェアであること。</p> <p>●OCR-K/Bフォント ア. JIS X 9001(B)準拠 イ. JIS X 9003(K)準拠 ウ. TrueType フォント エ. 上記に示す要件を満たすフォントの利用者として、約5,000名を想定している(センタ環境(本番用)及びセンタ環境(総合試験用)用で共通)。</p> <p>●OCR手書き認識用半角フォント ア. JIS X 9005~8 準拠 イ. TrueType フォント ウ. 上記に示す要件を満たすフォントの利用者として、約5,000名を想定している(センタ環境(本番用)及びセンタ環境(総合試験用)用で共通)。</p> <p>●OCR手書き認識用全角フォント ア. 一般的にいわれる「教科書体」と呼ばれる手書き風の書体 イ. JIS X 0208 における第一水準漢字(16 区~47 区)、第二水準漢字(48区~84 区)の範囲 ウ. JIS X 0208 における英数字、かな(01 区~08 区)の範囲 エ. TrueType フォント オ. 上記に示す要件を満たすフォントの利用者として、約5,000名を想定している(センタ環境(本番用)及びセンタ環境(総合試験用)用で共通)。</p> <p>●クライアントツール ア. 帳票アプリケーションにおけるWebプラグイン機能を有すること。</p> <p>●帳票アプリケーション(XMLライブラリ) ア. 帳票アプリケーションに同梱されているXMLライブラリを有すること。</p>
6.1	13	<p>■ポータルサーバ</p> <p>◆ポータルサーバ(フロントエンド)</p> <p>●オペレーティングシステム(OS) ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。 イ. ファイアウォール機能を有すること。 ウ. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能を備えていること。 エ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。 オ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408 におけるEAL4以上の認定を取得していること。 カ. 冗長化構成が組めること。 キ. 仮想化機能を備えていること。</p> <p>●エージェントソフトウェア ア. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。 イ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>●アンチウイルス ア. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。 イ. リアルタイムスキャンにより、スパイウェアを自動的に検知して駆除する機能を有すること。 ウ. Webベースのグラフィカルなレポートと集中管理を1台のコンソールから実行可能であること。 エ. 定期的なディスク操作のほかに、メール受信や補助記憶媒体へのアクセスの都度、ファイルの走査を行う機能を有すること。 オ. 複合的なコンピュータ環境にも対応可能であること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		カ. 更新されたウイルスパターンファイルを端末に配布できること。
		キ. メニューが日本語であること。
		●アプリケーションサーバ(フロントエンド)
		ア. 蓄積されたHTML文書や画像等のファイルを、Webブラウザ等の端末ソフトウェアからの要求に応じてHTTP1.1対応の手順で送信可能であること。
		イ. HTTPS接続に対応可能であること。
		ウ. 仮想ホスト、ソフトウェアロードバランシング機能を有すること。
		エ. コンテンツへのアクセス記録、エラー記録等の記録をcombined形式、common形式等の標準的な書式で保管可能であること。
		オ. アクセスもとのマシン名とともに、アクセスしたコンテンツの内容を記録・保管可能であること。
		カ. 保管に当たっては、外部補助記録媒体への保管が可能であること。
		キ. ディレクトリ単位でのアクセス制限を定義可能であること。
		●シングルサインオンソフトウェア
		ア. エージェントインストール型リバースプロキシ方式を採用していること。
		イ. 認証サーバへのトラフィック集中によるパフォーマンス低下を抑制した仕組みであること。
		ウ. OSやWebサーバを選ばずにシングルサインオンできること。
		エ. クライアントでの設定が不要であること。
		オ. ID/PWよりも強固な認証が可能なこと。また、システムにより認証方式を容易に選択可能なこと。
		●Webブラウザソフトウェア
		ア. W3C HTML5に準拠したコンテンツの処理が行えること。
		イ. ECMAScript5に準拠したコンテンツの処理が行えること。
		ウ. メニューが日本語で表示できること。
		◆ポータルサーバ(リポジトリ)
		●オペレーティングシステム(OS)
		ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。
		イ. IEEE 1003.1-1996及びIEEE 1003.2-1992に準拠していること。
		ウ. 統合サーバでは、15サーバ(30CPU)を統合することを想定しており、将来の拡張分と合わせて、40基以上のCPUをサポートすることが可能なOSであること。
		エ. 扱える物理メモリの最大容量が1,152GBであること。
		オ. OSレベルでパーティション機能を有すること。
		カ. RBAC(Role Based Access Control/ロールベースでのアクセス制御管理)機能を有していること。
		キ. HTTP、FTP、TELNET、DNS、NTP、DHCP、SNMP、LDAP、SMTP、NISのインターネット標準に準拠していること。
		ク. システムに関連した問題をシステムの停止なしに、リアルタイムで問題解決できること。
		ケ. CPU、メモリ、I/Oシステムの監視及び診断を行い、障害リソースを自動的にオフライン化できる予測的自己修復機能を有すること。
		コ. I18nによる国際化、L10Nによる地域化による英語化、日本語化を実装すること。
		サ. ネットワーク仮名漢字変換システムを実装すること。
		シ. サーバシステムで採用するOSについては極力統一を図ることとし、システムメンテナンス性を確保すること。
		ス. ソフトウェア構築上のソフトウェア製品等のプラットフォームについて極力統一し、システムメンテナンス性を確保すること。
		セ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。
		ソ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。
		タ. 稼働中のシステムを動作させたまま、ブート環境のコピーを作成したり、コピー環境にパッチを適用したりできる機能を有していること。
		チ. レプリケーション機能、スナップショット、クローン、クォータを有したボリューム管理機能を備えていること。
		●RDBMS(リポジトリ)
		ア. SQL 92以降に準拠していること。

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		イ. 64bit対応していること。
		ウ. 1つのデータベースサーバ(インスタンス)あたり100以上のデータベースを稼働させられること。
		エ. 1データベースあたり20TB以上で作成できること。
		オ. 物理デバイスが10,000以上作成できること。物理デバイスとしてローデバイスを指定できること。また、ファイルシステム上に物理デバイスを配置して利用する場合、ハードディスクへの書き込みを保証できること。
		カ. 1物理デバイスが2TB以上で作成できること。
		キ. ページサイズを2KB、4KB、8KB、16KBから選択できること。
		ク. 1テーブルあたり1,000を超えるカラムを保持できること。
		ケ. ロック機構として、行単位、ページ単位、テーブル単位、全ページと指定できること。
		コ. データベースサーバ内のログインユーザ単位で複数テンポラリ領域を確保できること。テンポラリ領域を使い果たした場合でも、他の処理には影響を与えないこと。
		サ. データベースサーバにて格納データに対する暗号化をサポートしていること。なお、暗号化の対象をデータベース単位、カラム単位で行えること。
		シ. SSL等の暗号化通信をサポートしていること。
		ス. データベースへの更新を契機としてデータベースサーバ外の任意のプログラムにアクセスできること。また、メッセージキューイングシステムに対してメッセージを送受信できること。
		セ. データベースサーバへのアクセス権限管理にはロールベースのものを利用できること。
		ソ. ネイティブXML格納及びXML検索とクエリをサポートしていること。 (ア)XMLをそのままの形でデータベースに格納できる。 (イ)XMLを格納時に検証し、データベースには検証済みのXMLドキュメントとして格納できる。 (ウ)XMLファイルと通常のRDBデータを一つのデータベースに格納できる。 (エ)DTD または XMLスキーマの定義に照らしてXMLを検証することができる。 (オ)通常のRDBの検索結果をXML形式で出力する機能を有する。 (カ)検索式によって、格納されたXML形式のデータに対してXMLの構造のどの部分に対してもアクセスできる。
		タ. 現行基準システムで利用しているSybase Adaptive Server Enterpriseのスタッド・プロシージャが問題なく利用可能であること。
		チ. 1ファイル2GBまでのテキストやイメージを格納できること。
		ツ. データベースサーバの設定を再起動せずに動的に変更可能であること。
		テ. スケジュールによりデータベースサーバの設定を変更したり、バックアップなどの処理を自動化できる仕組みを有すること。
		ト. 形態素解析を利用した全文検索が可能であること。
		ナ. クラスタソフトウェアと連動し、起動・停止を自動化できること。また、障害発生時には自動的に系切り替えができること。
		ニ. パーティション機能を有すること。パーティションの種類を複数選択できること。
		ヌ. Transact-SQL が利用可能であること。
		ネ. クライアントアプリケーションからデータベースアクセス用のAPIが利用できること。
		ノ. SQL文のトレース等の監査ができること。ただし、RDBMSへの負荷を小さくすること。
		●クラスタソフトウェア(リポジット)
		ア. 3ノード以上のクラスタ構成をサポートできること。
		イ. 稼働待機構成以外に、複数の稼働系に対して1台に待機系(N:1)、あるいはすべて稼働系(N:N)といった柔軟なクラスタ構成が可能であること。
		ウ. アプリケーション単位に柔軟に最適なサーバに処理を引き継ぐことが可能であること。
		エ. 複数サービスを連動したサービス切り替えが可能であること。たとえば、WebサーバはDBサーバが必要であるとサービス間で依存関係を定義した場合、WebアプリケーションサーバがDBサーバの起動を待ってから起動し、DBサーバで障害を検出した場合にはWebアプリケーションサーバも切り替えるといった運用が可能である等。
		オ. RDBMSに対応したエージェント(起動・停止・系切り替え等の処理を行う)を有すること。
		カ. Quorumサーバとして構成したサーバを、共有ディスクの代わりにQuorumデバイスとして構成できること。
		キ. 全クラスタノードに対して、一度に同じコマンドを実行するためのユーティリティを備えていること。
		●ボリューム管理ソフトウェア
		ア. ノード間での排他制御機能を有すること。

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>イ. バスのマネージメント機能を有すること。</p> <p>ウ. ストレージ筐体をまたいだRAIDが構成できること。</p> <p>エ. ファイルシステムと連携した書き込みが可能であること。</p> <p>オ. ファイルシステムのオンラインデフラグが可能であること。</p> <p>カ. ファイルシステムの拡張・縮小が可能であること。</p> <p>キ. 現存するバッチプログラムを継続利用できること。</p> <p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>ウ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>●バックアップソフトウェア</p> <p>ア. RDBMSに対応するデータベース エージェントが用意されていること。</p> <p>イ. SAN上の共有テープストレージに対してエージェントから直接バックアップが可能であること。</p> <p>ウ. バックアップクライアント、バックアップサーバ側でSANのバックアップが可能であること。</p>
6.1	14	<p>■シンクライアントサーバ用ファイルサーバ</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. ファイアウォール機能を有すること。</p> <p>ウ. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能を備えていること。</p> <p>エ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>オ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408 におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>カ. 冗長化構成が組めること。</p> <p>キ. 仮想化機能を備えていること。</p> <p>●アンチウイルス</p> <p>ア. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。</p> <p>イ. リアルタイムスキャンにより、スパイウェアを自動的に検知して駆除する機能を有すること。</p> <p>ウ. Webベースのグラフィカルなレポートと集中管理を1台のコンソールから実行可能であること。</p> <p>エ. 定期的なディスク操作のほかに、メール受信や補助記憶媒体へのアクセスの都度、ファイルの走査を行う機能を有すること。</p> <p>オ. 複合的なコンピュータ環境にも対応可能であること。</p> <p>カ. 更新されたウイルスパターンファイルを端末に配布できること。</p> <p>キ. メニューが日本語であること。</p> <p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>ウ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p>
6.1	15	<p>■認証サーバ</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 32bitまたは64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. ファイアウォール機能を有すること。</p> <p>ウ. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能を備えていること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>エ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>オ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408 におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>カ. 冗長化構成が組めること。</p> <p>キ. 仮想化機能を備えていること。</p> <p>●シングルサインオンソフトウェア</p> <p>ア. エージェントインストール型リバースプロキシ方式を採用していること。</p> <p>イ. 認証サーバへのトラフィック集中によるパフォーマンス低下を抑制した仕組みであること。</p> <p>ウ. OSやWebサーバを選ばずにシングルサインオンできること。</p> <p>エ. クライアントでの設定が不要であること。</p> <p>オ. ID/PWよりも強固な認証が可能なこと。また、システムにより認証方式を容易に選択可能なこと。</p> <p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>●アンチウイルス</p> <p>ア. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。</p> <p>イ. リアルタイムスキャンにより、スパイウェアを自動的に検知して駆除する機能を有すること。</p> <p>ウ. Webベースのグラフィカルなレポートと集中管理を1台のコンソールから実行可能であること。</p> <p>エ. 定期的なディスク操作のほかに、メール受信や補助記憶媒体へのアクセスの都度、ファイルの走査を行う機能を有すること。</p> <p>オ. 複合的なコンピュータ環境にも対応可能であること。</p> <p>カ. 更新されたウイルスパターンファイルを端末に配布できること。</p> <p>キ. メニューが日本語であること。</p>
6.1	16	<p>■マスタディレクトリサーバ</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. IEEE 1003.1-1996及びIEEE 1003.2-1992に準拠していること。</p> <p>ウ. 統合サーバでは、15サーバ(30CPU)を統合することを想定しており、将来の拡張と合わせて、40基以上のCPUをサポートすることが可能なOSであること。</p> <p>エ. 扱える物理メモリの最大容量が1,152GBであること。</p> <p>オ. OSレベルでパーティション機能を有すること。</p> <p>カ. RBAC(Role Based Access Control/ロールベースでのアクセス制御管理)機能を有していること。</p> <p>キ. HTTP、FTP、TELNET、DNS、NTP、DHCP、SNMP、LDAP、SMTP、NISのインターネット標準に準拠していること。</p> <p>ク. システムに関連した問題をシステムの停止なしに、リアルタイムで問題解決できること。</p> <p>ケ. CPU、メモリ、I/Oシステムの監視及び診断を行い、障害リソースを自動的にオフライン化できる予測的自己修復機能を有すること。</p> <p>コ. I18nによる国際化、L10Nによる地域化による英語化、日本語化を実装すること。</p> <p>サ. ネットワーク仮名漢字変換システムを実装すること。</p> <p>シ. サーバシステムで採用するOSについては極力統一を図ることとし、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>ス. ソフトウェア構築上のソフトウェア製品等のプラットフォームについて極力統一し、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>セ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>ソ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>タ. 稼働中のシステムを動作させたまま、ブート環境のコピーを作成したり、コピー環境にパッチを適用したりできる機能を有していること。</p> <p>チ. レプリケーション機能、スナップショット、クローン、クォータを有したボリューム管理機能を備えていること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>●ディレクトリサービスソフトウェア(LDAP)</p> <p>ア. 64bit対応していること。</p> <p>イ. 12CPU までのリニアなスケーラビリティを備えていること。</p> <p>ウ. 4 台構成によるマルチマスタレプリケーションの実装によるサービスの冗長化が可能であること。</p> <p>エ. リポジトリの分散配置や他ディレクトリー製品との連携が容易であること。</p> <p>オ. ID情報/アプリケーション情報/ネットワークのリソース情報を、一元化したリポジトリとして格納できる機能を有すること。なお、上記のID情報/アプリケーション情報/ネットワークのリソース情報とは、物理情報ではなく、データとして一元的に格納できることを期待したものを指す。</p> <p>カ. DoS攻撃からの防御/特定の基準に基づいたアクセス制御/不正なアクセスの排除等の仕組みを有すること。</p> <p>キ. フェイルオーバー機能を提供することで、障害時においてもサービスを継続して提供可能 であること。</p> <p>ク. ディレクトリ環境を負荷に起因した障害から保護し、読み出しと検索/照会/閲覧に対する水平拡張性を提供できること。</p> <p>ケ. ディレクトリ・プロキシ・サービスを有すること。</p> <p>コ. DBの分散配置や他ディレクトリ製品との連携が容易であること。</p> <p>サ. Webベースの管理インタフェースを有すること。</p> <p>シ. データベースのエントリがレプリケーションされた場合に、特定の属性値だけを除外する、というような部分レプリケーションが可能であること。</p> <p>ス. マルチマスタ機能を有すること。</p> <p>セ. 管理ツールより、複数のDirectory Serverインスタンスの一元管理が可能なこと。</p> <p>ソ. 管理用にWebGUIツールが用意されていること。また、あわせてコマンドラインツールも提供されること。</p> <p>タ. 属性値の暗号化が可能なこと。</p> <p>チ. 現存するLDAPデータベースを全て次期環境に移管できること。</p> <p>●ディレクトリサービス連携ソフトウェア</p> <p>ア. マスタディレクトリサーバ上のディレクトリサービスソフトウェア(LDAP)で追加/変更されたユーザ情報・グループ情報は、認証サーバがもつディレクトリサービス機能やRDBMS 等と連携できること。</p> <p>イ. 1件対象のリアルタイム連携、全件対象のバッチ連携といったディレクトリ連携が可能であること。</p> <p>ウ. バッチ処理はスケジュールによる自動実行が可能であること。</p> <p>エ. CSVファイル、LDIFファイルやJDBC、ODBCインタフェースを介してデータベース等とLDAPサーバを直接連携した一括メンテナンスが可能であること。</p> <p>オ. 管理者向けメンテナンス画面が用意されていること。</p> <p>カ. マスタディレクトリサーバ上のディレクトリサービスソフトウェア(LDAP)のユーザ情報の内パスワード属性など既定の情報に関しては暗号化して保存が可能であること。</p> <p>キ. SSL通信をサポートしていること。</p> <p>ク. LDAP、CSV、RDBMS の項目など、各ディレクトリサービスやファイル間で異なる項目や属性は、マッピング(紐付け)という形で各々の対応を設定可能であること。</p> <p>ケ. ディレクトリサービスへの登録・更新・削除、連携先への反映状況などは、ログとして記録・保管できること。</p> <p>コ. 本務、兼務など複数の所属が管理可能なこと。所属ごとに異なる役職が管理可能なこと。</p> <p>サ. 組織、利用者、役職、組織と役職の組み合わせなどにより、利用者をグルーピング可能なこと。</p> <p>シ. プロジェクト、ワーキンググループ、タスクフォースなどを定義し、メンバーを管理可能なこと。また、利用者がプロジェクトなどで担う役割をあわせて管理可能なこと。</p> <p>ス. 組織、利用者、役職、組織と役職の組み合わせなどにより、利用者特定し、システムの利用権を自動的に付与可能なこと。</p> <p>セ. IDの管理、認証にかかわる証跡を取得し、必要に応じて検索が可能なこと。</p> <p>ソ. 任意のタイミング、かつ複数回ユーザーへのメール通知が可能なこと。また、通知のメール文書の内容は運用開始後も容易に変更可能なこと。</p> <p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>イ. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>ウ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>●アプリケーションサーバ</p> <p>ア. J2EE 1.4 以降の仕様をサポートしていること。</p> <p>イ. JDK1.4.2_10 以降、JDK1.5.0.04 以降上で動作すること。</p> <p>ウ. 静的コンテンツだけでなく、動的コンテンツをキャッシュする機能及び各サーバ間の通信でもロード・バランシングが設定可能であること。</p> <p>エ. データベースサーバに対してJDBC 等を用いたコネクションプール機能を有していること。</p> <p>オ. IPv6をサポートしていること。</p> <p>カ. 業務を停止せずにアプリケーションの追加・削除・修正が行えること。</p> <p>キ. データベースサーバに対する負荷分散と障害時のフェイルオーバー機能を有していること。</p> <p>ク. 障害時の自動的な情報収集の機能を有していること。</p>
6.1	17	<p>■運用管理サーバ</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. IEEE 1003.1-1996及びIEEE 1003.2-1992に準拠していること。</p> <p>ウ. 統合サーバでは、15サーバ(30CPU)を統合することを想定しており、将来の拡張分と合わせて、40基以上のCPUをサポートすることが可能なOSであること。</p> <p>エ. 扱える物理メモリの最大容量が1,152GBであること。</p> <p>オ. OSレベルでパーティション機能を有すること。</p> <p>カ. RBAC(Role Based Access Control/ロールベースでのアクセス制御管理)機能を有していること。</p> <p>キ. HTTP、FTP、TELNET、DNS、NTP、DHCP、SNMP、LDAP、SMTP、NISのインターネット標準に準拠していること。</p> <p>ク. システムに関連した問題をシステムの停止なしに、リアルタイムで問題解決できること。</p> <p>ケ. CPU、メモリ、I/Oシステムの監視及び診断を行い、障害リソースを自動的にオフライン化できる予測的自己修復機能を有すること。</p> <p>コ. I18nによる国際化、L10Nによる地域化による英語化、日本語化を実装すること。</p> <p>サ. ネットワーク仮名漢字変換システムを実装すること。</p> <p>シ. サーバシステムで採用するOSについては極力統一を図ることとし、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>ス. ソフトウェア構築上のソフトウェア製品等のプラットフォームについて極力統一し、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>セ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>ソ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>タ. 稼働中のシステムを動作させたまま、ブート環境のコピーを作成したり、コピー環境にパッチを適用したりできる機能を有していること。</p> <p>チ. レプリケーション機能、スナップショット、クローン、クォータを有したボリューム管理機能を備えていること。</p> <p>●クラスタソフトウェア</p> <p>ア. 3ノード以上のクラスタ構成をサポートできること。</p> <p>イ. 稼働待機構成以外に、複数の稼働系に対して1台に待機系(N:1)、あるいはすべて稼働系(N:N)といった柔軟なクラスタ構成が可能であること。</p> <p>ウ. アプリケーション単位に柔軟に最適なサーバに処理を引き継ぐことが可能であること。</p> <p>エ. 複数サービスを連動したサービス切り替えが可能であること。たとえば、Web サーバは DB サーバが必要であるとサービス間で依存関係を定義した場合、Web アプリケーションサーバが DB サーバの起動を待ってから起動し、DB サーバで障害を検出した場合には Web アプリケーションサーバも切り替えるといった運用が可能である等。</p> <p>オ. RDBMSに対応したエージェント(起動・停止・系切り替え等の処理を行う)を有すること。</p> <p>カ. Quoramサーバとして構成したサーバを、共有ディスクの代わりにQuorumデバイスとして構成できること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		キ. 全クラスターノードに対して、一度に同じコマンドを実行するためのユーティリティを備えていること。
		●ボリューム管理ソフトウェア
		ア. ノード間での排他制御機能を有すること。
		イ. パスのマネージメント機能を有すること。
		ウ. ストレージ筐体をまたいだRAIDが構成できること。
		エ. ファイルシステムと連携した書き込みが可能であること。
		オ. ファイルシステムのオンラインデフラグが可能であること。
		カ. ファイルシステムの拡張・縮小が可能であること。
		キ. 現存するバッチプログラムを継続利用できること。
		●ITILサポートツール
		ア. 問い合わせ受付・管理機能として以下を有すること。 (ア) 受付手段として、電話・FAX・メール・WWW 画面を有すること。 (イ) 電話については着信課金方式とし、受託者が料金を負担すること。 (ウ) 受付操作を行うための端末及びソフトウェアを用意すること。 (エ) 受付内容を一元的に管理するデータベース機能を有すること。 (オ) 受付内容の進捗状況について管理するための機能を有すること。 (カ) 2 次サポート窓口へ展開した場合も、進捗状況を管理可能とすること。 (キ) 呼応率を管理するための機能を有すること。 (ク) レポート機能を有すること。
		イ. 問い合わせ履歴分析機能として以下を有すること。 (ア) 問い合わせ内容を多角的に分析・統計を行い、保守計画立案やシステムの機能改善提案を行うためのデータベース機能を有すること。 (イ) レポート機能を有すること。
		ウ. インシデント管理機能として以下を有すること。 (ア) インシデントの内容を一元的に管理するデータベース機能を有すること。 (イ) インシデント解消の進捗状況について管理するための機能を有すること。 (ウ) レポート機能を有すること。
		エ. 問題管理機能として以下を有すること。 (ア) 問題の内容を一元的に管理するデータベース機能を有すること。 (イ) 問題解決の進捗状況について管理するための機能を有すること。 (ウ) レポート機能を有すること。
		オ. 変更管理機能として以下を有すること。 (ア) 変更の内容を一元的に管理するデータベース機能を有すること。 (イ) 変更作業の進捗状況について管理するための機能を有すること。 (ウ) レポート機能を有すること。
		カ. 同時接続端末数は10 台可能であること。
		キ. 構成管理を一元的に行うデータベース機能を有すること。
		ク. サービスレベル管理を一元的に行うデータベース機能を有すること。
		●RDBMS
		ア. ディレクトリサービス連携ソフトウェアが指定、推奨するRDBMSとする。
		イ. ITILサポートツールが指定、推奨するRDBMSとする。
		●RDBMS
		ア. SQL 92 以降に準拠していること。
		イ. Transact-SQL が利用可能であること。
		ウ. 非同期通信によるイメージデータ転送を行うことができること。
		エ. SSL等の暗号化通信をサポートしていること。
		オ. IPv6に対応していること。
		カ. 原本管理サーバのRDBMS との接続及び同期が可能であること。同期元と同期先(原本管理サーバ)とで、整合性が保障されること。
		キ. 同期時には、データの消失が発生しない仕組みを有すること。
		ク. ページサイズを2KB、4KB、8KB、16KB から選択できること。
		ケ. クライアントアプリケーションからデータベースアクセス用のAPIとしてODBC、OLEDB、JDBC 等が利用できること。

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		コ. 1,000 台以上での転送実績を有すること。
		●エージェントソフトウェア
		ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。
		イ. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。
		ウ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。
		●ジョブスケジュール制御
		ア. GUI を使用して、ジョブの定義が行えること。なお、GUI を利用する際に、走査するユーザの権限を管理する機能を提供すること。
		イ. OS 混在環境でも制御が可能であること。
		ウ. カレンダーに基づいてジョブ群を年次、月次、週次、日次等計画スケジュールできること。
		エ. ジョブの実行タイミングとして、①即時に実行②計画的に実行③ファイル着信等のイベントに応じて実行が設定できること。また、異常終了時を考慮し、ジョブの再実行も行えること。
		オ. 一連のジョブ群(ジョブネット)の先行・後行が定義できること。また、一連のジョブ群を3 階層以上の階層で定義・実行できること。
		カ. 異常時の対応も含めた、ジョブの定義が行えること。
		キ. ジョブの保留・解除が行えること。
		ク. システムの時刻を日本標準時と同期し、システム全体へ即時反映する機能を有すること。
		ケ. ジョブ実行対象となるサーバにエージェントを用意すること。
		コ. ジョブネット数を必要最低限の数で構成できること。
		サ. 複数のイベントを待っている状態で、いずれかのイベントが1つ終了した時点で次のジョブに進むことができること。
		シ. ジョブネットの実行に際しては、先行ジョブのリターンコードに応じてその後の実行すべきジョブネットが自動的に選択されること。振り分けは10種類以上可能であること。
		ス. 業務の管理単位であるルートジョブネットの実行順序を制御することができ、異なる部門で管理する別ルートジョブネットとの実行順序関係も容易に定義できること。
		セ. 基準となるジョブの先行・後続のアイコンを強調表示でき、異常時の影響範囲や、関連性の認識がしやすいこと。
		ソ. ジョブ実行状況及び結果は色によりビジュアルに監視できること。最低限、実行待ち、正常終了、警告終了及び異常終了は色で判別できること。
		タ. 全体で10,000件/日異常のジョブが実行できること。
		チ. 操作コンソールは操作者によって任意の機能のみ表示する機能を有すること。
		ツ. 現存するジョブネットを全て次期環境に移管できること。
		●バックアップソフトウェア(サーバ)
		ア. バックアップとリカバリ環境全体の集中管理が可能であること。
		イ. バックアップの自動スケジュール実行が可能であること。
		ウ. 日次のバックアップが毎回確実に取得できているかの確認が可能であること。
		エ. リアルタイム監視が可能であること。
		オ. 履歴レポートを作成できること。
		カ. アラート管理が可能であること。
		キ. トラブルシューティング等が利用できること。
		ク. バックアップ対象の規模に合わせて、容易に対応可能であること。
		ケ. 地理的な場所に関係なくすべてのバックアップとリカバリの操作が1つのコンソール上から実行可能であること。
		コ. 複数のプラットフォーム、データベース、アプリケーション、デバイス、アーキテクチャなどが混在する環境についても対応可能であること。
		サ. バックアップにディスクとテープの両方を使用できること。
		シ. テープの外地保管を支援する機能を有すること。

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>ス. クライアント重複排除、サーバ重複排除、ストレージ重複排除に対応可能であること。</p> <p>セ. 重複排除バックアップしたデータを、遠隔地のバックアップサーバにレプリケーションが可能であること。</p> <p>ソ. 現存するバッチプログラムを継続利用できること。</p>
6.1	18	<p>■ネットワーク管理サーバ</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. IEEE 1003.1-1996及びIEEE 1003.2-1992に準拠していること。</p> <p>ウ. 統合サーバでは、15サーバ(30CPU)を統合することを想定しており、将来の拡張分と合わせて、40基以上のCPUをサポートすることが可能なOSであること。</p> <p>エ. 扱える物理メモリの最大容量が1,152GBであること。</p> <p>オ. ボリュームマネジメント機能を有すること。</p> <p>カ. RBAC (Role Based Access Control/ロールベースでのアクセス制御管理)機能を有していること。</p> <p>キ. HTTP、FTP、TELNET、DNS、NTP、DHCP、SNMP、LDAP、SMTP、NISのインターネット標準に準拠していること。</p> <p>ク. システムに関連した問題をシステムの停止なしに、リアルタイムで問題解決できること。</p> <p>ケ. CPU、メモリ、I/Oシステムの監視及び診断を行い、障害リソースを自動的にオフライン化できる予測的自己修復機能を有すること。</p> <p>コ. I18nによる国際化、L10Nによる地域化による英語化、日本語化を実装すること。</p> <p>サ. ネットワーク仮名漢字変換システムを実装すること。</p> <p>シ. サーバシステムで採用するOSについては極力統一を図ることとし、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>ス. ソフトウェア構築上のソフトウェア製品等のプラットフォームについて極力統一し、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>セ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>ソ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>タ. 稼働中のシステムを動作させたまま、ブート環境のコピーを作成したり、コピー環境にパッチを適用したりできる機能を有していること。</p> <p>チ. レプリケーション機能、スナップショット、クローン、クォータを有したボリューム管理機能を備えていること。</p> <p>●クラスタソフトウェア</p> <p>ア. 3ノード以上のクラスタ構成をサポートできること。</p> <p>イ. 稼働待機構成以外に、複数の稼働系に対して1台に待機系(N:1)、あるいはすべて稼働系(N:N)といった柔軟なクラスタ構成が可能であること。</p> <p>ウ. アプリケーション単位に柔軟に最適なサーバに処理を引き継ぐことが可能であること。</p> <p>エ. 複数サービスを連動したサービス切り替えが可能であること。たとえば、WebサーバはDBサーバが必要であるとサービス間で依存関係を定義した場合、WebアプリケーションサーバがDBサーバの起動を待ってから起動し、DBサーバで障害を検出した場合にはWebアプリケーションサーバも切り替えるといった運用が可能である等。</p> <p>オ. RDBMSに対応したエージェント(起動・停止・系切り替え等の処理を行う)を有すること。</p> <p>カ. Quorumサーバとして構成したサーバを、共有ディスクの代わりにQuorumデバイスとして構成できること。</p> <p>キ. 全クラスタノードに対して、一度に同じコマンドを実行するためのユーティリティを備えていること。</p> <p>●ボリューム管理ソフトウェア</p> <p>ア. ノード間での排他制御機能を有すること。</p> <p>イ. パスのマネージメント機能を有すること。</p> <p>ウ. ストレージ筐体をまたいだRAIDが構成できること。</p> <p>エ. ファイルシステムと連携した書き込みが可能であること。</p> <p>オ. ファイルシステムのオンラインデフラグが可能であること。</p> <p>カ. ファイルシステムの拡張・縮小が可能であること。</p> <p>キ. 現存するバッチプログラムを継続利用できること。</p> <p>●ITILサポートツール</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>ア. 問い合わせ受付・管理機能として以下を有すること。 (ア) 受付手段として、電話・FAX・メール・WWW 画面を有すること。 (イ) 電話については着信課金方式とし、受託者が料金を負担すること。 (ウ) 受付操作を行うための端末及びソフトウェアを用意すること。 (エ) 受付内容を一元的に管理するデータベース機能を有すること。 (オ) 受付内容の進捗状況について管理するための機能を有すること。 (カ) 2 次サポート窓口へ展開した場合も、進捗状況を管理可能とすること。 (キ) 呼応率を管理するための機能を有すること。 (ク) レポート機能を有すること。</p>
		<p>イ. 問い合わせ履歴分析機能として以下を有すること。 (ア) 問い合わせ内容を多角的に分析・統計を行い、保守計画立案やシステムの機能改善提案を行うためのデータベース機能を有すること。 (イ) レポート機能を有すること。</p>
		<p>ウ. インシデント管理機能として以下を有すること。 (ア) インシデントの内容を一元的に管理するデータベース機能を有すること。 (イ) インシデント解消の進捗状況について管理するための機能を有すること。 (ウ) レポート機能を有すること。</p>
		<p>エ. 問題管理機能として以下を有すること。 (ア) 問題の内容を一元的に管理するデータベース機能を有すること。 (イ) 問題解決の進捗状況について管理するための機能を有すること。 (ウ) レポート機能を有すること。</p>
		<p>オ. 変更管理機能として以下を有すること。 (ア) 変更の内容を一元的に管理するデータベース機能を有すること。 (イ) 変更作業の進捗状況について管理するための機能を有すること。 (ウ) レポート機能を有すること。</p>
		<p>カ. 同時接続端末数は10 台可能であること。</p>
		<p>キ. 構成管理を一元的に行うデータベース機能を有すること。</p>
		<p>ク. サービスレベル管理を一元的に行うデータベース機能を有すること。</p>
		<p>●RDBMS</p>
		<p>ア. ディレクトリサービス連携ソフトウェアが指定、推奨するRDBMSとする。</p>
		<p>イ. ITILサポートツールが指定、推奨するRDBMSとする。</p>
		<p>●RDBMS</p>
		<p>ア. インスタンスを比較し、それぞれのインスタンス特有のパフォーマンス問題を特定可能な機能を備えていること。</p>
		<p>イ. 定期的にインスタンスの統計をとり、時間とともにどのようにインスタンスが実行されるかを監視できること。</p>
		<p>ウ. データベースオブジェクトの領域使用を監視できること。</p>
		<p>エ. 継続的にアクセス計画に対する変更を追跡し、時間の経過に伴うデータベース動作の把握が可能であること。</p>
		<p>オ. 各サーバで用意するRDBMS に対応していること。</p>
		<p>●エージェントソフトウェア</p>
		<p>ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。</p>
		<p>イ. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p>
		<p>ウ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p>
		<p>●ジョブスケジュール制御</p>
		<p>ア. GUI を使用して、ジョブの定義が行えること。なお、GUI を利用する際に、走査するユーザの権限を管理する機能を提供すること。</p>
		<p>イ. OS 混在環境でも制御が可能であること。</p>
		<p>ウ. カレンダーに基づいてジョブ群を年次、月次、週次、日次等計画スケジュールできること。</p>
		<p>エ. ジョブの実行タイミングとして、①即時に実行②計画的に実行③ファイル着信等のイベントに応じて実行が設定できること。また、異常終了時を考慮し、ジョブの再実行も行えること。</p>
		<p>オ. 一連のジョブ群(ジョブネット)の先行・後行が定義できること。また、一連のジョブ群を3 階層以上の階層で定義・実行できること。</p>
		<p>カ. 異常時の対応も含めた、ジョブの定義が行えること。</p>
		<p>キ. ジョブの保留・解除が行えること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>ク. システムの時刻を日本標準時と同期し、システム全体へ即時反映する機能を有すること。</p> <p>ケ. ジョブ実行対象となるサーバにエージェントを用意すること。</p> <p>●ネットワーク監視</p> <p>ア. 障害検知、通知にSNMP プロトコルを使用していること。</p> <p>イ. SNMP エージェントからMIB 値を収集し、リアルタイムな監視を可能とすること。</p> <p>ウ. しきい値の設定が行え、値を超える場合にはメール等による通知ができること。</p> <p>エ. RDBMS やアプリケーションサーバパッケージなどの重要なプロセスの稼働・停止を監視できること。</p> <p>オ. ネットワーク上のIP ノードを自動的に検出し、監視画面に表示すること。</p> <p>カ. 監視画面について、XGA 以上の解像度で、65型以上の大型ディスプレイに表示すること。</p> <p>キ. 状態の変化がビジュアルで分かる機能を有すること。なお、同時に自動的にメールによる通知等のアクションを行えること。</p> <p>ク. IPv4、IPv6が混在したネットワークを管理できること。</p> <p>ケ. 監視対象外とする設定も可能であること。</p> <p>コ. 外部システムを除くネットワーク上の全ての装置について、画面状態を監視するための機能を提供すること。ただし、画面を保持しないものは除く。</p> <p>サ. 監視対象となるサーバにエージェントを用意すること。</p> <p>シ. ネットワーク管理マップでは、ユーザ独自でグループ化でき、ロケーションを意識した階層化したシンボルで表示でき、障害は表示したシンボルの色で判別できること。</p> <p>ス. 各IPノードとの通信を定期的を確認でき、異常時には通報する仕組みを有すること。</p> <p>セ. ネットワークの障害を検知したとき、事前に設定された特定の動作(プログラム)を実行させることができ、ネットワークの障害に素早く対応することができること。</p> <p>ソ. ネットワーク管理ツールのDBバックアップを、ツールの停止なく実現できること。</p> <p>タ. ノードの状態監視、サーバのリソースしきい値監視、プロセス監視がネットワーク管理マップ上で表現され、同じ操作イメージで監視ができること。</p> <p>チ. フェールオーバーに対応できること。</p> <p>ツ. ファイアウォールをはさんだネットワークや、NAT環境下のネットワークも監視できること。</p> <p>テ. 監視ノード異常時に繰り返し発生するメッセージを圧縮する相関処理機能を有すること。また、監視対象が障害から回復に遷移した場合、自動で受諾する機能を有すること。</p> <p>●バックアップソフトウェア</p> <p>ア. エージェントを配置しネットワークを経由してマネージャにバックアップデータを転送可能であること。</p> <p>イ. RAWデバイスのバックアップから、個別のファイルがリストアップできること。</p>
6.1	19	<p>■問い合わせ受付管理サーバ</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. IEEE 1003.1-1996及びIEEE 1003.2-1992に準拠していること。</p> <p>ウ. 統合サーバでは、15サーバ(30CPU)を統合することを想定しており、将来の拡張分と合わせて、40基以上のCPUをサポートすることが可能なOSであること。</p> <p>エ. 扱える物理メモリの最大容量が1,152GBであること。</p> <p>オ. ボリュームマネジメント機能を有すること。</p> <p>カ. RBAC(Role Based Access Control/ロールベースでのアクセス制御管理)機能を有していること。</p> <p>キ. HTTP、FTP、TELNET、DNS、NTP、DHCP、SNMP、LDAP、SMTP、NISのインターネット標準に準拠していること。</p> <p>ク. システムに関連した問題をシステムの停止なしに、リアルタイムで問題解決できること。</p> <p>ケ. CPU、メモリ、I/Oシステムの監視及び診断を行い、障害リソースを自動的にオフライン化できる予測的自己修復機能を有すること。</p> <p>コ. I18nによる国際化、L10Nによる地域化による英語化、日本語化を実装すること。</p> <p>サ. ネットワーク仮名漢字変換システムを実装すること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		シ. サーバシステムで採用するOSについては極力統一を図ることとし、システムメンテナンス性を確保すること。
		ス. ソフトウェア構築上のソフトウェア製品等のプラットフォームについて極力統一し、システムメンテナンス性を確保すること。
		セ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。
		ソ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。
		タ. 稼働中のシステムを動作させたまま、ブート環境のコピーを作成したり、コピー環境にパッチを適用したりできる機能を有していること。
		チ. レプリケーション機能、スナップショット、クローン、クォータを有したボリューム管理機能を備えていること。
		●ITILサポートツール
		ア. 問い合わせ受付・管理機能として以下を有すること。 (ア) 受付手段として、電話・FAX・メール・WWW 画面を有すること。 (イ) 電話については着信課金方式とし、受託者が料金を負担すること。 (ウ) 受付操作を行うための端末及びソフトウェアを用意すること。 (エ) 受付内容を一元的に管理するデータベース機能を有すること。 (オ) 受付内容の進捗状況について管理するための機能を有すること。 (カ) 2 次サポート窓口へ展開した場合も、進捗状況を管理可能とすること。 (キ) 呼応率を管理するための機能を有すること。 (ク) レポート機能を有すること。
		イ. 問い合わせ履歴分析機能として以下を有すること。 (ア) 問い合わせ内容を多角的に分析・統計を行い、保守計画立案やシステムの機能改善提案を行うためのデータベース機能を有すること。 (イ) レポート機能を有すること。
		ウ. インシデント管理機能として以下を有すること。 (ア) インシデントの内容を一元的に管理するデータベース機能を有すること。 (イ) インシデント解消の進捗状況について管理するための機能を有すること。 (ウ) レポート機能を有すること。
		エ. 問題管理機能として以下を有すること。 (ア) 問題の内容を一元的に管理するデータベース機能を有すること。 (イ) 問題解決の進捗状況について管理するための機能を有すること。 (ウ) レポート機能を有すること。
		オ. 変更管理機能として以下を有すること。 (ア) 変更の内容を一元的に管理するデータベース機能を有すること。 (イ) 変更作業の進捗状況について管理するための機能を有すること。 (ウ) レポート機能を有すること。
		カ. 同時接続端末数は10 台可能であること。
		キ. 構成管理を一元的に行うデータベース機能を有すること。
		ク. サービスレベル管理を一元的に行うデータベース機能を有すること。
		●RDBMS
		ア. ディレクトリサービス連携ソフトウェアが指定、推奨するRDBMSとする。
		イ. ITILサポートツールが指定、推奨するRDBMSとする。
		●クラスタソフトウェア
		ア. 3ノード以上のクラスタ構成をサポートできること。
		イ. 稼働待機構成以外に、複数の稼働系に対して1台に待機系(N:1)、あるいはすべて稼働系(N:N)といった柔軟なクラスタ構成が可能であること。
		ウ. アプリケーション単位に柔軟に最適なサーバに処理を引き継ぐことが可能であること。
		エ. 複数サービスを連動したサービス切り替えが可能であること。たとえば、Web サーバは DB サーバが必要であるとサービス間で依存関係を定義した場合、Web アプリケーションサーバが DB サーバの起動を待ってから起動し、DB サーバで障害を検出した場合には Web アプリケーションサーバも切り替えるといった運用が可能である等。
		オ. RDBMSに対応したエージェント(起動・停止・系切り替え等の処理を行う)を有すること。
		カ. Quorumサーバとして構成したサーバを、共有ディスクの代わりにQuorumデバイスとして構成できること。
		キ. 全クラスタノードに対して、一度に同じコマンドを実行するためのユーティリティを備えていること。
		●ボリューム管理ソフトウェア
		ア. ノード間での排他制御機能を有すること。
		イ. バスのマネージメント機能を有すること。

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>機能要件</p> <ul style="list-style-type: none"> ウ. ストレージ筐体をまたいだRAIDが構成できること。 エ. ファイルシステムと連携した書き込みが可能であること。 オ. ファイルシステムのオンラインデフラグが可能であること。 カ. ファイルシステムの拡張・縮小が可能であること。 キ. 現存するバッチプログラムを継続利用できること。 <p>●エージェントソフトウェア</p> <ul style="list-style-type: none"> ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。 イ. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。 ウ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。 <p>●バックアップソフトウェア</p> <ul style="list-style-type: none"> ア. エージェントを配置しネットワークを経由してマネージャにバックアップデータを転送可能であること。 イ. RAWデバイスのバックアップから、個別のファイルがリストアできること。
6.1	20	<p>■CTIサーバ</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <ul style="list-style-type: none"> ア. CTIパッケージの指定するオペレーティングシステム(OS)であること。 イ. 32bitまたは64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。 ウ. ファイアウォール機能を有すること。 エ. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能を備えていること。 オ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。 カ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。 キ. 冗長化構成が組めること。 ク. 仮想化機能を備えていること。 <p>●CTIシステム(コールセンタシステム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ア. オペレータの人数や配置に応じて、外線からの着信に対して、一斉着信、優先着信、順次着信等を設定できること。 イ. 発信者番号通知機能を用いて、発信者情報(電話番号、氏名、局署名、過去の問い合わせ履歴等)をオペレータのディスプレイに表示させること。 ウ. 応答記録を保管できること。なお、保管に当たっては、外部補助記憶媒体への保管も可能であること。 エ. 応答内容をあらかじめ定めた分類で記録できること。 オ. オペレータ管理者から、各オペレータの応答状況をモニターできること。また管理者と問い合わせ者との通話に切替えられること。 カ. オペレータから管理者に対して、応答中に、状況のモニターを要請できること。 キ. 文字メッセージの送信により、管理者からオペレータの応答を支援できること。
6.1	21	<p>■音声応答サーバ</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <ul style="list-style-type: none"> ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。 イ. ファイアウォール機能を有すること。 ウ. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能を備えていること。 エ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。 オ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。 カ. 冗長化構成が組めること。 キ. 仮想化機能を備えていること。 <p>●音声自動応答ソフトウェア</p> <ul style="list-style-type: none"> ア. 不特定の人の声をほぼ確実に聞き取る事ができること。

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>イ. コード表を見ながらのダイヤル操作ではなく、自然な対話形式で、誰でも簡単に目的の情報を取り出せること。</p> <p>ウ. 同時に4～16人(回線)の方へそれぞれの情報を提供できること。</p> <p>エ. 1つの項目に対し、複数の読みや表現が設定できること。</p> <p>オ. 情報を特定できない場合は、ガイダンス音声に従って絞り込みを行うことができること。</p> <p>カ. バージン機能を有し、ガイダンス途中の発声やダイヤル操作が可能であること。</p> <p>キ. 従来のテレホンガイドのような、メニューコード(情報番号)によるプッシュ入力操作も可能であること。</p> <p>ク. 高精度なダイヤルパルス認識機能により、回転ダイヤル式の電話からも利用できること。</p> <p>ケ. FAXで情報を取り出すことができること。</p> <p>コ. 1項目に対し最大100種類の情報が登録でき、それぞれに案内期間が設定できること。</p> <p>サ. 期間により異なる情報も事前に登録できること(スケジュール登録できること)。</p> <p>シ. 項目ごとや時間帯ごとの利用状況がプリントできること。</p> <p>ス. 情報の入れ替えや追加・削除を、離れた電話機やFAXから簡単に行うことができること。</p> <p>セ. 項目ごとのパスワード設定ができ、部外者からの操作や誤って他の情報を更新してしまわない仕組みを有すること。</p> <p>ソ. 音声やFAXデータは、必要に応じてバックアップ及び復元を行うことができること。</p> <p>タ. ワープロ等で入力した漢字かな混じりのテキストデータを、自然な音声に変換する機能を備えていること。</p> <p>チ. アナウンサーに依頼することなく、容易に音声メッセージが作成できること。</p> <p>ツ. ワープロ等で作成した内容を、そのままFAXデータとして登録できること。</p> <p>●アンチウイルス</p> <p>ア. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。</p> <p>イ. リアルタイムスキャンにより、スパイウェアを自動的に検知して駆除する機能を有すること。</p> <p>ウ. Webベースのグラフィカルなレポートと集中管理を1台のコンソールから実行可能であること。</p> <p>エ. 定期的なディスク操作のほかに、メール受信や補助記憶媒体へのアクセスの都度、ファイルの走査を行う機能を有すること。</p> <p>オ. 複合的なコンピュータ環境にも対応可能であること。</p> <p>カ. 更新されたウイルスパターンファイルを端末に配布できること。</p> <p>キ. メニューが日本語であること。</p>
6.1	22	<p>■統制サーバ</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. ファイアウォール機能を有すること。</p> <p>ウ. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能を備えていること。</p> <p>エ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>オ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>カ. 冗長化構成が組めること。</p> <p>キ. 仮想化機能を備えていること。</p> <p>●Webブラウザソフトウェア</p> <p>ア. W3C HTML5に準拠したコンテンツの処理が行えること。</p> <p>イ. ECMAScript5に準拠したコンテンツの処理が行えること。</p> <p>ウ. メニューが日本語で表示できること。</p> <p>●UPS統合管理</p> <p>ア. UPSの管理機能を有すること。</p> <p>●アンチウイルス</p> <p>ア. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>イ. リアルタイムスキャンにより、スパイウェアを自動的に検知して駆除する機能を有すること。</p> <p>ウ. Webベースのグラフィカルなレポートと集中管理を1台のコンソールから実行可能であること。</p> <p>エ. 定期的なディスク操作のほかに、メール受信や補助記憶媒体へのアクセスの都度、ファイルの走査を行う機能を有すること。</p> <p>オ. 複合的なコンピュータ環境にも対応可能であること。</p> <p>カ. 更新されたウイルスパターンファイルを端末に配布できること。</p> <p>キ. メニューが日本語であること。</p> <p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>ウ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>●プログラム配布</p> <p>ア. 配付プログラムを圧縮する機能を有すること。</p> <p>イ. 配付が失敗した配付先に再配付を行う機能を有すること。</p> <p>ウ. 配付中の処理を中断する機能を有すること。</p> <p>エ. 配付プログラム毎に、配付待ち装置数、配付失敗装置数を表示する機能を有すること。また、各装置の配付待ち、配付済み、及び配付失敗を一覧表示する機能を有すること。</p> <p>オ. インストール前にディスク容量をチェックし、不足している場合は警告を出す機能を有すること。</p> <p>カ. インストールプログラム毎に、インストール待ち装置数、インストール済装置数、インストール失敗装置数を表示する機能を有すること。また、各装置のインストール待ち、インストール済、インストール失敗を一覧表示する機能を有すること。</p> <p>キ. 配付するプログラムについては、配付先を個々に指定できること。</p> <p>ク. 装置故障の復旧時に、速やかにプログラム配付を行う仕組みを有すること。</p> <p>ケ. プログラム配付先対象となるサーバにエージェントを用意すること。</p> <p>コ. 管理対象がWindows、UNIXの混在環境でもシームレスな運用ができること。</p> <p>サ. 配布形態として、サーバから一方的に配布インストールする方式(PUSH型)と、クライアントユーザが選択してインストールする方式(PULL型)とがあり、配布内容によりそれらを選択できること。</p> <p>シ. 管理側が、クライアントのIPアドレス及びホスト名の変更を意識することなく管理ができること。</p> <p>ス. 即時/スケジュール配布、インストールができること。</p> <p>セ. クライアントPCが一般権限のユーザIDでログインしていた場合でも、配布・インストールができること。</p> <p>ソ. インストール直前、直後及びエラー時に任意のプログラム起動ができること。</p> <p>タ. システム条件(ハード条件)、ソフトウェア条件によって、それにマッチしないクライアントに対してはインストールを行わないことができること。</p> <p>チ. 配布資源のダウンロード中、インストール中及びインストールエラー時のダイアログをクライアント画面に表示及び抑止ができること。</p> <p>ツ. 通信方法として、ユニキャスト及びマルチキャストのどちらの環境でも運用が可能であること。また、ネットワーク負荷を考慮し分割配布が可能であること。</p>
6.1	23	<p>■運用管理/ヘルプデスク端末</p> <p>◆運用管理/ヘルプデスク端末(18台)</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>イ. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能に接続できること。</p> <p>ウ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>エ. 現行OSのビジネスプログラムを実行できること。</p> <p>オ. 32bitのOSであること。</p> <p>●端末エミュレータ(端末ウィンドウ)(運用管理端末)</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		ア. Solaris, SunOS, Linux, HP-UX, AIX, IRIX, Tru64UNIX, EWS4800, 各種PC UNIXなどに対応していること。サーバごとに対応可能な端末エミュレータを用意してもよい。
		イ. 運用管理/ヘルプデスク端末から、各サーバのデスクトップをリモート環境で表示できること。
		ウ. フルカラー画面での256色モードエミュレーション、各UNIX OS用の代替フォントの搭載など、UNIXホストのコンソールとの高い互換性を実現し、様々なUNIXアプリケーションが表示可能であること。
		エ. 端末のOS上の日本語入力機構からUNIXアプリケーションへの日本語入力が可能であること。端末のOSとUNIX間の日本語文字列のカットアンドペーストが可能であること。
		オ. NFSプロトコルを使用したフォントファイルへのアクセス機能を標準で実装していること。
		●シンクライアントサーバ接続ミドルウェア
		ア. シンクライアントサーバが提供するサーバベースコンピューティング環境に接続可能であること。
		イ. オペレーティングシステム(OS)との親和性が保証されていること。
		ウ. Thin Clientとシンクライアントサーバとの間の通信がスムーズであること。WANなどの狭帯ネットワーク環境でも常に快適にアプリケーションを利用できること。
		エ. 画像転送方式のシンクライアントサーバに接続できること。
		●オフィスアプリケーションソフトウェア(運用管理端末)
		ア. Microsoft Office 2003以降で作成された現行資産を正常に扱うことができること。
		イ. 文書作成ソフトウェア、表計算ソフトウェア、プレゼンテーションソフトウェア、簡易データベースソフトウェア、メール閲覧・作成ソフトウェアで構成されていること。
		ウ. メール閲覧・作成ソフトウェアとしては、POP3、IMAP4、SMTPに対応可能であること。S/MIMEならびにOpenPGPに対応した暗号化メールのための拡張機能を有していること。
		エ. OASIS(Organization for the Advancement of Structured Information Standards)公開文書形式標準に準拠した文書の読み込み、編集、印刷、書き出しが可能であること。
		オ. メニューが日本語であること。
		カ. ディレクトリサービスと連携し、制限等を一括管理できること。
		キ. インターフェイスのメニューがリボンスタイルであること。
		ク. スクリーンショット機能として、2クリックの操作でウィンドウを貼り付けられること。
		ケ. [保存]、[印刷]、[送信]、などのファイル全体の操作が一括でできること。
		●ワープロソフトウェア(運用管理端末/ヘルプデスク端末)
		ア. Justsystem 一太郎13以降で作成された現行資産を正常に扱うことができること。
		イ. 公文書の作成を支援する辞書を標準搭載していること。
		ウ. 公用文に特化した文書校正機能を有すること。
		エ. 文書中の個人情報や特定固有名詞などを自動抽出し、一つ一つをチェックしながら伏せ字に置き換える機能を有すること。
		オ. 文書にすかし文字をいれて保存する機能を有すること。
		カ. 文書の閲覧・編集を制限して保存する機能を有すること。
		キ. さまざまなファイル形式での文書保存が可能であること。
		ク. 公務に便利な機能を厳選、追加した専用メニュー機能を有すること。
		ケ. 行政機関での利用シーンを想定したヘルプ機能を有すること。
		●PDFファイル閲覧ソフトウェア
		ア. 無償のPDFファイル閲覧ソフトウェアであること。
		●Webブラウザソフトウェア(運用管理端末/ヘルプデスク端末)
		ア. W3C HTML5に準拠したコンテンツの処理が行えること。
		イ. ECMAScript5に準拠したコンテンツの処理が行えること。
		ウ. メニューが日本語で表示できること。
		●アンチウイルス
		ア. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。
		イ. リアルタイムスキャンにより、スパイウェアを自動的に検知して駆除する機能を有すること。

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>ウ. Webベースのグラフィカルなレポートと集中管理を1台のコンソールから実行可能であること。</p> <p>エ. 定期的なディスク操作のほかに、メール受信や補助記憶媒体へのアクセスの都度、ファイルの走査を行う機能を有すること。</p> <p>オ. 複合的なコンピュータ環境にも対応可能であること。</p> <p>カ. 更新されたウイルスパターンファイルを端末に配布できること。</p> <p>キ. メニューが日本語であること。</p>
		<p>●エージェントソフトウェア(2台)</p> <p>ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。</p>
		<p>◆運用管理/ヘルプデスク端末(ヘルプデスク端末兼、シンクライアント管理用端末)(2台)</p>
		<p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>イ. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能に接続できること。</p> <p>ウ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408 におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>エ. 現行OSのビジネスプログラムを実行できること。</p> <p>オ. 32bitのOSであること。</p>
		<p>●端末エミュレータ(端末ウィンドウ)(運用管理端末)</p> <p>ア. Solaris, SunOS, Linux, HP-UX, AIX, IRIX, Tru64UNIX, EWS4800, 各種PC UNIXなどに対応していること。サーバごとに対応可能な端末エミュレータを用意してもよい。</p> <p>イ. 運用管理/ヘルプデスク端末から、各サーバのデスクトップをリモート環境で表示できること。</p> <p>ウ. フルカラー画面での256色モードエミュレーション、各UNIX OS用の代替フォントの搭載など、UNIXホストのコンソールとの高い互換性を実現し、様々なUNIXアプリケーションが表示可能であること。</p> <p>エ. 端末のOS上の日本語入力機構からUNIXアプリケーションへの日本語入力が可能であること。端末のOSとUNIX間の日本語文字列のカットアンドペーストが可能であること。</p> <p>オ. NFSプロトコルを使用したフォントファイルへのアクセス機能を標準で実装していること。</p>
		<p>●シンクライアントサーバ接続ミドルウェア</p> <p>ア. シンクライアントサーバが提供するサーバベースコンピューティング環境に接続可能であること。</p> <p>イ. オペレーティングシステム(OS)との親和性が保証されていること。</p> <p>ウ. Thin Clientとシンクライアントサーバとの間の通信がスムーズであること。WANなどの狭帯ネットワーク環境でも常に快適にアプリケーションを利用できること。</p> <p>エ. 画像転送方式のシンクライアントサーバに接続できること。</p>
		<p>●オフィスアプリケーションソフトウェア(運用管理端末)</p> <p>ア. Microsoft Office 2003以降で作成された現行資産を正常に扱うことができること。</p> <p>イ. 文書作成ソフトウェア、表計算ソフトウェア、プレゼンテーションソフトウェア、簡易データベースソフトウェア、メール閲覧・作成ソフトウェアで構成されていること。</p> <p>ウ. メール閲覧・作成ソフトウェアとしては、POP3、IMAP4、SMTPに対応可能であること。S/MIMEならびにOpenPGPに対応した暗号化メールのための拡張機能を有していること。</p> <p>エ. OASIS(Organization for the Advancement of Structured Information Standards)公開文書形式標準に準拠した文書の読み込み、編集、印刷、書き出しが可能であること。</p> <p>オ. メニューが日本語であること。</p> <p>カ. ディレクトリサービスと連携し、制限等を一括管理できること。</p> <p>キ. インターフェイスのメニューがリボンスタイルであること。</p> <p>ク. スクリーンショット機能として、2クリックの操作でウィンドウを貼り付けられること。</p> <p>ケ. [保存]、[印刷]、[送信]、などのファイル全体の操作が一括でできること。</p>
		<p>●ワープロソフトウェア(運用管理端末/ヘルプデスク端末)</p> <p>ア. Justsystem 一太郎13以降で作成された現行資産を正常に扱うことができること。</p> <p>イ. 公文書の作成を支援する辞書を標準搭載していること。</p> <p>ウ. 公用文に特化した文書校正機能を有すること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		エ. 文書中の個人情報や特定固有名詞などを自動抽出し、一つ一つをチェックしながら伏せ字に置き換える機能を有すること。
		オ. 文書にすかし文字をいれて保存する機能を有すること。
		カ. 文書の閲覧・編集を制限して保存する機能を有すること。
		キ. さまざまなファイル形式での文書保存が可能であること。
		ク. 公務に便利な機能を厳選、追加した専用メニュー機能を有すること。
		ケ. 行政機関での利用シーンを想定したヘルプ機能を有すること。
		●PDFファイル閲覧ソフトウェア
		ア. 無償のPDFファイル閲覧ソフトウェアであること。
		●Webブラウザソフトウェア(運用管理端末/ヘルプデスク)
		ア. W3C HTML5に準拠したコンテンツの処理が行えること。
		イ. ECMAScript5に準拠したコンテンツの処理が行えること。
		ウ. メニューが日本語で表示できること。
		●アンチウイルス
		ア. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。
		イ. リアルタイムスキャンにより、スパイウェアを自動的に検知して駆除する機能を有すること。
		ウ. Webページのグラフィカルなレポートと集中管理を1台のコンソールから実行可能であること。
		エ. 定期的なディスク操作のほかに、メール受信や補助記憶媒体へのアクセスの都度、ファイルの走査を行う機能を有すること。
		オ. 複合的なコンピュータ環境にも対応可能であること。
		カ. 更新されたウイルスパターンファイルを端末に配布できること。
		キ. メニューが日本語であること。
		◆運用管理/ヘルプデスク端末(アンチウイルス管理用)(2台)
		●オペレーティングシステム(OS)
		ア. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。
		イ. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能に接続できること。
		ウ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。
		エ. 現行OSのビジネスプログラムを実行できること。
		オ. 32bitのOSであること。
		●端末エミュレータ(端末ウィンドウ)(運用管理端末)
		ア. Solaris, SunOS, Linux, HP-UX, AIX, IRIX, Tru64UNIX, EWS4800, 各種PC UNIXなどに対応していること。サーバごとに対応可能な端末エミュレータを用意してもよい。
		イ. 運用管理/ヘルプデスク端末から、各サーバのデスクトップをリモート環境で表示できること。
		ウ. フルカラー画面での256色モードエミュレーション、各UNIX OS用の代替フォントの搭載など、UNIXホストのコンソールとの高い互換性を実現し、様々なUNIXアプリケーションが表示可能であること。
		エ. 端末のOS上の日本語入力機構からUNIXアプリケーションへの日本語入力が可能であること。端末のOSとUNIX間の日本語文字列のカットアンドペーストが可能であること。
		オ. NFSプロトコルを使用したフォントファイルへのアクセス機能を標準で実装していること。
		●シンクライアントサーバ接続ミドルウェア
		ア. シンクライアントサーバが提供するサーバベースコンピューティング環境に接続可能であること。
		イ. オペレーティングシステム(OS)との親和性が保証されていること。
		ウ. Thin Clientとシンクライアントサーバとの間の通信がスムーズであること。WANなどの狭帯ネットワーク環境でも常に快適にアプリケーションを利用できること。
		エ. 画像転送方式のシンクライアントサーバに接続できること。
		●アンチウイルス(マネージャ)
		ア. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。
		イ. リアルタイムスキャンにより、スパイウェアを自動的に検知して駆除する機能を有すること。

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>ウ. Webベースのグラフィカルなレポートと集中管理を1台のコンソールから実行可能であること。</p> <p>エ. 定期的なディスク操作のほかに、メール受信や補助記憶媒体へのアクセスの都度、ファイルの走査を行う機能を有すること。</p> <p>オ. 複合的なコンピュータ環境にも対応可能であること。</p> <p>カ. 更新されたウイルスパターンファイルを端末に配布できること。</p> <p>キ. メニューが日本語であること。</p>
		<p>◆運用管理/ヘルプデスク端末(データベース運用端末)</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>イ. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能に接続できること。</p> <p>ウ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408 におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>エ. 現行OSのビジネスプログラムを実行できること。</p> <p>オ. 32bitのOSであること。</p>
		<p>●端末エミュレータ(端末ウィンドウ)(運用管理端末)</p> <p>ア. Solaris, SunOS, Linux, HP-UX, AIX, IRIX, Tru64UNIX, EWS4800, 各種PC UNIXなどに対応していること。サーバごとに対応可能な端末エミュレータを用意してもよい。</p> <p>イ. 運用管理/ヘルプデスク端末から、各サーバのデスクトップをリモート環境で表示できること。</p> <p>ウ. フルカラー画面での256色モードエミュレーション、各UNIX OS用の代替フォントの搭載など、UNIXホストのコンソールとの高い互換性を実現し、様々なUNIXアプリケーションが表示可能であること。</p> <p>エ. 端末のOS上の日本語入力機構からUNIXアプリケーションへの日本語入力が可能であること。端末のOSとUNIX間の日本語文字列のカットアンドペーストが可能であること。</p> <p>オ. NFSプロトコルを使用したフォントファイルへのアクセス機能を標準で実装していること。</p>
		<p>●ワークスペース</p> <p>ア. 基準労災DBサーバに搭載されるRDBMSに関する開発ツール機能を有すること。</p>
		<p>●アンチウイルス</p> <p>ア. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。</p> <p>イ. リアルタイムスキャンにより、スパイウェアを自動的に検知して駆除する機能を有すること。</p> <p>ウ. Webベースのグラフィカルなレポートと集中管理を1台のコンソールから実行可能であること。</p> <p>エ. 定期的なディスク操作のほかに、メール受信や補助記憶媒体へのアクセスの都度、ファイルの走査を行う機能を有すること。</p> <p>オ. 複合的なコンピュータ環境にも対応可能であること。</p> <p>カ. 更新されたウイルスパターンファイルを端末に配布できること。</p> <p>キ. メニューが日本語であること。</p>
		<p>◆運用管理/ヘルプデスク端末(大型スクリーン投影用)(2台)</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>イ. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能に接続できること。</p> <p>ウ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408 におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>エ. 現行OSのビジネスプログラムを実行できること。</p> <p>オ. 32bitのOSであること。</p>
		<p>●端末エミュレータ(端末ウィンドウ)(運用管理端末)</p> <p>ア. Solaris, SunOS, Linux, HP-UX, AIX, IRIX, Tru64UNIX, EWS4800, 各種PC UNIXなどに対応していること。サーバごとに対応可能な端末エミュレータを用意してもよい。</p> <p>イ. 運用管理/ヘルプデスク端末から、各サーバのデスクトップをリモート環境で表示できること。</p> <p>ウ. フルカラー画面での256色モードエミュレーション、各UNIX OS用の代替フォントの搭載など、UNIXホストのコンソールとの高い互換性を実現し、様々なUNIXアプリケーションが表示可能であること。</p> <p>エ. 端末のOS上の日本語入力機構からUNIXアプリケーションへの日本語入力が可能であること。端末のOSとUNIX間の日本語文字列のカットアンドペーストが可能であること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>オ. NFSプロトコルを使用したフォントファイルへのアクセス機能を標準で実装していること。</p> <p>●シンクライアントサーバ接続モジュール</p> <p>ア. シンクライアントサーバが提供するサーバベースコンピューティング環境に接続可能であること。</p> <p>イ. オペレーティングシステム(OS)との親和性が保証されていること。</p> <p>ウ. Thin Client とシンクライアントサーバとの間の通信がスムーズであること。WANなどの狭帯ネットワーク環境でも常に快適にアプリケーションを利用できること。</p> <p>エ. 画像転送方式のシンクライアントサーバに接続できること。</p> <p>●アンチウイルス</p> <p>ア. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。</p> <p>イ. リアルタイムスキャンにより、スパイウェアを自動的に検知して駆除する機能を有すること。</p> <p>ウ. Webベースのグラフィカルなレポートと集中管理を1台のコンソールから実行可能であること。</p> <p>エ. 定期的なディスク操作のほかに、メール受信や補助記憶媒体へのアクセスの都度、ファイルの走査を行う機能を有すること。</p> <p>オ. 複合的なコンピュータ環境にも対応可能であること。</p> <p>カ. 更新されたウイルスパターンファイルを端末に配布できること。</p> <p>キ. メニューが日本語であること。</p> <p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。</p>
6.1	24	<p>■検疫サーバ</p> <p>◆検疫サーバ(フロントエンド)</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. ファイアウォール機能を有すること。</p> <p>ウ. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能を備えていること。</p> <p>エ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>オ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408 におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>カ. 冗長化構成が組めること。</p> <p>キ. 仮想化機能を備えていること。</p> <p>●端末検疫ソフトウェア(フロントエンド)</p> <p>ア. 端末に対して、ネットワーク接続時にセキュリティチェックを行い、脆弱性のある端末を検疫(隔離)する機能を備えていること。</p> <p>イ. Thin Client であることを判別し、検疫を通過させること。</p> <p>ウ. 端末構成情報、ウイルス対策状況等を自動的に収集し、データベースに登録できること。</p> <p>エ. 構成情報の収集方法として、Web ブラウザによる収集、構成管理エージェントによる自動収集、コマンドによるネットワーク非接続端末からの構成情報収集に対応していること。</p> <p>オ. 各端末から収集された構成情報を集計する機能を備えていること。</p> <p>カ. ソフトウェアライセンス管理向けのワークフロー機能を備えていること。</p> <p>キ. ハードウェア属性情報を管理、集計する機能を備えていること。</p> <p>ク. 自動収集したマシン情報と資産情報を連携管理する機能を備えていること。</p> <p>ケ. 構成情報を登録したマシンの配置場所をブラウザから容易に管理可能な機能を備えていること。</p> <p>コ. OS のセキュリティパッチを配布することができること。</p> <p>サ. 個々の端末単位でウイルス対策ソフトの設定状態をチェックし、ウイルス定義ファイルの自動更新や、リアルタイム保護機能の自動有効化を行うことができること。</p> <p>●アプリケーションサーバ(フロントエンド)</p> <p>ア. 蓄積されたHTML文書や画像等のファイルを、Webブラウザ等の端末ソフトウェアからの要求に応じてHTTP1.1対応の手順で送信可能であること。</p> <p>イ. HTTPS接続に対応可能であること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>ウ. 仮想ホスト、ソフトウェアロードバランシング機能を有すること。</p> <p>エ. コンテンツへのアクセス記録、エラー記録等の記録をcombined形式、common形式等の標準的な書式で保管可能であること。</p> <p>オ. アクセスもとのマシン名とともに、アクセスしたコンテンツの内容を記録・保管可能であること。</p> <p>カ. 保管に当たっては、外部補助記録媒体への保管が可能であること。</p> <p>キ. ディレクトリ単位でのアクセス制限を定義可能であること。</p>
		<p>●アンチウイルス</p> <p>ア. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。</p> <p>イ. リアルタイムスキャンにより、スパイウェアを自動的に検知して駆除する機能を有すること。</p> <p>ウ. Webベースのグラフィカルなレポートと集中管理を1台のコンソールから実行可能であること。</p> <p>エ. 定期的なディスク操作のほかに、メール受信や補助記憶媒体へのアクセスの都度、ファイルの走査を行う機能を有すること。</p> <p>オ. 複合的なコンピュータ環境にも対応可能であること。</p> <p>カ. 更新されたウイルスパターンファイルを端末に配布できること。</p> <p>キ. メニューが日本語であること。</p>
		<p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p>
		<p>◆検疫サーバ(リポジトリ)</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. ファイアウォール機能を有すること。</p> <p>ウ. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能を備えていること。</p> <p>エ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>オ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408 におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>カ. 冗長化構成が組めること。</p> <p>キ. 仮想化機能を備えていること。</p>
		<p>●RDBMS</p> <p>ア. 端末検疫ソフトウェアが指定、推奨するRDBMSとする。</p>
		<p>●アプリケーションサーバ</p> <p>ア. 蓄積されたHTML文書や画像等のファイルを、Webブラウザ等の端末ソフトウェアからの要求に応じてHTTP1.1対応の手順で送信可能であること。</p> <p>イ. HTTPS接続に対応可能であること。</p> <p>ウ. 仮想ホスト、ソフトウェアロードバランシング機能を有すること。</p> <p>エ. コンテンツへのアクセス記録、エラー記録等の記録をcombined形式、common形式等の標準的な書式で保管可能であること。</p> <p>オ. アクセスもとのマシン名とともに、アクセスしたコンテンツの内容を記録・保管可能であること。</p> <p>カ. 保管に当たっては、外部補助記録媒体への保管が可能であること。</p> <p>キ. ディレクトリ単位でのアクセス制限を定義可能であること。</p>
		<p>●アンチウイルス</p> <p>ア. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。</p> <p>イ. リアルタイムスキャンにより、スパイウェアを自動的に検知して駆除する機能を有すること。</p> <p>ウ. Webベースのグラフィカルなレポートと集中管理を1台のコンソールから実行可能であること。</p> <p>エ. 定期的なディスク操作のほかに、メール受信や補助記憶媒体へのアクセスの都度、ファイルの走査を行う機能を有すること。</p> <p>オ. 複合的なコンピュータ環境にも対応可能であること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>カ. 更新されたウイルスパターンファイルを端末に配布できること。</p> <p>キ. メニューが日本語であること。</p> <p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p>
6.1	25	<p>■連携サーバ</p> <p>◆連携サーバ(外部システム連携サーバ)</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. IEEE 1003.1-1996及びIEEE 1003.2-1992に準拠していること。</p> <p>ウ. 統合サーバでは、15サーバ(30CPU)を統合することを想定しており、将来の拡張分と合わせて、40基以上のCPUをサポートすることが可能なOSであること。</p> <p>エ. 扱える物理メモリの最大容量が1,152GBであること。</p> <p>オ. OSレベルでパーティション機能を有すること。</p> <p>カ. RBAC (Role Based Access Control/ロールベースでのアクセス制御管理)機能を有していること。</p> <p>キ. HTTP、FTP、TELNET、DNS、NTP、DHCP、SNMP、LDAP、SMTP、NISのインターネット標準に準拠していること。</p> <p>ク. システムに関連した問題をシステムの停止なしに、リアルタイムで問題解決できること。</p> <p>ケ. CPU、メモリ、I/Oシステムの監視及び診断を行い、障害リソースを自動的にオフライン化できる予測的自己修復機能を有すること。</p> <p>コ. I18nによる国際化、L10Nによる地域化による英語化、日本語化を実装すること。</p> <p>サ. ネットワーク仮名漢字変換システムを実装すること。</p> <p>シ. サーバシステムで採用するOSについては極力統一を図ることとし、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>ス. ソフトウェア構築上のソフトウェア製品等のプラットフォームについて極力統一し、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>セ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>ソ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>タ. 稼働中のシステムを動作させたまま、ブート環境のコピーを作成したり、コピー環境にパッチを適用したりできる機能を有していること。</p> <p>チ. レプリケーション機能、スナップショット、クローン、クォータを有したボリューム管理機能を備えていること。</p> <p>●システム連携アプリケーション</p> <p>ア. 複数の異なるベンダの非同期メッセージングシステムとのデータ授受をサポートしていること。</p> <p>イ. 複数の異なるベンダのRDBMS とのデータ授受をサポートしていること。</p> <p>ウ. ファイルシステムとのデータ授受をサポートしていること。</p> <p>エ. FTP、SMTP、POP、SOAP、MQをサポートしていること。</p> <p>オ. RDBMS のレプリケーショントランザクションを受信可能であること。</p> <p>カ. ビジネスプロセスの動作をモニタリング可能であること。</p> <p>キ. OASIS 策定のBPPEL に準拠していること。</p> <p>●RDBMS</p> <p>ア. SQL 92 以降に準拠していること。</p> <p>イ. 64bit対応していること。</p> <p>ウ. 1つのデータベースサーバ(インスタンス)あたり100 以上のデータベースを稼働させられること。</p> <p>エ. 1データベースあたり20TB 以上で作成できること。</p> <p>オ. 物理デバイスが10,000 以上作成できること。物理デバイスとしてローデバイスを指定できること。また、ファイルシステム上に物理デバイスを配置して利用する場合、ハードディスクへの書き込みを保証できること。</p> <p>カ. 1物理デバイスが2TB 以上で作成できること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		キ. ページサイズを2KB、4KB、8KB、16KB から選択できること。
		ク. 1テーブルあたり1,000 を超えるカラムを保持できること。
		ケ. ロック機構として、行単位、ページ単位、テーブル単位、全ページと指定できること。
		コ. データベースサーバ内のログインユーザ単位で複数テンポラリ領域を確保できること。テンポラリ領域を使い果たした場合でも、他の処理には影響を与えないこと。
		サ. データベースサーバにて格納データに対する暗号化をサポートしていること。なお、暗号化の対象をデータベース単位、カラム単位で行えること。
		シ. SSL等の暗号化通信をサポートしていること。
		ス. データベースへの更新を契機としてデータベースサーバ外の任意のプログラムにアクセスできること。また、メッセージキューイングシステムに対してメッセージを送受信できること。
		セ. データベースサーバへのアクセス権限管理にはロールベースのものを利用できること。
		ソ. ネイティブXML格納及びXML検索とクエリをサポートしていること。 (ア)XMLをそのままの形でデータベースに格納できる。 (イ)XMLを格納時に検証し、データベースには検証済みのXMLドキュメントとして格納できる。 (ウ)XMLファイルと通常のRDBデータを一つのデータベースに格納できる。 (エ)DTD または XMLスキーマの定義に照らしてXMLを検証することができる。 (オ)通常のRDBの検索結果をXML形式で出力する機能を有する。 (カ)検索式によって、格納されたXML形式のデータに対してXMLの構造のどの部分に対してもアクセスできる。
		タ. 現行基準システムで利用しているSybase Adaptive Server Enterpriseのストアド・プロシージャが問題なく利用可能であること。
		チ. 1ファイル2GB までのテキストやイメージを格納できること。
		ツ. データベースサーバの設定を再起動せずに動的に変更可能であること。
		テ. スケジュールによりデータベースサーバの設定を変更したり、バックアップなどの処理を自動化できる仕組みを有すること。
		ト. クラスタソフトウェアと連動し、起動・停止を自動化できること。また、障害発生時には自動的に系切り替えができること。
		ナ. パーティション機能を有すること。パーティションの種類を複数選択できること。
		ニ. Transact-SQL が利用可能であること。
		ヌ. クライアントアプリケーションからデータベースアクセス用のAPI が利用できること。
		ネ. SQL 文のトレース等の監査ができること。ただし、RDBMS への負荷を小さくすること。
		●クラスタソフトウェア
		ア. 3ノード以上のクラスタ構成をサポートできること。
		イ. 稼動待機構成以外に、複数の稼動系に対して1台に待機系(N:1)、あるいはすべて稼動系(N:N)といった柔軟なクラスタ構成が可能であること。
		ウ. アプリケーション単位に柔軟に最適なサーバに処理を引き継ぐことが可能であること。
		エ. 複数サービスを連動したサービス切り替えが可能であること。たとえば、Web サーバは DB サーバが必要であるとサービス間で依存関係を定義した場合、Web アプリケーションサーバが DB サーバの起動を待ってから起動し、DB サーバで障害を検出した場合には Web アプリケーションサーバも切り替えるといった運用が可能である等。
		オ. RDBMSに対応したエージェント(起動・停止・系切り替え等の処理を行う)を有すること。
		カ. Quorumサーバとして構成したサーバを、共有ディスクの代わりにQuorumデバイスとして構成できること。
		キ. 全クラスタノードに対して、一度に同じコマンドを実行するためのユーティリティを備えていること。
		●ボリューム管理ソフトウェア
		ア. ノード間での排他制御機能を有すること。
		イ. バスのマネージメント機能を有すること。
		ウ. ストレージ筐体をまたいだRAIDが構成できること。
		エ. ファイルシステムと連携した書き込みが可能であること。
		オ. ファイルシステムのオンラインデフラグが可能であること。
		カ. ファイルシステムの拡張・縮小が可能であること。
		キ. 現存するバッチプログラムを継続利用できること。
		●アンチウイルス

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>ア. アプリケーションサーバ上の業務アプリケーションから、任意のタイミングにて指定するファイルに対してウイルスの検知を行い、駆除する機能を有すること。</p> <p>イ. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。</p> <p>ウ. 1つのライセンスで複数のOS(Windows、UNIX)に対応できること。</p> <p>エ. 複数のOS(Windows、UNIX)を一元的に管理できるコンソールを有すること。</p> <p>オ. 1つのライセンスでデータ流出を防ぐデバイス制御機能を有すること。</p>
		<p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>ウ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p>
		<p>◆連携サーバ(住基NWシステム連携サーバ)</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. ファイアウォール機能を有すること。</p> <p>ウ. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能を備えていること。</p> <p>エ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>オ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408 におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>カ. 冗長化構成が組めること。</p> <p>キ. 仮想化機能を備えていること。</p>
		<p>●耐タンパー制御ソフト(住基NW システム連携サーバ)</p> <p>ア. 住民基本台帳ネットワークシステム 関係省庁機器整備概要[第4.2版][平成17年3月]に従った耐タンパー制御装置に付属するソフトを用意すること。</p>
		<p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>ウ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p>
		<p>◆連携サーバ(ADAMS連携サーバ)</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. IEEE 1003.1-1996及びIEEE 1003.2-1992に準拠していること。</p> <p>ウ. 統合サーバでは、15サーバ(30CPU)を統合することを想定しており、将来の拡張分と合わせて、40基以上のCPUをサポートすることが可能なOSであること。</p> <p>エ. 扱える物理メモリの最大容量が1,152GBであること。</p> <p>オ. OSレベルでパーティション機能を有すること。</p> <p>カ. RBAC(Role Based Access Control/ロールベースでのアクセス制御管理)機能を有していること。</p> <p>キ. HTTP、FTP、TELNET、DNS、NTP、DHCP、SNMP、LDAP、SMTP、NISのインターネット標準に準拠していること。</p> <p>ク. システムに関連した問題をシステムの停止なしに、リアルタイムで問題解決できること。</p> <p>ケ. CPU、メモリ、I/Oシステムの監視及び診断を行い、障害リソースを自動的にオフライン化できる予測的自己修復機能を有すること。</p> <p>コ. I18nによる国際化、L10Nによる地域化による英語化、日本語化を実装すること。</p> <p>サ. ネットワーク仮名漢字変換システムを実装すること。</p> <p>シ. サーバシステムで採用するOSについては極力統一を図ることとし、システムメンテナンス性を確保すること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>ス. ソフトウェア構築上のソフトウェア製品等のプラットフォームについて極力統一し、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>セ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>ソ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>タ. 稼働中のシステムを動作させたまま、ブート環境のコピーを作成したり、コピー環境にパッチを適用したりできる機能を有していること。</p> <p>チ. レプリケーション機能、スナップショット、クローン、クォータを有したボリューム管理機能を備えていること。</p> <p>●アンチウイルス</p> <p>ア. アプリケーションサーバ上の業務アプリケーションから、任意のタイミングにて指定するファイルに対してウイルスの検知を行い、駆除する機能を有すること。</p> <p>イ. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。</p> <p>ウ. 1つのライセンスで複数のOS (Windows、UNIX)に対応できること。</p> <p>エ. 複数のOS (Windows、UNIX)を一元的に管理できるコンソールを有すること。</p> <p>オ. 1つのライセンスでデータ流出を防ぐデバイス制御機能を有すること。</p> <p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>ウ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p>
6.1	26	<p>■プロキシサーバ</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. IEEE 1003.1-1996及びIEEE 1003.2-1992に準拠していること。</p> <p>ウ. 統合サーバでは、15サーバ(30CPU)を統合することを想定しており、将来の拡張分と合わせて、40基以上のCPUをサポートすることが可能なOSであること。</p> <p>エ. 扱える物理メモリの最大容量が1,152GBであること。</p> <p>オ. OSレベルでパーティション機能を有すること。</p> <p>カ. RBAC(Role Based Access Control/ロールベースでのアクセス制御管理)機能を有していること。</p> <p>キ. HTTP、FTP、TELNET、DNS、NTP、DHCP、SNMP、LDAP、SMTP、NISのインターネット標準に準拠していること。</p> <p>ク. システムに関連した問題をシステムの停止なしに、リアルタイムで問題解決できること。</p> <p>ケ. CPU、メモリ、I/Oシステムの監視及び診断を行い、障害リソースを自動的にオフライン化できる予測的自己修復機能を有すること。</p> <p>コ. I18nによる国際化、L10Nによる地域化による英語化、日本語化を実装すること。</p> <p>サ. ネットワーク仮名漢字変換システムを実装すること。</p> <p>シ. サーバシステムで採用するOSについては極力統一を図ることとし、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>ス. ソフトウェア構築上のソフトウェア製品等のプラットフォームについて極力統一し、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>セ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>ソ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>タ. 稼働中のシステムを動作させたまま、ブート環境のコピーを作成したり、コピー環境にパッチを適用したりできる機能を有していること。</p> <p>チ. レプリケーション機能、スナップショット、クローン、クォータを有したボリューム管理機能を備えていること。</p> <p>●プロキシサーバ</p> <p>ア. すべてのサポート対象プラットフォームでExtended HTTPS及びSSLを扱うことができること。</p> <p>イ. NSAPI フィルタをサポートしていること。</p> <p>ウ. ファイアウォール越しのユーザアクセスの制御を集約的に行うことができること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		エ. 最新の HTTPコアベースのブッシュテクノロジーを採用していること。
		オ. サーバの再起動を行うことなく動的再構成が可能であること。
		カ. コンテンツURLリライティングをサポートしていること。
		キ. 頻繁にアクセスされるコンテンツをプロキシが自動的に蓄積しクライアントのリクエストに対しキャッシュから素早く配信する機能を備えていること。
		ク. アクセスの多い時間帯にはキャッシュを最新のデータに更新しておくなどスケジュールに基づいたキャッシュのアップデートが可能であること。
		ケ. 複数の拠点をネットワークの構成に応じて配置する階層型キャッシング、同一拠点の複数のコンピュータをアレイ構成する分散キャッシングなど、様々な方法に対し拡張可能であること。
		コ. CARP (キャッシュアレイレーティングプロトコル) をサポートし、クライアントからのリクエストを複数のプロキシに振り分けることが可能であること。
		サ. ICP をサポートし、文書が利用可能であるかどうかを隣接したキャッシュに問い合わせる動的クエリを生成できること。
		シ. 外部ネットワークとのゲートウェイとしてトラフィックを集中制御し、すべてのトランザクションをログに記録できること。
		ス. 詳細なアクセス制御機能によって、文書やサイトへのアクセスを、個々のユーザ、グループ、IP アドレス、ホスト名、などを基に制限できること。
		セ. 条件の指定にはワイルドカード文字も使用でき、望ましくない URL や HTML タグなどのコンテンツ、ActiveX などのコンテンツタイプなどにフィルタをかけられること。
		ソ. ユーザ認証に関して、マスタディレクトリサーバ上のディレクトリサービスソフトウェア (LDAP) と連携できること。
		タ. クラスタ管理機能を持ち、管理者は複数のプロキシを管理、設定できること。
		チ. SNMPバージョンのサポートにより、標準に準拠したリモート監視と管理が可能であること。
		ツ. ロールバック機能を持ち、構成変更を行なった後に、以前の安定構成に戻すことが容易であること。
		テ. リバース・プロキシ機能を備えていること。
		ト. 管理者用ユーザインタフェースを持ち、複数サーバの管理や操作を簡単に行うことができること。
		●メールリレーサーバ
		ア. 送受信される1 通あたりの電子メールのサイズ制限を設定できること。
		イ. 電子メールへのファイル添付ができること。
		ウ. メールボックス単位で容量制限が行えること。
		エ. 受信した電子メールに対して迷惑メールを自動的に判別できること。
		オ. 自分宛の電子メールを許可された指定の電子メールアドレス宛へ再送信する転送機能を有すること。
		カ. SMTP (Simple Mail Transfer Protocol)、POP3 (Post Office Protocol3)、IMAP4 (Internet Mail Access Protocol4)、HTTP、HTTPS、HTML、MIME、SMTP Authentication、LDAP に対応していること。
		キ. ユーザに割り当てたメールボックスサイズに対して、指定の量 (%) を超えた場合に指定した期間より前のメールを削除する。
		ク. ポリシー強制ルールの適用対象はユーザ単位、グループ単位で設定可能であること。
		ケ. 適用対象を限定して不適切な通信を防止するルールを作成することができること。
		コ. クラスタによる冗長化構成がとれること。
		サ. アカウント管理用に WebGUI ツールが用意されていること。また、あわせてコマンドラインツールも提供されること。
		シ. 利用可能なサービス (POP、IMAP 等) の制限をユーザ単位でかけられること。またユーザ単位での制限は IP ベースでの制限も設定できること。
		ス. サーバ側で定義したポリシーにより、不要なメールを自動的に削除できること。
		セ. マルチドメインがサポートされていること。
		ソ. 容量制限実施時、メールボックスの使用量が一定の閾値を超えた場合ユーザに通知できること。
		タ. Quota Overしたユーザ宛のメールをキューに保持できること。また、Quota Overしたメールのキューへの保持期間を指定できること。
		●アンチウイルス
		ア. メールを媒介とした攻撃をフィルタリングプロセスの前段階でブロックするメールファイアウォール機能があること。

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>イ. 最新情報に基づいたスパムフィルタリングを行うアンチスパム機能があること。</p> <p>ウ. SMTPトラフィックに対して、頻繁に改変され多種発生する不正コードの受信を予防できること。</p> <p>エ. 監視時間、比率、総メール数により、スパイ型(ターゲティングアタック)のスパムメールの送信元IPアドレスを特定し、それらのメールをブロック可能であること。</p> <p>オ. 監視時間、比率、総メール数により、スパイ型(ターゲティングアタック)のウイルスメールの送信元IPアドレスを特定し、それらのメールをブロック可能であること。</p> <p>カ. DNSBL機能においてメールサーバの設定が不要なブラックリストをレピュテーションサービスのサーバ側で設定し、メールサーバの再起動なしに運用に反映できること。</p> <p>キ. DNSBL機能においてメールサーバの設定が不要なホワイトリストをレピュテーションサービスのサーバ側で設定し、メールサーバの再起動なしに運用に反映できること。</p> <p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>ウ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p>
6.1	27	<p>■メールG/Wサーバ</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. IEEE 1003.1-1996及びIEEE 1003.2-1992に準拠していること。</p> <p>ウ. 統合サーバでは、15サーバ(30CPU)を統合することを想定しており、将来の拡張と合わせて、40基以上のCPUをサポートすることが可能なOSであること。</p> <p>エ. 扱える物理メモリの最大容量が1,152GBであること。</p> <p>オ. OSレベルでパーティション機能を有すること。</p> <p>カ. RBAC(Role Based Access Control/ロールベースでのアクセス制御管理)機能を有していること。</p> <p>キ. HTTP、FTP、TELNET、DNS、NTP、DHCP、SNMP、LDAP、SMTP、NISのインターネット標準に準拠していること。</p> <p>ク. システムに関連した問題をシステムの停止なしに、リアルタイムで問題解決できること。</p> <p>ケ. CPU、メモリ、I/Oシステムの監視及び診断を行い、障害リソースを自動的にオフライン化できる予測的自己修復機能を有すること。</p> <p>コ. I18nによる国際化、L10Nによる地域化による英語化、日本語化を実装すること。</p> <p>サ. ネットワーク仮名漢字変換システムを実装すること。</p> <p>シ. サーバシステムで採用するOSについては極力統一を図ることとし、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>ス. ソフトウェア構築上のソフトウェア製品等のプラットフォームについて極力統一し、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>セ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>ソ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>タ. 稼働中のシステムを動作させたまま、ブート環境のコピーを作成したり、コピー環境にパッチを適用したりできる機能を有していること。</p> <p>チ. レプリケーション機能、スナップショット、クローン、クォータを有したボリューム管理機能を備えていること。</p> <p>●プロキシサーバ</p> <p>ア. すべてのサポート対象プラットフォームでExtended HTTPS及びSSLを扱うことができること。</p> <p>イ. NSAPI フィルタをサポートしていること。</p> <p>ウ. ファイアウォール越しのユーザアクセスの制御を集約的に行うことができること。</p> <p>エ. 最新の HTTPコアベースのプッシュテクノロジーを採用していること。</p> <p>オ. サーバの再起動を行うことなく動的再構成が可能であること。</p> <p>カ. コンテンツURLリトライングをサポートしていること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>キ. 頻繁にアクセスされるコンテンツをプロキシが自動的に蓄積しクライアントのリクエストに対しキャッシュから素早く配信する機能を備えていること。</p> <p>ク. アクセスの多い時間帯にはキャッシュを最新のデータに更新しておくなどスケジュールに基づいたキャッシュのアップデートが可能であること。</p> <p>ケ. 複数の拠点をネットワークの構成に応じて配置する階層型キャッシング、同一拠点の複数のコンピュータをアレイ構成する分散キャッシングなど、様々な方法に対し拡張可能であること。</p> <p>コ. CARP(キャッシュアレイレーティングプロトコル)をサポートし、クライアントからのリクエストを複数のプロキシに振り分けることが可能であること。</p> <p>サ. ICPをサポートし、文書が利用可能であるかどうかを隣接したキャッシュに問い合わせる動的クエリを生成できること。</p> <p>シ. 外部ネットワークとのゲートウェイとしてトラフィックを集中制御し、すべてのトランザクションをログに記録できること。</p> <p>ス. 詳細なアクセス制御機能によって、文書やサイトへのアクセスを、個々のユーザ、グループ、IP アドレス、ホスト名、などを基に制限できること。</p> <p>セ. 条件の指定にはワイルドカード文字も使用でき、望ましくないURLやHTMLタグなどのコンテンツ、ActiveXなどのコンテンツタイプなどにフィルタをかけられること。</p> <p>ソ. ユーザ認証に関して、マスタディレクトリサーバ上のディレクトリサービスソフトウェア(LDAP)と連携できること。</p> <p>タ. クラスタ管理機能を持ち、管理者は複数のプロキシを管理、設定できること。</p> <p>チ. SNMPバージョンのサポートにより、標準に準拠したリモート監視と管理が可能であること。</p> <p>ツ. ロールバック機能を持ち、構成変更を行なった後に、以前の安定構成に戻すことが容易であること。</p> <p>テ. リバース・プロキシ機能を備えていること。</p> <p>ト. 管理者用ユーザインタフェースを持ち、複数サーバの管理や操作を簡単に行うことができること。</p>
		<p>●メールリレーサーバ</p> <p>ア. 送受信される1通あたりの電子メールのサイズ制限を設定できること。</p> <p>イ. 電子メールへのファイル添付ができること。</p> <p>ウ. メールボックス単位で容量制限が行えること。</p> <p>エ. 受信した電子メールに対して迷惑メールを自動的に判別できること。</p> <p>オ. 自分宛の電子メールを許可された指定の電子メールアドレス宛てへ再送信する転送機能を有すること。</p> <p>カ. SMTP(Simple Mail Transfer Protocol)、POP3(Post Office Protocol3)、IMAP4(Internet Mail Access Protocol4)、HTTP、HTTPS、HTML、MIME、SMTP Authentication、LDAPに対応していること。</p> <p>キ. ユーザに割り当てたメールボックスサイズに対して、指定の量(%)を超えた場合に指定した期間より前のメールを削除する。</p> <p>ク. ポリシー強制ルールの適用対象はユーザ単位、グループ単位で設定可能であること。</p> <p>ケ. 適用対象を限定して不適切な通信を防止するルールを作成することができること。</p> <p>コ. クラスタによる冗長化構成がとれること。</p> <p>サ. アカウント管理用にWebGUIツールが用意されていること。また、あわせてコマンドラインツールも提供されること。</p> <p>シ. 利用可能なサービス(POP、IMAP等)の制限をユーザ単位でかけられること。またユーザ単位での制限はIPベースでの制限も設定できること。</p> <p>ス. サーバ側で定義したポリシーにより、不要なメールを自動的に削除できること。</p> <p>セ. マルチドメインがサポートされていること。</p> <p>ソ. 容量制限実施時、メールボックスの使用量が一定の閾値を超えた場合ユーザに通知できること。</p> <p>タ. Quota Overしたユーザ宛のメールをキューに保持できること。また、Quota Overしたメールのキューへの保持期間を指定できること。</p>
		<p>●アンチウイルス</p> <p>ア. メールを媒介とした攻撃をフィルタリングプロセスの前段階でブロックするメールファイアウォール機能があること。</p> <p>イ. 最新情報に基づいたスパムフィルタリングを行うアンチスパム機能があること。</p> <p>ウ. SMTPトラフィックに対して、頻繁に改変され多種発生する不正コードの受信を予防できること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>エ. 監視時間、比率、総メール数により、スパイ型(ターゲティングアタック)のスパムメールの送信元IPアドレスを特定し、それらのメールをブロック可能であること。</p> <p>オ. 監視時間、比率、総メール数により、スパイ型(ターゲティングアタック)のウイルスメールの送信元IPアドレスを特定し、それらのメールをブロック可能であること。</p> <p>カ. DNSBL機能においてメールサーバの設定が不要なブラックリストをレピュテーションサービスのサーバ側で設定し、メールサーバの再起動なしに運用に反映できること。</p> <p>キ. DNSBL機能においてメールサーバの設定が不要なホワイトリストをレピュテーションサービスのサーバ側で設定し、メールサーバの再起動なしに運用に反映できること。</p> <p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>ウ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p>
6.1	28	<p>■共有ディスク管理サーバ</p> <p>◆共有ディスク管理サーバ(イメージ格納用)</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. IEEE 1003.1-1996及びIEEE 1003.2-1992に準拠していること。</p> <p>ウ. 扱える物理メモリの最大容量が1,152GBであること。</p> <p>エ. OSレベルでパーティション機能を有すること。</p> <p>オ. RBAC(Role Based Access Control/ロールベースでのアクセス制御管理)機能を有していること。</p> <p>カ. HTTP、FTP、TELNET、DNS、NTP、DHCP、SNMP、LDAP、SMTP、NISのインターネット標準に準拠していること。</p> <p>キ. システムに関連した問題をシステムの停止なしに、リアルタイムで問題解決できること。</p> <p>ク. CPU、メモリ、I/Oシステムの監視及び診断を行い、障害リソースを自動的にオフライン化できる予測的自己修復機能を有すること。</p> <p>ケ. I18nによる国際化、L10Nによる地域化による英語化、日本語化を実装すること。</p> <p>コ. ネットワーク仮名漢字変換システムを実装すること。</p> <p>サ. サーバシステムで採用するOSについては極力統一を図ることとし、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>シ. ソフトウェア構築上のソフトウェア製品等のプラットフォームについて極力統一し、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>ス. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>セ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>ソ. 稼働中のシステムを動作させたまま、ブート環境のコピーを作成したり、コピー環境にパッチを適用したりできる機能を有していること。</p> <p>タ. レプリケーション機能、スナップショット、クローン、クォータを有したボリューム管理機能を備えていること。</p> <p>●RDBMS</p> <p>ア. SQL 92以降に準拠していること。</p> <p>イ. 64bit対応していること。</p> <p>ウ. 1つのデータベースサーバ(インスタンス)あたり100以上のデータベースを稼働させられること。</p> <p>エ. 1データベースあたり20TB以上で作成できること。</p> <p>オ. 物理デバイスが10,000以上作成できること。物理デバイスとしてローデバイス指定できること。また、ファイルシステム上に物理デバイスを配置して利用する場合、ハードディスクへの書き込みを保証できること。</p> <p>カ. 1物理デバイスが2TB以上で作成できること。</p> <p>キ. ページサイズを2KB、4KB、8KB、16KBから選択できること。</p> <p>ク. 1テーブルあたり1,000を超えるカラムを保持できること。</p> <p>ケ. ロック機構として、行単位、ページ単位、テーブル単位、全ページと指定できること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>コ. データベースサーバ内のログインユーザ単位で複数テンポラリ領域を確保できること。テンポラリ領域を使い果たした場合でも、他の処理には影響を与えないこと。</p> <p>サ. データベースサーバにて格納データに対する暗号化をサポートしていること。なお、暗号化の対象をデータベース単位、カラム単位で行えること。</p> <p>シ. SSL等の暗号化通信をサポートしていること。</p> <p>ス. データベースへの更新を契機としてデータベースサーバ外の任意のプログラムにアクセスできること。また、メッセージキューイングシステムに対してメッセージを送受信できること。</p> <p>セ. データベースサーバへのアクセス権限管理にはロールベースのものを利用できること。</p> <p>ソ. ネイティブXML格納及びXML検索とクエリをサポートしていること。 (ア)XMLをそのままの形でデータベースに格納できる。 (イ)XMLを格納時に検証し、データベースには検証済みのXMLドキュメントとして格納できる。 (ウ)XMLファイルと通常のRDBデータを一つのデータベースに格納できる。 (エ)DTD または XMLスキーマの定義に照らしてXMLを検証することができる。 (オ)通常のRDBの検索結果をXML形式で出力する機能を有する。 (カ)検索式によって、格納されたXML形式のデータに対してXMLの構造のどの部分に対してもアクセスできる。</p> <p>タ. 現行基準システムで利用しているSybase Adaptive Server Enterpriseのスタアド・プロシージャが問題なく利用可能であること。</p> <p>チ. 1ファイル2GB までのテキストやイメージを格納できること。</p> <p>ツ. データベースサーバの設定を再起動せずに動的に変更可能であること。</p> <p>テ. スケジュールによりデータベースサーバの設定を変更したり、バックアップなどの処理を自動化できる仕組みを有すること。</p> <p>ト. クラスタソフトウェアと連動し、起動・停止を自動化できること。また、障害発生時には自動的に系切り替えができること。</p> <p>ナ. パーティション機能を有すること。パーティションの種類を複数選択できること。</p> <p>ニ. Transact-SQL が利用可能であること。</p> <p>ヌ. クライアントアプリケーションからデータベースアクセス用のAPI が利用できること。</p> <p>ネ. SQL 文のトレース等の監査ができること。ただし、RDBMS への負荷を小さくすること。</p>
		<p>●レプリケーションソフトウェア</p> <p>ア. レプリケーションはトランザクションログベーススタイプのものであり、複写タイミングはデータベースのチェックポイントと連動できること。</p> <p>イ. レプリケーション対象データはデータベース単位、テーブル単位、ロー単位で指定可能であること。</p> <p>ウ. スタアド・プロシージャのレプリケーションを行えること。(スタアド・プロシージャの実行結果の転送ではなく、複写先でスタアド・プロシージャの実行を行えること。)</p> <p>エ. レプリケーションのルートに障害が発生した場合、復旧後自動的に複写が行われること。</p> <p>オ. 万レプリケーションに発生した障害によってデータベース間に不整合が発生した場合、不整合を検知できる仕組みがあること。また、不整合を修復するツールを用意すること。</p> <p>カ. 複数のトランザクションの中の有効な変更差分を取り出し、一括して複写側データベースに適用することで、複写側データベース更新の高速化が図れる機能を有していること。</p> <p>キ. 上記の機能は、複写先としてRDBMS (DWH)と、通常のRDBMSの両方に対応していること。</p>
		<p>●バックアップソフトウェア</p> <p>ア. RDBMSに対応するデータベース エージェントが用意されていること。</p> <p>イ. SAN上の共有テープストレージに対してエージェントから直接バックアップが可能であること。</p> <p>ウ. バックアップクライアント、バックアップサーバ側でSANのバックアップが可能であること。</p>
		<p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>ウ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p>
		<p>◆共有ディスク管理サーバ(イメージデータ格納用以外)</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>イ. ファイアウォール機能を有すること。</p> <p>ウ. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能を備えていること。</p> <p>エ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>オ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408 におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>カ. 冗長化構成が組めること。</p> <p>キ. 仮想化機能を備えていること。</p> <p>●アンチウイルス</p> <p>ア. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。</p> <p>イ. リアルタイムスキャンにより、スパイウェアを自動的に検知して駆除する機能を有すること。</p> <p>ウ. Webベースのグラフィカルなレポートと集中管理を1台のコンソールから実行可能であること。</p> <p>エ. 定期的なディスク操作のほかに、メール受信や補助記憶媒体へのアクセスの都度、ファイルの走査を行う機能を有すること。</p> <p>オ. 複合的なコンピュータ環境にも対応可能であること。</p> <p>カ. 更新されたウイルスパターンファイルを端末に配布できること。</p> <p>キ. メニューが日本語であること。</p> <p>●ストレージ管理ソフトウェア</p> <p>ア. サーバからストレージ装置までのデータ入出力パス管理及びグローバル入出力パス稼働管理機能を有すること。</p>
		<p>◆共有ディスク管理サーバ(シンクライアントサーバ用)</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. ファイアウォール機能を有すること。</p> <p>ウ. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能を備えていること。</p> <p>エ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>オ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408 におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>カ. 冗長化構成が組めること。</p> <p>キ. 仮想化機能を備えていること。</p> <p>●アンチウイルス</p> <p>ア. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。</p> <p>イ. リアルタイムスキャンにより、スパイウェアを自動的に検知して駆除する機能を有すること。</p> <p>ウ. Webベースのグラフィカルなレポートと集中管理を1台のコンソールから実行可能であること。</p> <p>エ. 定期的なディスク操作のほかに、メール受信や補助記憶媒体へのアクセスの都度、ファイルの走査を行う機能を有すること。</p> <p>オ. 複合的なコンピュータ環境にも対応可能であること。</p> <p>カ. 更新されたウイルスパターンファイルを端末に配布できること。</p> <p>キ. メニューが日本語であること。</p> <p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>ウ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p>
6.1	29	<p>■共有ディスク</p> <p>◆共有ディスク(イメージデータ格納用)</p> <p>●ストレージ管理ソフトウェア</p> <p>ア. SAN接続にてディスクを共有化し、データを一元的に管理する機能を有すること。</p> <p>◆共有ディスク(イメージデータ格納用以外)</p> <p>●ストレージ管理ソフトウェア</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		ア. SAN接続にてディスクを共有化し、データを一元的に管理する機能を有すること。
		◆共有ディスク(シンククライアントサーバ用)
		●ストレージ管理ソフトウェア
		ア. SAN接続にてディスクを共有化し、データを一元的に管理する機能を有すること。
6.1	30	■ワンタイムパスワード認証サーバ
		(搭載ソフトウェアはなし)
6.1	31	■法令等検索サーバ
		●オペレーティングシステム(OS)
		ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。
		イ. ファイアウォール機能を有すること。
		ウ. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能を備えていること。
		エ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。
		オ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。
		カ. 冗長化構成が組めること。
		キ. 仮想化機能を備えていること。
6.1	32	■プリンタサーバ
		●オペレーティングシステム(OS)
		ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。
		イ. ファイアウォール機能を有すること。
		ウ. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能を備えていること。
		エ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。
		オ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408 におけるEAL4以上の認定を取得していること。
		カ. 冗長化構成が組めること。
		キ. 仮想化機能を備えていること。
		●Webブラウザソフトウェア
		ア. W3C HTML5に準拠したコンテンツの処理が行えること。
		イ. ECMAScript5に準拠したコンテンツの処理が行えること。
		ウ. メニューが日本語で表示できること。
		●エージェントソフトウェア
		ア. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。
		イ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。
		●アンチウイルス
		ア. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。
		イ. リアルタイムスキャンにより、スパイウェアを自動的に検知して駆除する機能を有すること。
		ウ. Webベースのグラフィカルなレポートと集中管理を1台のコンソールから実行可能であること。
		エ. 定期的なディスク操作のほかに、メール受信や補助記憶媒体へのアクセスの都度、ファイルの走査を行う機能を有すること。
		オ. 複合的なコンピュータ環境にも対応可能であること。
		カ. 更新されたウイルスパターンファイルを端末に配布できること。
		キ. メニューが日本語であること。
6.2	1	■Thin Client
		●オペレーティングシステム(OS)またはファームウェア
		ア. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。
		イ. シンククライアントサーバ等で採用するOSと容易に連携できること。
		ウ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>エ. IPv6に対応していること。</p> <p>オ. UPnP 対応していること。</p> <p>カ. 32bitのOSであること。</p> <p>●シンクライアントサーバ接続ミドルウェア</p> <p>ア. シンクライアントサーバが提供するサーバベースコンピューティング環境に接続可能であること。</p> <p>イ. オペレーティングシステム(OS)との親和性が保証されていること。</p> <p>ウ. Thin Client とシンクライアントサーバとの間の通信がスムーズであること。WANなどの狭帯ネットワーク環境でも常に快適にアプリケーションを利用できること。</p> <p>エ. 画像転送方式のシンクライアントサーバに接続できること。</p> <p>●端末検疫エージェント</p> <p>ア. 検疫サーバが提供する端末検疫アプリケーションに接続可能であること。</p> <p>イ. 検疫サーバからのセキュリティパッチの配信を受けることが可能であること。</p> <p>ウ. ユーザ認証を行う前に、端末検疫及びセキュリティパッチ配信を受けられること。</p> <p>●アンチウイルス</p> <p>ア. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。</p> <p>イ. リアルタイムスキャンにより、スパイウェアを自動的に検知して駆除する機能を有すること。</p> <p>ウ. Webベースのグラフィカルなレポートと集中管理を1台のコンソールから実行可能であること。</p> <p>エ. 定期的なディスク操作のほかに、メール受信や補助記憶媒体へのアクセスの都度、ファイルの走査を行う機能を有すること。</p> <p>オ. 複合的なコンピュータ環境にも対応可能であること。</p> <p>カ. 更新されたウイルスパターンファイルを端末に配布できること。</p> <p>キ. メニューが日本語であること。</p>
6.2	2	<p>■Fat Client</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能に接続できること。</p> <p>イ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>ウ. シンクライアントサーバ等で採用するOSと容易に連携できること。</p> <p>エ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>オ. 現行OSのビジネスプログラムを実行できること。</p> <p>カ. 32bitのOSであること。</p> <p>●シンクライアントサーバ接続ミドルウェア</p> <p>ア. シンクライアントサーバが提供するサーバベースコンピューティング環境に接続可能であること。</p> <p>イ. オペレーティングシステム(OS)との親和性が保証されていること。</p> <p>ウ. Fat Client とシンクライアントサーバとの間の通信がスムーズであること。WAN などの狭帯ネットワーク環境でも常に快適にアプリケーションを利用できること。</p> <p>エ. 画像転送方式のシンクライアントサーバに接続できること。</p> <p>●端末検疫エージェント</p> <p>ア. 検疫サーバが提供する端末検疫アプリケーションに接続可能であること。</p> <p>イ. 検疫サーバからのセキュリティパッチの配信を受けることが可能であること。</p> <p>ウ. ユーザ認証を行う前に、端末検疫及びセキュリティパッチ配信を受けられること。</p> <p>●RDBMS</p> <p>ア. SQL 92 以降に準拠していること。</p> <p>イ. Transact-SQL が利用可能であること。</p> <p>ウ. 非同期通信によるイメージデータ転送を行うことができること。</p> <p>エ. SSL等の暗号化通信をサポートしていること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>エ. OASIS (Organization for the Advancement of Structured Information Standards) 公開文書形式標準に準拠した文書の読み込み、編集、印刷、書き出しが可能であること。</p> <p>オ. メニューが日本語であること。</p> <p>カ. ディレクトリサービスと連携し、制限等を一括管理できること。</p> <p>キ. インターフェイスのメニューがリボンスタイルであること。</p> <p>ク. スクリーンショット機能として、2クリックの操作でウィンドウを貼り付けられること。</p> <p>ケ. [保存]、[印刷]、[送信]、などのファイル全体の操作が一括でできること。</p>
		<p>●ワープロソフトウェア</p> <p>ア. Justsystem 一太郎13以降で作成された現行資産を正常に扱うことができること。</p> <p>イ. 公文書の作成を支援する辞書を標準搭載していること。</p> <p>ウ. 公用文に特化した文書校正機能を有すること。</p> <p>エ. 文書中の個人情報や特定固有名詞などを自動抽出し、一つ一つをチェックしながら伏せ字に置き換える機能を有すること。</p> <p>オ. 文書にすかし文字をいれて保存する機能を有すること。</p> <p>カ. 文書の閲覧・編集を制限して保存する機能を有すること。</p> <p>キ. さまざまなファイル形式での文書保存が可能であること。</p> <p>ク. 公務に便利な機能を厳選、追加した専用メニュー機能を有すること。</p> <p>ケ. 行政機関での利用シーンを想定したヘルプ機能を有すること。</p>
		<p>●PDFファイル編集ソフトウェア</p> <p>ア. OA ソフトウェアから、PDF 文書をドラッグ & ドロップやワンクリックで作成できること。</p> <p>イ. 印刷可能な、どのアプリケーションからでも、印刷メニューで選択するだけで PDF 文書を作成できること。</p> <p>ウ. PDF ファイルの表示、編集、注釈の付加、電子署名または印刷を許可するかどうかを制御できること。</p> <p>エ. PDF 文書にパスワードを割り当てて、第三者が機密性の高い文書を開いたり表示することを防ぐことができること。</p> <p>オ. メニューが日本語であること。</p> <p>カ. 作成されたPDFファイルは、無償で配布されている閲覧用ソフトウェアを使用して閲覧や印刷が可能であること。</p> <p>キ. 一度作成したPDF文書から、任意のページを削除したり、新たに追加したり、ページの順番を入れ替えることが可能であること。</p> <p>ク. パスワード、アクセス権を設定でき、機密文書をより安全に保護可能であること。</p> <p>ケ. 電子署名とタイムスタンプを組み合わせた長期保存署名に対応していること。</p> <p>コ. テキストの直接編集が可能であること。</p> <p>サ. PDF作成時に、自動ファイル名生成(連番/日付)が可能であること。また、同名ファイルがある場合に、元ファイルに追加できること。</p>
		<p>●PDFファイル閲覧ソフトウェア</p> <p>ア. 無償のPDFファイル閲覧ソフトウェアであること。</p>
		<p>●OCR-K/Bフォント</p> <p>ア. JIS X 9001 (B) 準拠</p> <p>イ. JIS X 9003 (K) 準拠</p> <p>ウ. TrueType フォント</p> <p>エ. 上記に示す要件を満たすフォントの利用者として、約5,000名を想定している(センタ環境(本番用)及びセンタ環境(総合試験用)用で共通)。</p>
		<p>●OCR手書き認識用半角フォント</p> <p>ア. JIS X 9005~8 準拠</p> <p>イ. TrueType フォント</p> <p>ウ. 上記に示す要件を満たすフォントの利用者として、約5,000名を想定している(センタ環境(本番用)及びセンタ環境(総合試験用)用で共通)。</p>
		<p>●OCR手書き認識用全角フォント</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>ア. 一般的にいわれる「教科書体」と呼ばれる手書き風の書体</p> <p>イ. JIS X 0208 における第一水準漢字(16 区～47 区)、第二水準漢字(48区～84 区)の範囲</p> <p>ウ. JIS X 0208 における英数字、かな(01 区～08 区)の範囲</p> <p>エ. TrueType フォント</p> <p>オ. 上記に示す要件を満たすフォントの利用者として、約5,000名を想定している(センタ環境(本番用)及びセンタ環境(総合試験用)用で共通)。</p> <p>●日本語変換ソフト ア. オフィスアプリケーションソフトウェアに付属する日本語変換機能を有すること。</p> <p>●イメージデータ編集ソフト ア. OCRスキャナに付属するイメージデータ編集機能を有すること。</p> <p>●プリンタ監視ツール ア. プリンタの監視機能を有すること。</p> <p>●.NET対応アプリケーションソフト ア. .NET対応アプリケーションに関する動作が可能であること。</p> <p>●プリンタポート接続増設FDDデバイスドライバソフト ア. プリンタポートに接続して増設可能なFDDデバイスに関するドライバ機能を有すること。</p> <p>●FDDデバイスドライバソフト ア. FDDデバイスに関するドライバ機能を有すること。</p> <p>●帳票アプリケーション(XMLライブラリ) ア. 帳票アプリケーションに同梱されているXMLライブラリを有すること。</p> <p>●UPS統合管理 ア. UPSの管理機能を有すること。</p> <p>●アンチウイルス ア. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。 イ. リアルタイムスキャンにより、スパイウェアを自動的に検知して駆除する機能を有すること。 ウ. Webベースのグラフィカルなレポートと集中管理を1台のコンソールから実行可能であること。 エ. 定期的なディスク操作のほかに、メール受信や補助記憶媒体へのアクセスの都度、ファイルの走査を行う機能を有すること。 オ. 複合的なコンピュータ環境にも対応可能であること。 カ. 更新されたウイルスパターンファイルを端末に配布できること。 キ. メニューが日本語であること。</p> <p>●エージェントソフトウェア ア. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。 イ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p>
6.2	3	<p>■モバイル端末</p> <p>●オペレーティングシステム(OS) ア. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能に接続できること。 イ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。 ウ. シンクライアントサーバ等で採用するOSと容易に連携できること。 エ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。 オ. 現行OSのビジネスプログラムを実行できること。 カ. 32bitのOSであること。</p> <p>●シンクライアントサーバ接続ミドルウェア ア. シンクライアントサーバが提供するサーバベースコンピューティング環境に接続可能であること。 イ. モバイル端末で採用するオペレーティングシステム(OS)との親和性が保証されていること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>ウ. モバイル端末 とシンクライアントサーバとの間の通信がスムーズであること。WANなどの狭帯ネットワーク環境でも常に快適にアプリケーションを利用できること。</p> <p>エ. 画像転送方式のシンクライアントサーバに接続できること。</p>
		<p>●オフィスアプリケーションソフトウェア</p> <p>ア. Microsoft Office 2003以降で作成された現行資産を正常に扱うことができること。</p> <p>イ. 文書作成ソフトウェア、表計算ソフトウェア、プレゼンテーションソフトウェア、簡易データベースソフトウェア、メール閲覧・作成ソフトウェアで構成されていること。</p> <p>ウ. メール閲覧・作成ソフトウェアとしては、POP3、IMAP4、SMTP に対応可能であること。S/MIME ならびにOpenPGP に対応した暗号化メールのための拡張機能を有していること。</p> <p>エ. OASIS (Organization for the Advancement of Structured Information Standards) 公開文書形式標準に準拠した文書の読み込み、編集、印刷、書き出しが可能であること。</p> <p>オ. メニューが日本語であること。</p> <p>カ. ディレクトリサービスと連携し、制限等を一括管理できること。</p> <p>キ. インターフェイスのメニューがリボンスタイルであること。</p> <p>ク. スクリーンショット機能として、2クリックの操作でウィンドウを貼り付けられること。</p> <p>ケ. [保存]、[印刷]、[送信]、などのファイル全体の操作が一括でできること。</p>
		<p>●PDFファイル編集ソフトウェア</p> <p>ア. OA ソフトウェアから、PDF 文書をドラッグ&ドロップやワンクリックで作成できること。</p> <p>イ. 印刷可能な、どのアプリケーションからでも、印刷メニューで選択するだけで PDF文書を作成できること。</p> <p>ウ. PDF ファイルの表示、編集、注釈の付加、電子署名または印刷を許可するかどうかを制御できること。</p> <p>エ. PDF 文書にパスワードを割り当てて、第三者が機密性の高い文書を開いたり表示することを防ぐことができること。</p> <p>オ. メニューが日本語であること。</p> <p>カ. 作成されたPDFファイルは、無償で配布されている閲覧用ソフトウェアを使用して閲覧や印刷が可能であること。</p> <p>キ. 一度作成したPDF文書から、任意のページを削除したり、新たに追加したり、ページの順番を入れ替えることが可能であること。</p> <p>ク. パスワード、アクセス権を設定でき、機密文書をより安全に保護可能であること。</p> <p>ケ. 電子署名とタイムスタンプを組み合わせた長期保存署名に対応していること。</p> <p>コ. テキストの直接編集が可能であること。</p> <p>サ. PDF作成時に、自動ファイル名生成(連番/日付)が可能であること。また、同名ファイルがある場合に、元ファイルに追加できること。</p>
		<p>●端末検疫エージェント</p> <p>ア. 検疫サーバが提供する端末検疫アプリケーションに接続可能であること。</p> <p>イ. 検疫サーバからのセキュリティパッチの配付を受けることが可能であること。</p> <p>ウ. ユーザ認証を行う前に、端末検疫及びセキュリティパッチ配付を受けられること。</p>
		<p>●ディスク暗号化</p> <p>ア. OS やシステムファイル領域を含め、ハードディスクを丸ごと暗号化できること。</p> <p>イ. PC 使用中のデータの暗号化/復号が自動的に行われること。</p> <p>ウ. パスワードの定期的な変更、アカウントの使用期間の設定、ログイン試行回数の制限(アカウントロック機能)の設定が可能であること。</p> <p>エ. セキュリティポリシーの設定を管理者が一括で行い、全ユーザにセキュリティールの実行を強制する機能を備えていること。</p> <p>オ. OS 起動前に独自認証を行う仕組みを有していること。</p> <p>カ. OS 起動前の独自認証には、シングルサインオン(Windows ドメインのID/パスワード)が設定できること。</p> <p>キ. OS 起動前の独自認証には、USB キーやスマートカード、ワンタイムパスワードとの連携が可能であること。</p> <p>ク. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p>
		<p>●ワンタイムパスワード認証エージェント</p> <p>ア. LAN接続時に、ワンタイムパスワードのサーバから数日分のワンタイムパスワード情報をダウンロードできること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>イ. オンライン、オフラインに関わらず、OS ログイン時にワンタイムパスワードを用いた認証が可能であること。</p> <p>ウ. 認証サーバ上のユーザ情報とは連動しない状態にすることが可能であること。</p>
		<p>●Webブラウザソフトウェア</p> <p>ア. W3C HTML5に準拠したコンテンツの処理が行えること。</p> <p>イ. ECMAScript5に準拠したコンテンツの処理が行えること。</p> <p>ウ. メニューが日本語で表示できること。</p>
		<p>●画像処理ソフトウェア</p> <p>ア. 定画像データの処理等を目的として、サイズ変更、減色処理、形式変更が可能であること。</p> <p>イ. 画像形式としては、BMP、JPEG、GIF、PNG が含まれていること。</p> <p>ウ. メニューが日本語であること。</p>
		<p>●ファイル圧縮ソフトウェア</p> <p>ア. ファイルの圧縮、解凍ができること。</p> <p>イ. ファイルの分割、結合ができること。</p> <p>ウ. 圧縮時には解凍用パスワードを設定できること。</p> <p>エ. メニューが日本語であること。</p> <p>オ. パスワード条件や暗号化方法を事前に指定してインストールできること。</p>
		<p>●CADデータ閲覧ソフトウェア</p> <p>ア. CAD データ交換標準フォーマット(DWG)に対応したCAD ソフトウェアによって作成された図面データを表示・印刷できること。</p> <p>イ. 全体表示やズーム・画面移動などの操作が CAD データ／画像データともに同じ操作で扱え、データの種類の意識することなく利用できること。</p> <p>ウ. データ全体、または表示しているデータ範囲の印刷が可能であること(全体／部分印刷)。</p> <p>エ. メニューが日本語であること。</p>
		<p>●PDFファイル閲覧ソフトウェア</p> <p>ア. 無償のPDFファイル閲覧ソフトウェアであること。</p>
		<p>●日本語変換ソフト</p> <p>ア. オフィスアプリケーションソフトウェアに付属する日本語変換機能を有すること。</p>
		<p>●アンチウイルス</p> <p>ア. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。</p> <p>イ. リアルタイムスキャンにより、スパイウェアを自動的に検知して駆除する機能を有すること。</p> <p>ウ. Webベースのグラフィカルなレポートと集中管理を1台のコンソールから実行可能であること。</p> <p>エ. 定期的なディスク操作のほかに、メール受信や補助記憶媒体へのアクセスの都度、ファイルの走査を行う機能を有すること。</p> <p>オ. 複合的なコンピュータ環境にも対応可能であること。</p> <p>カ. 更新されたウイルスパターンファイルを端末に配布できること。</p> <p>キ. メニューが日本語であること。</p>
		<p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p>
6.2	4	<p>■免許証発行機</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能に接続できること。</p> <p>イ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>ウ. シンクライアントサーバ等で採用するOSと容易に連携できること。</p> <p>エ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		チ. インプリンティング機能を持つスキャナに対して、印字開始位置決定等の印字機能が制御可能であること。
		●端末検疫エージェント
		ア. 検疫サーバが提供する端末検疫アプリケーションに接続可能であること。
		イ. 検疫サーバからのセキュリティパッチの配付を受けることが可能であること。
		ウ. ユーザ認証を行う前に、端末検疫及びセキュリティパッチ配付を受けられること。
		●OCR-K/Bフォント
		ア. JIS X 9001(B) 準拠
		イ. JIS X 9003(K) 準拠
		ウ. TrueType フォント
		エ. 上記に示す要件を満たすフォントの利用者として、約5,000名を想定している(センタ環境(本番用)及びセンタ環境(総合試験用)用で共通)。
		●OCR手書き認識用半角フォント
		ア. JIS X 9005~8 準拠
		イ. TrueType フォント
		ウ. 上記に示す要件を満たすフォントの利用者として、約5,000名を想定している(センタ環境(本番用)及びセンタ環境(総合試験用)用で共通)。
		●OCR手書き認識用全角フォント
		ア. 一般的にいわれる「教科書体」と呼ばれる手書き風の書体
		イ. JIS X 0208 における第一水準漢字(16区~47区)、第二水準漢字(48区~84区)の範囲
		ウ. JIS X 0208 における英数字、かな(01区~08区)の範囲
		エ. TrueType フォント
		オ. 上記に示す要件を満たすフォントの利用者として、約5,000名を想定している(センタ環境(本番用)及びセンタ環境(総合試験用)用で共通)。
		●日本語変換ソフト
		ア. オフィスアプリケーションソフトウェアに付属する日本語変換機能を有すること。
		●アプリケーションサーバ
		ア. 蓄積されたHTML文書や画像等のファイルを、Webブラウザ等の端末ソフトウェアからの要求に応じてHTTP1.1対応の手順で送信可能であること。
		イ. HTTPS接続に対応可能であること。
		ウ. 仮想ホスト、ソフトウェアロードバランシング機能を有すること。
		エ. コンテンツへのアクセス記録、エラー記録等の記録をcombined形式、common形式等の標準的な書式で保管可能であること。
		オ. アクセスもとのマシン名とともに、アクセスしたコンテンツの内容を記録・保管可能であること。
		カ. 保管に当たっては、外部補助記録媒体への保管が可能であること。
		キ. ディレクトリ単位でのアクセス制限を定義可能であること。
		●NET対応アプリケーションソフト
		ア. .NET対応アプリケーションに関する動作が可能であること。
		●イメージ画像ソフトウェア
		ア. OCRスキャナに付属するイメージデータ編集機能を有すること。
		●オフィスアプリケーションソフトウェア
		ア. Microsoft Office 2003以降で作成された現行資産を正常に扱うことができること。
		イ. 文書作成ソフトウェア、表計算ソフトウェア、プレゼンテーションソフトウェア、簡易データベースソフトウェア、メール閲覧・作成ソフトウェアで構成されていること。
		ウ. メール閲覧・作成ソフトウェアとしては、POP3、IMAP4、SMTPに対応可能であること。S/MIMEならびにOpenPGPに対応した暗号化メールのための拡張機能を有していること。
		エ. OASIS(Organization for the Advancement of Structured Information Standards)公開文書形式標準に準拠した文書の読み込み、編集、印刷、書き出しが可能であること。
		オ. メニューが日本語であること。

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.1 本番用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		カ. ディレクトリサービスと連携し、制限等を一括管理できること。
		キ. インターフェイスのメニューがリボンスタイルであること。
		ク. スクリーンショット機能として、2クリックの操作でウィンドウを貼り付けられること。
		ケ. [保存]、[印刷]、[送信]、などのファイル全体の操作が一括でできること。
		●UPS統合管理
		ア. UPSの管理機能を有すること。
		●アンチウイルス
		ア. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。
		イ. リアルタイムスキャンにより、スパイウェアを自動的に検知して駆除する機能を有すること。
		ウ. Webベースのグラフィカルなレポートと集中管理を1台のコンソールから実行可能であること。
		エ. 定期的なディスク操作のほかに、メール受信や補助記憶媒体へのアクセスの都度、ファイルの走査を行う機能を有すること。
		オ. 複合的なコンピュータ環境にも対応可能であること。
		カ. 更新されたウイルスパターンファイルを端末に配布できること。
		キ. メニューが日本語であること。
		●エージェントソフトウェア
		ア. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。
		イ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
6.5	1	<p>■(総合試験用)基準労災DBサーバ兼、統計情報サーバ</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. IEEE 1003.1-1996及びIEEE 1003.2-1992に準拠していること。</p> <p>ウ. 扱える物理メモリの最大容量が1,152GBであること。</p> <p>エ. OSレベルでパーティション機能を有すること。</p> <p>オ. RBAC(Role Based Access Control/ロールベースでのアクセス制御管理)機能を有していること。</p> <p>カ. HTTP、FTP、TELNET、DNS、NTP、DHCP、SNMP、LDAP、SMTP、NISのインターネット標準に準拠していること。</p> <p>キ. システムに関連した問題をシステムの停止なしに、リアルタイムで問題解決できること。</p> <p>ク. CPU、メモリ、I/Oシステムの監視及び診断を行い、障害リソースを自動的にオフライン化できる予測的自己修復機能を有すること。</p> <p>ケ. I18nによる国際化、L10Nによる地域化による英語化、日本語化を実装すること。</p> <p>コ. ネットワーク仮名漢字変換システムを実装すること。</p> <p>サ. サーバシステムで採用するOSについては極力統一を図ることとし、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>シ. ソフトウェア構築上のソフトウェア製品等のプラットフォームについて極力統一し、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>ス. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>セ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>ソ. 稼働中のシステムを動作させたまま、ブート環境のコピーを作成したり、コピー環境にパッチを適用したりできる機能を有していること。</p> <p>タ. レプリケーション機能、スナップショット、クローン、クォータを有したボリューム管理機能を備えていること。</p> <p>●RDBMS</p> <p>ア. SQL 92 以降に準拠していること。</p> <p>イ. 64bit対応していること。</p> <p>ウ. 1つのデータベースサーバ(インスタンス)あたり100 以上のデータベースを稼働させられること。</p> <p>エ. 1データベースあたり20TB 以上で作成できること。</p> <p>オ. 物理デバイスが10,000 以上作成できること。物理デバイスとしてローデバイスを指定できること。また、ファイルシステム上に物理デバイスを配置して利用する場合、ハードディスクへの書き込みを保証できること。</p> <p>カ. 1物理デバイスが2TB 以上で作成できること。</p> <p>キ. ページサイズを2KB、4KB、8KB、16KB から選択できること。</p> <p>ク. 1テーブルあたり1,000 を超えるカラムを保持できること。</p> <p>ケ. ロック機構として、行単位、ページ単位、テーブル単位、全ページと指定できること。</p> <p>コ. データベースサーバ内のログインユーザ単位で複数テンポラリ領域を確保できること。テンポラリ領域を使い果たした場合でも、他の処理には影響を与えないこと。</p> <p>サ. データベースサーバにて格納データに対する暗号化をサポートしていること。なお、暗号化の対象をデータベース単位、カラム単位で行えること。</p> <p>シ. SSL等の暗号化通信をサポートしていること。</p> <p>ス. データベースへの更新を契機としてデータベースサーバ外の任意のプログラムにアクセスできること。また、メッセージキューイングシステムに対してメッセージを送受信できること。</p> <p>セ. データベースサーバへのアクセス権限管理にはロールベースのものを利用できること。</p> <p>ソ. ネイティブXML格納及びXML検索とクエリをサポートしていること。 (ア)XMLをそのままの形でデータベースに格納できる。 (イ)XMLを格納時に検証し、データベースには検証済みのXMLドキュメントとして格納できる。 (ウ)XMLファイルと通常のRDBデータを一つのデータベースに格納できる。 (エ)DTD または XMLスキーマの定義に照らしてXMLを検証することができる。 (オ)通常のRDBの検索結果をXML形式で出力する機能を有する。 (カ)検索式によって、格納されたXML形式のデータに対してXMLの構造のどの部分に対してもアクセスできる。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>タ. 現行基準システムで利用しているSybase Adaptive Server Enterpriseのストアド・プロシージャが問題なく利用可能であること。</p> <p>チ. 1ファイル2GB までのテキストやイメージを格納できること。</p> <p>ツ. データベースサーバの設定を再起動せずに動的に変更可能であること。</p> <p>テ. スケジュールによりデータベースサーバの設定を変更したり、バックアップなどの処理を自動化できる仕組みを有すること。</p> <p>ト. クラスタソフトウェアと連動し、起動・停止を自動化できること。また、障害発生時には自動的に系切り替えができること。</p> <p>ナ. パーティション機能を有すること。パーティションの種類を複数選択できること。</p> <p>ニ. Transact-SQL が利用可能であること。</p> <p>ヌ. クライアントアプリケーションからデータベースアクセス用のAPI としてODBC、OLEDB、JDBC 等が利用できること。</p> <p>ネ. SQL 文のトレース等の監査ができること。ただし、RDBMS への負荷を小さくすること。</p>
		<p>●RDBMS(DWH)</p> <p>ア. SQL 92 以降に準拠していること。</p> <p>イ. 64bit対応していること。</p> <p>ウ. 1データベースあたり20TB 以上で作成できること。</p> <p>エ. 1物理デバイスが2TB 以上で作成できること。</p> <p>オ. ページサイズを4KB、8KB、16KB、32KB、64KB、128KB、256KB、512KB から選択できること。</p> <p>カ. 1テーブルあたり1,000 を超えるカラムを保持できること。</p> <p>キ. カラム単位でデータの保存とアクセスを行う仕組みであること。テーブル全体をスキャンするのではなく、必要なカラムをスキャンする仕組みとし、高速なレスポンスを実現すること。</p> <p>ク. DB単位、カラム単位で暗号化が可能であること。</p> <p>ケ. SSL等の暗号化通信をサポートしていること。</p> <p>コ. パーティション機能を有すること。</p> <p>サ. すべてのデータを圧縮して格納できること。</p> <p>シ. データベースサーバへのアクセス権限管理にはロールベースのものを利用できること。</p> <p>ス. カラムのデータ型やカーディナリティに応じたインデックスの種類を設定できること。</p> <p>セ. データをビット化して演算を高速化することが可能な技術が採用されていること。</p> <p>ソ. 現行基準システムで利用しているSybase Adaptive Server Enterpriseのストアド・プロシージャが問題なく利用可能であること。</p> <p>タ. Transact-SQL が利用可能であること。</p> <p>チ. クライアントアプリケーションからデータベースアクセス用のAPI としてODBC、OLEDB、JDBC 等が利用できること。</p> <p>ツ. SQL 文のトレース等の監査ができること。ただし、RDBMS への負荷を小さくすること。</p>
		<p>●レプリケーションソフトウェア</p> <p>ア. レプリケーションはトランザクションログベースタイプのものであり、複製タイミングはデータベースのチェックポイントと連動できること。</p> <p>イ. レプリケーション対象データはデータベース単位、テーブル単位、ロー単位で指定可能であること。</p> <p>ウ. ストアド・プロシージャのレプリケーションを行えること。(ストアド・プロシージャの実行結果の転送ではなく、複製先でストアド・プロシージャの実行を行えること。)</p> <p>エ. レプリケーションのルートに障害が発生した場合、復旧後自動的に複製が行われること。</p> <p>オ. 万レプリケーションに発生した障害によってデータベース間に不整合が発生した場合、不整合を検知できる仕組みがあること。また、不整合を修復するツールを用意すること。</p> <p>カ. 基準労災DB サーバのRDBMSから統計情報サーバのRDBMS(DWH)へのレプリケーションが可能であること。</p> <p>キ. 複数のトランザクションの中の有効な変更差分を取り出し、一括して複製側データベースに適用することで、複製側データベース更新の高速化が図れる機能を有していること。</p> <p>ク. 上記の機能は、複製先としてRDBMS(DWH)と、通常のRDBMSの両方に対応していること。</p>
		<p>●クラスタソフトウェア</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		ア. 3ノード以上のクラスタ構成をサポートできること。
		イ. 稼働待機構成以外に、複数の稼働系に対して1台に待機系(N:1)、あるいはすべて稼働系(N:N)といった柔軟なクラスタ構成が可能であること。
		ウ. アプリケーション単位に柔軟に最適なサーバに処理を引き継ぐことが可能であること。
		エ. 複数サービスを連動したサービス切り替えが可能であること。たとえば、Web サーバは DB サーバが必要であるとサービス間で依存関係を定義した場合、Web アプリケーションサーバが DB サーバの起動を待ってから起動し、DB サーバで障害を検出した場合には Web アプリケーションサーバも切り替えるといった運用が可能である等。
		オ. RDBMSに対応したエージェント(起動・停止・系切り替え等の処理を行う)を有すること。
		●ボリューム管理ソフトウェア
		ア. ノード間での排他制御機能を有すること。
		イ. パスのマネージメント機能を有すること。
		ウ. ストレージ筐体をまたいだRAIDが構成できること。
		エ. ファイルシステムと連携した書き込みが可能であること。
		オ. ファイルシステムのオンラインデフラグが可能であること。
		カ. ファイルシステムの拡張・縮小が可能であること。
		キ. 現存するバッチプログラムを継続利用できること。
		●COBOL アプリケーション実行用ソフトウェア
		ア. オペレーティングシステムに依存しないCOBOL アプリケーションの可搬性を確保できること。
		イ. ハードウェア固有のネイティブコード命令を実行可能な仕組みを有すること。
		ウ. Java 及びJ2EE (Java 2 Platform, Enterprise Edition)との接続が可能であること。J2EE コンテナからのCOBOL アプリケーションへのアクセスが可能であること。
		エ. Java とCOBOL の混成アプリケーションの実行が可能であること。
		オ. COBOL アプリケーションから、Web サービスへのアクセスが可能なWeb サービスクライアントを備えていること。
		カ. COBOL アプリケーションからのXML 文書の利用、作成または更新ができ、COBOLシステムとの直接のインタフェースを持たない他のアプリケーションやシステムとのデータ共有が可能であること。
		キ. GUI の管理コンソールを備えていること。
		●バックアップソフトウェア
		ア. RDBMSに対応するデータベース エージェントが用意されていること。
		イ. SAN上の共有テープストレージに対してエージェントから直接バックアップが可能であること。
		ウ. バックアップクライアント、バックアップサーバ側でSANのバックアップが可能であること。
		●所在地コード
		ア. CD またはDVD に収めたテキストデータで提供されること。
		イ. 所在地を示すコードと、カナ地名、漢字地名等が関連付けられていること。
		ウ. 「都道府県」「市区町村」「町・大字・通称」「字・丁目」の4 段階に階層化されていること。
		エ. 全国地方公共団体コード(JIS X 0401、JIS X 0402)に準じ、「都道府県」については数字2 桁、「市区町村」については数字3 桁のコードで提供されること。
		オ. 「町・大字・通称」については数字3 桁、「字・丁目」については数字2 桁のコードで提供されること。
		カ. 「字・丁目」までの住所を示すレコードに加え、「市区町村」以下を省略したレコード、「町・大字・通称」以下を省略したレコード、「字・丁目」を省略したレコードが提供されること。
		キ. 7 桁の郵便番号と対応付けがなされていること。
		ク. システム切り替え時に現行システムで使用されているコードとの対応表が提供されること。
		ケ. コードに関連付けられたデータの内容に更新がある場合は、月末までの更新データを翌月に提供すること。
		コ. データの更新内容として、「新規追加」「訂正」「削除(マスタ上に残る)」「旧地名表示(マスタ上に残らない)」「復活(削除されたものを元に戻す)」の区分があること。

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>サ. 市町村合併や市制変更などに伴う場合を除き、同一の地区に割り当てられるコード値は不変であること。</p> <p>シ. 市町村合併や市制変更などに伴い、同一地区に割り当てられるコード値の変更がある場合は、新旧コードの対応テーブルが提供されること。</p> <p>ス. 市町村合併や市制変更などに伴う新旧コードの対応テーブルは、実際に合併等が行われ新しいコードでの運用が開始される月の前月末までに提供されること。</p> <p>●帳票アプリケーション(マネージャ)</p> <p>ア. 帳票の情報、出力先などの情報をセンターで一元管理できること。</p> <p>イ. 帳票を管理されている情報を元に実際の出力先へ配信して出力できること。</p> <p>ウ. 帳票の印刷エラー/用紙交換の自動通知ができること。</p> <p>エ. 帳票の原本保存、監査ログによる操作の追跡ができること。</p> <p>オ. Web環境での帳票閲覧・操作ができること。</p> <p>カ. 帳票をPDFに変換して保存ができること。</p> <p>キ. 詳細なプリンタエラーを別の端末に通知できること。</p> <p>ク. 帳票出力インターフェースとして、COBOLをサポートしていること。</p> <p>ケ. Windowsシステムに接続可能な全てのプリンタをサポートしていること。</p> <p>コ. マルチサーバ構成に対応していること。</p> <p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>ウ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p>
6.5	2	<p>■(総合試験用)基準労災APサーバ兼、帳票サーバ</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. IEEE 1003.1-1996及びIEEE 1003.2-1992に準拠していること。</p> <p>ウ. 扱える物理メモリの最大容量が1,152GBであること。</p> <p>エ. OSレベルでパーティション機能を有すること。</p> <p>オ. RBAC(Role Based Access Control/ロールベースでのアクセス制御管理)機能を有していること。</p> <p>カ. HTTP、FTP、TELNET、DNS、NTP、DHCP、SNMP、LDAP、SMTP、NISのインターネット標準に準拠していること。</p> <p>キ. システムに関連した問題をシステムの停止なしに、リアルタイムで問題解決できること。</p> <p>ク. CPU、メモリ、I/Oシステムの監視及び診断を行い、障害リソースを自動的にオフライン化できる予測的自己修復機能を有すること。</p> <p>ケ. I18nによる国際化、L10Nによる地域化による英語化、日本語化を実装すること。</p> <p>コ. ネットワーク仮名漢字変換システムを実装すること。</p> <p>サ. サーバシステムで採用するOSについては極力統一を図ることとし、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>シ. ソフトウェア構築上のソフトウェア製品等のプラットフォームについて極力統一し、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>ス. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>セ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>ソ. 稼働中のシステムを動作させたまま、ブート環境のコピーを作成したり、コピー環境にパッチを適用したりできる機能を有していること。</p> <p>タ. レプリケーション機能、スナップショット、クローン、クォータを有したボリューム管理機能を備えていること。</p> <p>●帳票アプリケーション</p> <p>ア. 圧縮送信が可能であること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>イ. PDF などの電子帳票化が可能であること。</p> <p>ウ. ユーザごとの帳票アクセス権限を管理できること。</p> <p>エ. 一次元バーコードを生成できること。</p> <p>オ. 論理データでの圧縮転送により、データ転送量が1/50になること。</p> <p>カ. 次のアプリケーションインターフェースを標準サポートしていること。 コマンド/Java/.NET/カスタムコントロール(OCX)/COBOL/CFX/SAP R/3 RDI連携/Oracle EBS連携/帳票Webサービス</p> <p>キ. 標準で、Excel、PDF出力をサポートしていること。</p> <p>●アプリケーションサーバ</p> <p>ア. J2EE 1.4 以降の仕様をサポートしていること。</p> <p>イ. JDK1.4.2_10 以降、JDK1.5.0_04 以降上で動作すること。</p> <p>ウ. 静的コンテンツだけでなく、動的コンテンツをキャッシュする機能及び各サーバ間の通信でもロード・バランシングが設定可能であること。</p> <p>エ. データベースサーバに対してJDBC 等を用いたコネクションプール機能を有していること。</p> <p>オ. IPv6をサポートしていること。</p> <p>カ. 業務を停止せずにアプリケーションの追加・削除・修正が行えること。</p> <p>キ. データベースサーバに対する負荷分散と障害時のフェイルオーバー機能を有していること。</p> <p>ク. 障害時の自動的な情報収集の機能を有していること。</p> <p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>ウ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p>
6.5	3	<p>■(総合試験用)申請受理サーバ</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. IEEE 1003.1-1996及びIEEE 1003.2-1992に準拠していること。</p> <p>ウ. 扱える物理メモリの最大容量が1,152GBであること。</p> <p>エ. OSレベルでパーティション機能を有すること。</p> <p>オ. RBAC(Role Based Access Control/ロールベースでのアクセス制御管理)機能を有していること。</p> <p>カ. HTTP、FTP、TELNET、DNS、NTP、DHCP、SNMP、LDAP、SMTP、NISのインターネット標準に準拠していること。</p> <p>キ. システムに関連した問題をシステムの停止なしに、リアルタイムで問題解決できること。</p> <p>ク. CPU、メモリ、I/Oシステムの監視及び診断を行い、障害リソースを自動的にオフライン化できる予測的自己修復機能を有すること。</p> <p>ケ. I18nによる国際化、L10Nによる地域化による英語化、日本語化を実装すること。</p> <p>コ. ネットワーク仮名漢字変換システムを実装すること。</p> <p>サ. サーバシステムで採用するOSについては極力統一を図ることとし、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>シ. ソフトウェア構築上のソフトウェア製品等のプラットフォームについて極力統一し、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>ス. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>セ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>ソ. 稼働中のシステムを動作させたまま、ブート環境のコピーを作成したり、コピー環境にパッチを適用したりできる機能を有していること。</p> <p>タ. レプリケーション機能、スナップショット、クローン、クォータを有したボリューム管理機能を備えていること。</p> <p>●メッセージキューイングシステム</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		ア. 汎用受付システムとの電子申請データの送受信に使用するため、汎用受付システム指定のIBM WebSphere MQ とする。バージョンは汎用受付システムの仕様に合わせることを。
		●クラスタソフトウェア
		ア. 3ノード以上のクラスタ構成をサポートできること。
		イ. 稼働待機構成以外に、複数の稼働系に対して1台に待機系(N:1)、あるいはすべて稼働系(N:N)といった柔軟なクラスタ構成が可能であること。
		ウ. アプリケーション単位に柔軟に最適なサーバに処理を引き継ぐことが可能であること。
		エ. 複数サービスを連動したサービス切り替えが可能であること。たとえば、Web サーバは DB サーバが必要であるとサービス間で依存関係を定義した場合、Web アプリケーションサーバが DB サーバの起動を待ってから起動し、DB サーバで障害を検出した場合には Web アプリケーションサーバも切り替えるといった運用が可能である等。
		●ボリューム管理ソフトウェア
		ア. ノード間での排他制御機能を有すること。
		イ. パスのマネージメント機能を有すること。
		ウ. ストレージ筐体をまたいだRAIDが構成できること。
		エ. ファイルシステムと連携した書き込みが可能であること。
		オ. ファイルシステムのオンラインデフラグが可能であること。
		カ. ファイルシステムの拡張・縮小が可能であること。
		キ. 現存するバッチプログラムを継続利用できること。
		●RDBMS
		ア. SQL 92以降に準拠していること。
		イ. 64bit対応していること。
		ウ. 1データベースあたり20TB以上で作成できること。
		エ. 物理デバイスが10,000以上作成できること。物理デバイスとしてローデバイス指定できること。また、ファイルシステム上に物理デバイスを配置して利用する場合、ハードディスクへの書き込みを保証できること。
		オ. 1物理デバイスが2TB以上で作成できること。
		カ. ページサイズを2KB、4KB、8KB、16KBから選択できること。
		キ. データベースサーバにて格納データに対する暗号化をサポートしていること。なお、暗号化の対象をデータベース単位、カラム単位で行えること。
		ク. SSL等の暗号化通信をサポートしていること。
		ケ. データベースサーバへのアクセス権限管理にはロールベースのものを利用できること。
		コ. ストアド・プロシージャが利用可能であること。
		サ. クラスタソフトウェアと連動し、起動・停止を自動化できること。また、障害発生時には自動的に系切り替えができること。
		シ. パーティション機能を有すること。パーティションの種類を複数選択できること。
		ス. クライアントアプリケーションからデータベースアクセス用のAPIとしてODBC、OLEDB、JDBC 等が利用できること。
		セ. SQL文のトレース等の監査ができること。ただし、RDBMSへの負荷を可能な限り小さくすること。
		ソ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。
		タ. データベース・ファイルを多重化する機能を自身に備えていること。
		チ. 行レベルロックをサポートし、ページ単位や表単位にエスカレートしない仕組みであること。
		●アプリケーションサーバ
		ア. J2EE 1.4 以降の仕様をサポートしていること。
		イ. JDK1.4.2_10 以降、JDK1.5.0_04 以降上で動作すること。
		ウ. 静的コンテンツだけでなく、動的コンテンツをキャッシュする機能及び各サーバ間の通信でもロード・バランシングが設定可能であること。
		エ. データベースサーバに対してJDBC 等を用いたコネクションプール機能を有していること。

章番号	項番	機能要件
		<p>オ. IPv6をサポートしていること。</p> <p>カ. 業務を停止せずにアプリケーションの追加・削除・修正が行えること。</p> <p>キ. データベースサーバに対する負荷分散と障害時のフェイルオーバー機能を有していること。</p> <p>ク. 障害時の自動的な情報収集の機能を有していること。</p> <p>●アンチウイルス</p> <p>ア. アプリケーションサーバ上の業務アプリケーションから、任意のタイミングにて指定するファイルに対してウイルスの検知を行い、駆除する機能を有すること。</p> <p>イ. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。</p> <p>ウ. 1つのライセンスで複数のOS (Windows、UNIX)に対応できること。</p> <p>エ. 複数のOS (Windows、UNIX)を一元的に管理できるコンソールを有すること。</p> <p>オ. 1つのライセンスでデータ流出を防ぐデバイス制御機能を有すること。</p> <p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>ウ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p>
6.5	4	<p>■(総合試験用)原本管理サーバ</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. IEEE 1003.1-1996及びIEEE 1003.2-1992に準拠していること。</p> <p>ウ. 扱える物理メモリの最大容量が1,152GBであること。</p> <p>エ. OSレベルでパーティション機能を有すること。</p> <p>オ. RBAC(Role Based Access Control/ロールベースでのアクセス制御管理)機能を有していること。</p> <p>カ. HTTP、FTP、TELNET、DNS、NTP、DHCP、SNMP、LDAP、SMTP、NISのインターネット標準に準拠していること。</p> <p>キ. システムに関連した問題をシステムの停止なしに、リアルタイムで問題解決できること。</p> <p>ク. CPU、メモリ、I/Oシステムの監視及び診断を行い、障害リソースを自動的にオフライン化できる予測的自己修復機能を有すること。</p> <p>ケ. I18nによる国際化、L10Nによる地域化による英語化、日本語化を実装すること。</p> <p>コ. ネットワーク仮名漢字変換システムを実装すること。</p> <p>サ. サーバシステムで採用するOSについては極力統一を図ることとし、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>シ. ソフトウェア構築上のソフトウェア製品等のプラットフォームについて極力統一し、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>ス. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>セ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>ソ. 稼働中のシステムを動作させたまま、ブート環境のコピーを作成したり、コピー環境にパッチを適用したりできる機能を有していること。</p> <p>タ. レプリケーション機能、スナップショット、クローン、クォータを有したボリューム管理機能を備えていること。</p> <p>●メッセージキューイングシステム</p> <p>ア. 汎用受付システムとの電子申請データの送受信に使用するため、汎用受付システム指定のIBM WebSphere MQ とする。バージョンは汎用受付システムの仕様に合わせる。</p> <p>●クラスタソフトウェア</p> <p>ア. 3ノード以上のクラスタ構成をサポートできること。</p> <p>イ. 稼働待機構成以外に、複数の稼働系に対して1台に待機系(N:1)、あるいはすべて稼働系(N:N)といった柔軟なクラスタ構成が可能であること。</p> <p>ウ. アプリケーション単位に柔軟に最適なサーバに処理を引き継ぐことが可能であること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>エ. 複数サービスを連動したサービス切り替えが可能であること。たとえば、Web サーバは DB サーバが必要であるとサービス間で依存関係を定義した場合、Web アプリケーションサーバが DB サーバの起動を待ってから起動し、DB サーバで障害を検出した場合には Web アプリケーションサーバも切り替えるといった運用が可能である等。</p>
		<p>●ボリューム管理ソフトウェア</p> <p>ア. ノード間での排他制御機能を有すること。</p> <p>イ. パスのマネージメント機能を有すること。</p> <p>ウ. ストレージ筐体をまたいだRAIDが構成できること。</p> <p>エ. ファイルシステムと連携した書き込みが可能であること。</p> <p>オ. ファイルシステムのオンラインデフラグが可能であること。</p> <p>カ. ファイルシステムの拡張・縮小が可能であること。</p> <p>キ. 現存するバッチプログラムを継続利用できること。</p>
		<p>●RDBMS</p> <p>ア. SQL 92以降に準拠していること。</p> <p>イ. 64bit対応していること。</p> <p>ウ. 1データベースあたり20TB以上で作成できること。</p> <p>エ. 物理デバイスが10,000以上作成できること。物理デバイスとしてローデバイスを指定できること。また、ファイルシステム上に物理デバイスを配置して利用する場合、ハードディスクへの書き込みを保証できること。</p> <p>オ. 1物理デバイスが2TB以上で作成できること。</p> <p>カ. ページサイズを2KB、4KB、8KB、16KBから選択できること。</p> <p>キ. データベースサーバにて格納データに対する暗号化をサポートしていること。なお、暗号化の対象をデータベース単位、カラム単位で行えること。</p> <p>ク. SSL等の暗号化通信をサポートしていること。</p> <p>ケ. データベースサーバへのアクセス権限管理にはロールベースのものを利用できること。</p> <p>コ. スタアド・プロシージャが利用可能であること。</p> <p>サ. クラスタソフトウェアと連動し、起動・停止を自動化できること。また、障害発生時には自動的に系切り替えができること。</p> <p>シ. パーティション機能を有すること。パーティションの種類を複数選択できること。</p> <p>ス. クライアントアプリケーションからデータベースアクセス用のAPIが利用できること。</p> <p>セ. SQL文のトレース等の監査ができること。ただし、RDBMSへの負荷を可能な限り小さくすること。</p> <p>ソ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408IにおけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>タ. データベース・ファイルを多重化する機能を自身に備えていること。</p> <p>チ. 行レベルロックをサポートし、ページ単位や表単位にエスカレートしない仕組みであること。</p>
		<p>●バックアップソフトウェア</p> <p>ア. RDBMSに対応するデータベース エージェントが用意されていること。</p> <p>イ. SAN上の共有テープストレージに対してエージェントから直接バックアップが可能であること。</p> <p>ウ. バックアップクライアント、バックアップサーバ側でSANのバックアップが可能であること。</p>
		<p>●アプリケーションサーバ</p> <p>ア. J2EE 1.4 以降の仕様をサポートしていること。</p> <p>イ. JDK1.4.2_10 以降、JDK1.5.0_04 以降上で動作すること。</p> <p>ウ. 静的コンテンツだけでなく、動的コンテンツをキャッシュする機能及び各サーバ間の通信でもロード・バランシングが設定可能であること。</p> <p>エ. データベースサーバに対してJDBC 等を用いたコネクションプール機能を有していること。</p> <p>オ. IPv6をサポートしていること。</p> <p>カ. 業務を停止せずにアプリケーションの追加・削除・修正が行えること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>キ. データベースサーバに対する負荷分散と障害時のフェイルオーバー機能を有していること。</p> <p>ク. 障害時の自動的な情報収集の機能を有していること。</p> <p>●アンチウイルス</p> <p>ア. アプリケーションサーバ上の業務アプリケーションから、任意のタイミングにて指定するファイルに対してウイルスの検知を行い、駆除する機能を有すること。</p> <p>イ. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。</p> <p>ウ. 1つのライセンスで複数のOS (Windows、UNIX)に対応できること。</p> <p>エ. 複数のOS (Windows、UNIX)を一元的に管理できるコンソールを有すること。</p> <p>オ. 1つのライセンスでデータ流出を防ぐデバイス制御機能を有すること。</p> <p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>ウ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p>
6.5	5	<p>■(総合試験用)審査状況管理サーバ</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. IEEE 1003.1-1996及びIEEE 1003.2-1992に準拠していること。</p> <p>ウ. 扱える物理メモリの最大容量が1,152GBであること。</p> <p>エ. OSレベルでパーティション機能を有すること。パーティションで区切られたOSの領域間でネットワーク通信が可能であること。</p> <p>オ. RBAC (Role Based Access Control / ロールベースでのアクセス制御管理) 機能を有していること。</p> <p>カ. HTTP、FTP、TELNET、DNS、NTP、DHCP、SNMP、LDAP、SMTP、NISのインターネット標準に準拠していること。</p> <p>キ. システムに関連した問題をシステムの停止なしに、リアルタイムで問題解決できること。</p> <p>ク. CPU、メモリ、I/Oシステムの監視及び診断を行い、障害リソースを自動的にオフライン化できる予測的自己修復機能を有すること。</p> <p>ケ. I18nによる国際化、L10Nによる地域化による英語化、日本語化を実装すること。</p> <p>コ. ネットワーク仮名漢字変換システムを実装すること。</p> <p>サ. サーバシステムで採用するOSについては極力統一を図ることとし、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>シ. ソフトウェア構築上のソフトウェア製品等のプラットフォームについて極力統一し、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>ス. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>セ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>ソ. 稼働中のシステムを動作させたまま、ブート環境のコピーを作成したり、コピー環境にパッチを適用したりできる機能を有していること。</p> <p>タ. レプリケーション機能、スナップショット、クローン、クォータを有したボリューム管理機能を備えていること。</p> <p>●アプリケーションサーバ</p> <p>ア. J2EE 1.4以降の仕様をサポートしていること。</p> <p>イ. JDK1.4.2_10以降、JDK1.5.0_04以降上で動作すること。</p> <p>ウ. 静的コンテンツだけでなく、動的コンテンツをキャッシュする機能及び各サーバ間の通信でもロード・バランシングが設定可能であること。</p> <p>エ. データベースサーバに対してJDBC等を用いたコネクションプール機能を有していること。</p> <p>オ. IPv6をサポートしていること。</p> <p>カ. 業務を停止せずにアプリケーションの追加・削除・修正が行えること。</p> <p>キ. データベースサーバに対する負荷分散と障害時のフェイルオーバー機能を有していること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>ク. 障害時の自動的な情報収集の機能を有していること。</p> <p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>ウ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p>
6.5	6	<p>■(総合試験用)グループウェアサーバ兼、研修サーバ兼 ポータルサーバ(リポジトリ)</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. IEEE 1003.1-1996及びIEEE 1003.2-1992に準拠していること。</p> <p>ウ. 扱える物理メモリの最大容量が1,152GBであること。</p> <p>エ. OSレベルでパーティション機能を有すること。</p> <p>オ. RBAC(Role Based Access Control/ロールベースでのアクセス制御管理)機能を有していること。</p> <p>カ. HTTP、FTP、TELNET、DNS、NTP、DHCP、SNMP、LDAP、SMTP、NISのインターネット標準に準拠していること。</p> <p>キ. システムに関連した問題をシステムの停止なしに、リアルタイムで問題解決できること。</p> <p>ク. CPU、メモリ、I/Oシステムの監視及び診断を行い、障害リソースを自動的にオフライン化できる予測的自己修復機能を有すること。</p> <p>ケ. I18nによる国際化、L10Nによる地域化による英語化、日本語化を実装すること。</p> <p>コ. ネットワーク仮名漢字変換システムを実装すること。</p> <p>サ. サーバシステムで採用するOSについては極力統一を図ることとし、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>シ. ソフトウェア構築上のソフトウェア製品等のプラットフォームについて極力統一し、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>ス. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>セ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>ソ. 稼働中のシステムを動作させたまま、ブート環境のコピーを作成したり、コピー環境にパッチを適用したりできる機能を有していること。</p> <p>タ. レプリケーション機能、スナップショット、クローン、クォータを有したボリューム管理機能を備えていること。</p> <p>●RDBMS</p> <p>ア. SQL 92 以降に準拠していること。</p> <p>イ. 64bit対応していること。</p> <p>ウ. 1つのデータベースサーバ(インスタンス)あたり100 以上のデータベースを稼働させられること。</p> <p>エ. 1データベースあたり20TB 以上で作成できること。</p> <p>オ. 物理デバイスが10,000 以上作成できること。物理デバイスとしてローデバイスを指定できること。また、ファイルシステム上に物理デバイスを配置して利用する場合、ハードディスクへの書き込みを保証できること。</p> <p>カ. 1物理デバイスが2TB 以上で作成できること。</p> <p>キ. ページサイズを2KB、4KB、8KB、16KB から選択できること。</p> <p>ク. 1テーブルあたり1,000 を超えるカラムを保持できること。</p> <p>ケ. ロック機構として、行単位、ページ単位、テーブル単位、全ページと指定できること。</p> <p>コ. データベースサーバ内のログインユーザ単位で複数テンポラリ領域を確保できること。テンポラリ領域を使い果たした場合でも、他の処理には影響を与えないこと。</p> <p>サ. データベースサーバにて格納データに対する暗号化をサポートしていること。なお、暗号化の対象をデータベース単位、カラム単位で行えること。</p> <p>シ. SSL等の暗号化通信をサポートしていること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>ス. データベースへの更新を契機としてデータベースサーバ外の任意のプログラムにアクセスできること。また、メッセージキューイングシステムに対してメッセージを送受信できること。</p> <p>セ. データベースサーバへのアクセス権限管理にはロールベースのものを利用できること。</p> <p>ソ. ネイティブXML格納及びXML検索とクエリをサポートしていること。 (ア)XMLをそのままの形でデータベースに格納できる。 (イ)XMLを格納時に検証し、データベースには検証済みのXMLドキュメントとして格納できる。 (ウ)XMLファイルと通常のRDBデータを一つのデータベースに格納できる。 (エ)DTD または XMLスキーマの定義に照らしてXMLを検証することができる。 (オ)通常のRDBの検索結果をXML形式で出力する機能を有する。 (カ)検索式によって、格納されたXML形式のデータに対してXMLの構造のどの部分に対してもアクセスできる。</p> <p>タ. 現行基準システムで利用しているSybase Adaptive Server Enterpriseのストアド・プロシージャが問題なく利用可能であること。</p> <p>チ. 1ファイル2GB までのテキストやイメージを格納できること。</p> <p>ツ. データベースサーバの設定を再起動せずに動的に変更可能であること。</p> <p>テ. スケジュールによりデータベースサーバの設定を変更したり、バックアップなどの処理を自動化できる仕組みを有すること。</p> <p>ト. 形態素解析を利用した全文検索が可能であること。</p> <p>ナ. クラスタソフトウェアと連動し、起動・停止を自動化できること。また、障害発生時には自動的に系切り替えができること。</p> <p>ニ. パーティション機能を有すること。パーティションの種類を複数選択できること。</p> <p>ヌ. Transact-SQL が利用可能であること。</p> <p>ネ. クライアントアプリケーションからデータベースアクセス用のAPI が利用できること。</p> <p>ノ. SQL 文のトレース等の監査ができること。ただし、RDBMS への負荷を小さくすること。</p> <p>●メールサーバ</p> <p>ア. 送受信される1 通あたりの電子メールのサイズ制限を設定できること。</p> <p>イ. 電子メールへのファイル添付ができること。</p> <p>ウ. メールボックス単位で容量制限が行えること。</p> <p>エ. 受信した電子メールに対して迷惑メールを自動的に判別できること。</p> <p>オ. 自分宛の電子メールを許可された指定の電子メールアドレス宛てへ再送信する転送機能を有すること。</p> <p>カ. SMTP (Simple Mail Transfer Protocol)、POP3 (Post Office Protocol3)、IMAP4 (Internet Mail Access Protocol4)、HTTP、HTTPS、HTML、MIME、SMTP Authentication、LDAPに対応していること。</p> <p>キ. ユーザに割り当てたメールボックスサイズに対して、指定の量 (%) を超えた場合に指定した期間より前のメールを削除する。</p> <p>ク. ポリシー強制ルールの適用対象はユーザ単位、グループ単位で設定可能であること。</p> <p>ケ. 適用対象を限定して不適切な通信を防止するルールを作成することができること。</p> <p>コ. メールボックス数として100以上を確保できること。</p> <p>サ. サーバが外部からメッセージを受け付ける前にディレクトリ検索を実施し、ディレクトリに登録されていないユーザー (退職した社員や架空のアドレスなど) へのメールは拒否できること。</p> <p>シ. クラスタによる冗長化構成がとれること。</p> <p>ス. アカウント管理用にWebGUIツールが用意されていること。また、あわせてコマンドラインツールも提供されること。</p> <p>セ. 利用可能なサービス (POP、IMAP等) の制限をユーザ単位でかけられること。またユーザ単位での制限はIPベースでの制限も設定できること。</p> <p>ソ. サーバ側で定義したポリシーにより、不要なメールを自動的に削除できること。</p> <p>タ. マルチドメインがサポートされていること。</p> <p>チ. 容量制限実施時、メールボックスの使用量が一定の閾値を超えた場合ユーザに通知できること。</p> <p>ツ. Quota Overしたユーザ宛のメールをキューに保持できること。また、Quota Overしたメールのキューへの保持期間を指定できること。</p> <p>テ. 現存するメールデータを全て次期環境に移管できること。</p> <p>●アンチウイルス</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>ア. メールを媒介とした攻撃をフィルタリングプロセスの前段階でブロックするメールファイアウォール機能があること。</p> <p>イ. 最新情報に基づいたスパムフィルタリングを行うアンチスパム機能があること。</p> <p>ウ. SMTPトラフィックに対して、頻繁に改変され多種発生する不正コードの受信を予防できること。</p> <p>エ. 監視時間、比率、総メール数により、スパイ型(ターゲティングアタック)のスパムメールの送信元IPアドレスを特定し、それらのメールをブロック可能であること。</p> <p>オ. 監視時間、比率、総メール数により、スパイ型(ターゲティングアタック)のウイルスメールの送信元IPアドレスを特定し、それらのメールをブロック可能であること。</p> <p>カ. DNSBL機能においてメールサーバの設定が不要なブラックリストをレピュテーションサービスのサーバ側で設定し、メールサーバの再起動なしに運用に反映できること。</p> <p>キ. DNSBL機能においてメールサーバの設定が不要なホワイトリストをレピュテーションサービスのサーバ側で設定し、メールサーバの再起動なしに運用に反映できること。</p> <p>●グループウェア</p> <p>ア. 予定管理機能、設備予約管理機能として以下を有すること。 (ア) 予定は同一時間帯に重複して作成できること。 ただし、重複していることがわかるように表示されること。 (イ) 個人の予定だけではなく、会議等のグループの予定も作成できること。 なお、作成したスケジュールを他の職員に対して通知できること。 (ウ) 個人の予定とグループのスケジュールが連携、同期されること。 (エ) 会議等の予定作成時に出席者の複数メンバーに対して空き時間を検索できること。 (オ) 自分に対して予定が予約された職員は、承認、非承認、保留ができること。 また、空き時間検索時には設備や備品も併せて対象とできること。 なお、設備等については各局署のスケジュール管理者が管理できるようにすること。 (カ) 休日情報を登録し、各職員に対して自動的に反映されること。 (キ) 個人の予定が日別、週別、月別でリスト表示ができること。 (ク) 繰り返しの予定を作成できること。 (ケ) 個人の予定の詳細を任意に他の職員に公開できること。</p> <p>イ. メンテナンス、カスタマイズ機能として以下を有すること。 (ア) 設備、備品等の登録・変更・削除ができること。 (イ) 登録された設備、備品に対して付属設備を登録できること。 (ウ) 該当職員に代わって予定設定等が行える、代替設定者を指定できること。 (エ) 行先・区分の設定ができること。 (オ) 上記の設定を行った後は、該当局署の職員にその設定が自動的に反映されること。</p> <p>ウ. 電子掲示板機能として以下を有すること。 (ア) 電子掲示板メニュー選択時は電子掲示板フォルダの一覧を、また、任意の電子掲示板フォルダの選択時はその中に登録されている掲示文書の一覧を表示できること。 (イ) 掲載期間及び掲示する日時を指定できること。 また、指定日時前であれば掲示を取り消すことができること。 (ウ) 掲載期間を超えた掲示文書を自動削除する機能を有すること。 (エ) 電子掲示板ごとに容量制限を行えること。 (オ) 容量が指定されたサイズに達した場合、システム管理者に警告を発することができること。 (カ) 一覧表示された参照可能な掲示文書の未読/既読の区別ができること。 (キ) 参照可能な掲示文書において、クリッカブルURLをサポートしていること。 (ク) 掲示文書には当システムで指定する外字が使用できること。 (ケ) 新規投稿または編集時には、職員ポータル等へ新着情報として通知・掲載できること。 (コ) 電子掲示板ごとに、開示範囲を指定可能なこと。 (サ) 電子掲示板の掲示数として、300以上保持可能なこと。</p> <p>エ. プログラムソースが公開されていること。</p> <p>オ. 電子掲示板ごとに、管理者権限を付与できること。</p> <p>カ. 施設グループの設定ができ、ユーザごとにデフォルト表示グループを設定できること。</p> <p>キ. 現存する施設情報、掲示板などの登録情報を全て次期環境に移管できること。</p> <p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>ウ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p>
6.5	7	<p>■(総合試験用)グループウェアサーバ(メールアーカイブ)</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。
		イ. IEEE 1003.1-1996及びIEEE 1003.2-1992に準拠していること。
		ウ. 扱える物理メモリの最大容量が1,152GBであること。
		エ. OSレベルでパーティション機能を有すること。
		オ. RBAC(Role Based Access Control/ロールベースでのアクセス制御管理)機能を有していること。
		カ. HTTP、FTP、TELNET、DNS、NTP、DHCP、SNMP、LDAP、SMTP、NISのインターネット標準に準拠していること。
		キ. システムに関連した問題をシステムの停止なしに、リアルタイムで問題解決できること。
		ク. CPU、メモリ、I/Oシステムの監視及び診断を行い、障害リソースを自動的にオフライン化できる予測的自己修復機能を有すること。
		ケ. I18nによる国際化、L10Nによる地域化による英語化、日本語化を実装すること。
		コ. ネットワーク仮名漢字変換システムを実装すること。
		サ. サーバシステムで採用するOSについては極力統一を図ることとし、システムメンテナンス性を確保すること。
		シ. ソフトウェア構築上のソフトウェア製品等のプラットフォームについて極力統一し、システムメンテナンス性を確保すること。
		ス. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。
		セ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。
		ソ. 稼働中のシステムを動作させたまま、ブート環境のコピーを作成したり、コピー環境にパッチを適用したりできる機能を有していること。
		タ. レプリケーション機能、スナップショット、クローン、クォータを有したボリューム管理機能を備えていること。
		●メール管理・監査
		ア. テラバイトサイズのメールアーカイブから高速に検索することのできる検索エンジンを備えていること。
		イ. 演算子を使用した条件式検索、データベースからの直接検索が可能であること。
		ウ. システムの故障、過失などで消失したメールをアーカイブされたメールデータから復元することができること。
		エ. 多数のキーワードをキーワードグループとして1つのフィルタに設定でき、フィルタの数が無制限に増えるのを防止できること。
		オ. コンテンツタイプ、送信メールソフト名(X-Mailer)、添付ファイル名、差出人、宛先、表題、本文及び添付ファイル内のテキストに対してフィルタ条件を設定できる機能を提供すること。
		カ. フィルタが検出したメールのその後の処理、通知メールの送付などを設定できること。
		キ. 保留されたメール、削除されたメールは管理者が内容を確認し、その後の処理を、配送、返送、削除、転送から選択できること。
		ク. コンテンツをチェックして不適切なコンテンツをフィルタリング可能であること。
		ケ. ファイル拡張子のみでなくファイルタイプに基づいて不要または有害なファイルをブロック可能であること。
		●アプリケーションサーバ
		ア. 蓄積されたHTML文書や画像等のファイルを、Webブラウザ等の端末ソフトウェアからの要求に応じてHTTP1.1対応の手順で送信可能であること。
		イ. HTTPS接続に対応可能であること。
		ウ. 仮想ホスト、ソフトウェアロードバランシング機能を有すること。
		エ. コンテンツへのアクセス記録、エラー記録等の記録をcombined形式、common形式等の標準的な書式で保管可能であること。
		オ. アクセスもとのマシン名とともに、アクセスしたコンテンツの内容を記録・保管可能であること。
		カ. 保管に当たっては、外部補助記録媒体への保管が可能であること。
		キ. ディレクトリ単位でのアクセス制限を定義可能であること。
		●メールリスト
		ア. メールリストの設定を行うことができること。
		イ. 過去の投稿メールの取り寄せを容易に行うことができること。また、HTML形式で閲覧可能であること。
		ウ. リストへの登録人数の制限設定が可能であること。
		●エージェントソフトウェア

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>ウ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p>
6.5	8	<p>■(総合試験用)全文検索サーバ (搭載ソフトウェアはなし)</p>
6.5	9	<p>■(総合試験用)統計分析サーバ兼、ポータルサーバ(フロントエンド)</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 32bitまたは64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. ファイアウォール機能を有すること。</p> <p>ウ. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能を備えていること。</p> <p>エ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>オ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408 におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>カ. 冗長化構成が組めること。</p> <p>キ. 仮想化機能を備えていること。</p> <p>●統計分析ソリューション(BI)</p> <p>ア. 統計情報サーバのRDBMS(DWH)とODBC 等の標準化アクセスルーチンを用いて接続が可能であること。</p> <p>イ. OLAP(OnLine Analytical Processing)等の多次元分析が行えること。なお、MOLAP(Multi-dimensional OLAP)、ROLAP(Relational OLAP)両方をサポートすること。</p> <p>ウ. 職員が任意に統計用テンプレートを作成する機能があること。また、職員が作成した統計情報を他の職員と共有できること。</p> <p>エ. 同一検索条件に対するキャッシュ機能を有すること。</p> <p>オ. 職員が統計情報を取得するためのスケジュールを任意に設定できること。</p> <p>カ. 統計情報を取得するための操作について、Web ブラウザを用いたGUI で実行でき、検索条件入力からレポート作成にかかる操作を同一アプリケーションで実現できること。また、検索の結果をPDF や表計算ソフトウェアに対して出力が可能であること。</p> <p>キ. 検索、分析処理の完了を電子メール等で職員へ通知できること。</p> <p>ク. 設定情報や、処理結果等のデータをバックアップできること。また、リストアが可能であること。</p> <p>ケ. 職員に対して提供可能なレポートの様式を修正・追加開発できるツールを提供すること。</p> <p>コ. 単純集計、平均値、最大値、最小値、最頻値等の基本統計量を簡便な操作で求めることができる機能があること。</p> <p>サ. 現存するユニバース(キューブ)を全て次期環境に移管できること。</p> <p>●アプリケーションサーバ</p> <p>ア. 蓄積されたHTML文書や画像等のファイルを、Webブラウザ等の端末ソフトウェアからの要求に応じてHTTP1.1対応の手順で送信可能であること。</p> <p>イ. HTTPS接続に対応可能であること。</p> <p>ウ. 仮想ホスト、ソフトウェアロードバランシング機能を有すること。</p> <p>エ. コンテンツへのアクセス記録、エラー記録等の記録をcombined形式、common形式等の標準的な書式で保管可能であること。</p> <p>オ. アクセスもとのマシン名とともに、アクセスしたコンテンツの内容を記録・保管可能であること。</p> <p>カ. 保管に当たっては、外部補助記録媒体への保管が可能であること。</p> <p>キ. ディレクトリ単位でのアクセス制限を定義可能であること。</p> <p>●アンチウイルス</p> <p>ア. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。</p> <p>イ. リアルタイムスキャンにより、スパイウェアを自動的に検知して駆除する機能を有すること。</p> <p>ウ. Webベースのグラフィカルなレポートと集中管理を1台のコンソールから実行可能であること。</p> <p>エ. 定期的なディスク操作のほかに、メール受信や補助記憶媒体へのアクセスの都度、ファイルの走査を行う機能を有すること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>オ. 複合的なコンピュータ環境にも対応可能であること。</p> <p>カ. 更新されたウイルスパターンファイルを端末に配布できること。</p> <p>キ. メニューが日本語であること。</p> <p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>ウ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p>
6.5	10	<p>■(総合試験用)シンクライアントサーバ</p> <p>◆(総合試験用)シンクライアントサーバ(ライセンス管理)</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. ファイアウォール機能を有すること。</p> <p>ウ. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能を備えていること。</p> <p>エ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>オ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408 におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>カ. 冗長化構成が組めること。</p> <p>キ. 仮想化機能を備えていること。</p> <p>●シンクライアント制御ソフトウェア</p> <p>ア. クライアントソフトウェア及び情報リソースをサーバに集約可能な仕組み(サーバベースコンピューティング)を提供できること。</p> <p>イ. サーバ側にてアプリケーションが実行され、サーバからクライアントへは画面データが送信される仕組み(画面転送型のサーバベースコンピューティング環境)を実現できること。</p> <p>ウ. 専用エージェントからの利用だけでなく、Web ブラウザを用いてシンクライアントサーバ上のアプリケーションを起動して利用できること。(画面表示クライアントとして2 種類の選択肢があること。)</p> <p>エ. アプリケーションを使用中のユーザが、場所を移動してネットワークやデバイスを変えても、サーバに再接続すれば、それまで使っていたアプリケーションを継続して使うことができること。</p> <p>オ. モバイルやWAN などの狭帯ネットワーク環境でも常に快適にアプリケーションを利用できること。</p> <p>カ. 64bit環境での動作に対応していること。</p> <p>キ. サーバベースコンピューティング未対応のアプリケーション(ファイルやレジストリ、TCP ポートが競合する)を利用可能にする仮想化テクノロジ(ストリーム配信機能と仮想IP アドレス付与機能)を備えていること。</p> <p>ク. すべてのユーザにサーバのCPU をバランス良く割り振り、メモリ使用を最適化する機能を備えていること。</p> <p>ケ. 複数台のシンクライアントサーバへのアクセスに対して各種リソース(CPU、メモリ、ログイン数等)の使用状況に応じて複数の方式が可能である負荷分散機能を有すること。</p> <p>コ. ユーザ、グループだけでなく、接続先サーバ、クライアントのIP アドレス、コンピュータ名にもポリシーの割り当てが可能であること。帯域幅、優先ゾーン、プリンタなどもポリシーで制御可能であること。</p> <p>サ. クライアントセッション切断時にも作業画面を保持し、再ログオンなしに作業を継続できること。</p> <p>●RDBMS</p> <p>ア. シンクライアント制御ソフトウェアが指定、推奨するRDBMSとする。</p> <p>●RDBMS</p> <p>ア. SQL 92 以降に準拠していること。</p> <p>イ. Transact-SQL が利用可能であること。</p> <p>ウ. 非同期通信によるイメージデータ転送を行うことができること。</p> <p>エ. SSL等の暗号化通信をサポートしていること。</p> <p>オ. IPv6に対応していること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>カ. 原本管理サーバのRDBMS との接続及び同期が可能であること。同期元と同期先(原本管理サーバ)とで、整合性が保障されること。</p> <p>キ. 同期時には、データの消失が発生しない仕組みを有すること。</p> <p>ク. ページサイズを2KB、4KB、8KB、16KB から選択できること。</p> <p>ケ. クライアントアプリケーションからデータベースアクセス用のAPI としてODBC、OLEDB、JDBC 等が利用できること。</p> <p>コ. 1,000 台以上での転送実績を有すること。</p>
		<p>●アンチウイルス</p> <p>ア. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。</p> <p>イ. リアルタイムスキャンにより、スパイウェアを自動的に検知して駆除する機能を有すること。</p> <p>ウ. Webベースのグラフィカルなレポートニングと集中管理を1台のコンソールから実行可能であること。</p> <p>エ. 定期的なディスク操作のほかに、メール受信や補助記憶媒体へのアクセスの都度、ファイルの走査を行う機能を有すること。</p> <p>オ. 複合的なコンピュータ環境にも対応可能であること。</p> <p>カ. 更新されたウイルスパターンファイルを端末に配布できること。</p> <p>キ. メニューが日本語であること。</p>
		<p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p>
		<p>◆(総合試験用)シンクライアントサーバ(データストア、メンバーサーバ)</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. ファイアウォール機能を有すること。</p> <p>ウ. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能を備えていること。</p> <p>エ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>オ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408 におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>カ. 冗長化構成が組めること。</p> <p>キ. 仮想化機能を備えていること。</p>
		<p>●RDBMS</p> <p>ア. SQL 92 以降に準拠していること。</p> <p>イ. Transact-SQL が利用可能であること。</p> <p>ウ. 非同期通信によるイメージデータ転送を行うことができること。</p> <p>エ. SSL等の暗号化通信をサポートしていること。</p> <p>オ. IPv6に対応していること。</p> <p>カ. 原本管理サーバのRDBMS との接続及び同期が可能であること。同期元と同期先(原本管理サーバ)とで、整合性が保障されること。</p> <p>キ. 同期時には、データの消失が発生しない仕組みを有すること。</p> <p>ク. ページサイズを2KB、4KB、8KB、16KB から選択できること。</p> <p>ケ. クライアントアプリケーションからデータベースアクセス用のAPI としてODBC、OLEDB、JDBC 等が利用できること。</p> <p>コ. 1,000 台以上での転送実績を有すること。</p>
		<p>●オフィスアプリケーションソフトウェア(OAソフトウェア)</p> <p>ア. Microsoft Office 2003以降で作成された現行資産を正常に扱うことができること。</p> <p>イ. 文書作成ソフトウェア、表計算ソフトウェア、プレゼンテーションソフトウェア、簡易データベースソフトウェア、メール閲覧・作成ソフトウェアで構成されていること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>ウ. メール閲覧・作成ソフトウェアとしては、POP3、IMAP4、SMTP に対応可能であること。S/MIME ならびにOpenPGP に対応した暗号化メールのための拡張機能を有していること。</p> <p>エ. OASIS (Organization for the Advancement of Structured Information Standards) 公開文書形式標準に準拠した文書の読み込み、編集、印刷、書き出しが可能であること。</p> <p>オ. メニューが日本語であること。</p> <p>カ. ディレクトリサービスと連携し、制限等を一括管理できること。</p> <p>キ. インターフェイスのメニューがリボンスタイルであること。</p> <p>ク. スクリーンショット機能として、2クリックの操作でウィンドウを貼り付けられること。</p> <p>ケ. [保存]、[印刷]、[送信]、などのファイル全体の操作が一括でできること。</p>
		<p>●ワープロソフトウェア</p> <p>ア. Justsystem 一太郎13以降で作成された現行資産を正常に扱うことができること。</p> <p>イ. 公文書の作成を支援する辞書を標準搭載していること。</p> <p>ウ. 公用文に特化した文書校正機能を有すること。</p> <p>エ. 文書中の個人情報や特定固有名詞などを自動抽出し、一つ一つをチェックしながら伏せ字に置き換える機能を有すること。</p> <p>オ. 文書にすかし文字をいれて保存する機能を有すること。</p> <p>カ. 文書の閲覧・編集を制限して保存する機能を有すること。</p> <p>キ. さまざまなファイル形式での文書保存が可能であること。</p> <p>ク. 公務に便利な機能を厳選、追加した専用メニュー機能を有すること。</p> <p>ケ. 行政機関での利用シーンを想定したヘルプ機能を有すること。</p>
		<p>●Webブラウザソフトウェア</p> <p>ア. W3C HTML5に準拠したコンテンツの処理が行えること。</p> <p>イ. ECMAScript5に準拠したコンテンツの処理が行えること。</p> <p>ウ. メニューが日本語で表示できること。</p>
		<p>●PDFファイル編集ソフトウェア</p> <p>ア. OA ソフトウェアから、PDF 文書をドラッグ&ドロップやワンクリックで作成できること。</p> <p>イ. 印刷可能な、どのアプリケーションからでも、印刷メニューで選択するだけで PDF文書を作成できること。</p> <p>ウ. PDF ファイルの表示、編集、注釈の付加、電子署名または印刷を許可するかどうかを制御できること。</p> <p>エ. PDF 文書にパスワードを割り当て、第三者が機密性の高い文書を開いたり表示することを防ぐことができること。</p> <p>オ. メニューが日本語であること。</p> <p>カ. 作成されたPDFファイルは、無償で配布されている閲覧用ソフトウェアを使用して閲覧や印刷が可能であること。</p> <p>キ. 一度作成したPDF文書から、任意のページを削除したり、新たに追加したり、ページの順番を入れ替えることが可能であること。</p> <p>ク. パスワード、アクセス権を設定でき、機密文書をより安全に保護可能であること。</p> <p>ケ. 電子署名とタイムスタンプを組み合わせた長期保存署名に対応していること。</p> <p>コ. テキストの直接編集が可能であること。</p> <p>サ. PDF作成時に、自動ファイル名生成(連番/日付)が可能であること。また、同名ファイルがある場合に、元ファイルに追加できること。</p>
		<p>●ファイル圧縮ソフトウェア</p> <p>ア. ファイルの圧縮、解凍ができること。</p> <p>イ. ファイルの分割、結合ができること。</p> <p>ウ. 圧縮時には解凍用パスワードを設定できること。</p> <p>エ. メニューが日本語であること。</p> <p>オ. パスワード条件や暗号化方法を事前に指定してインストールできること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<ul style="list-style-type: none"> ●CADデータ閲覧ソフトウェア <ul style="list-style-type: none"> ア. CAD データ交換標準フォーマット(DWG)に対応したCAD ソフトウェアによって作成された図面データを表示・印刷できること。 イ. 全体表示やズーム・画面移動などの操作が CAD データ/画像データともに同じ操作で扱え、データの種類を意識することなく利用できること。 ウ. データ全体、または表示しているデータ範囲の印刷が可能であること(全体/部分印刷)。 エ. メニューが日本語であること。 ●画像処理ソフトウェア <ul style="list-style-type: none"> ア. 定画像データの処理等を目的として、サイズ変更、減色処理、形式変更が可能であること。 イ. 画像形式としては、BMP、JPEG、GIF、PNG が含まれていること。 ●PDFファイル閲覧ソフトウェア <ul style="list-style-type: none"> ア. 無償のPDFファイル閲覧ソフトウェアであること。 ●OCR-K/Bフォント <ul style="list-style-type: none"> ア. JIS X 9001(B)準拠 イ. JIS X 9003(K)準拠 ウ. TrueType フォント エ. 上記に示す要件を満たすフォントの利用者として、約5,000名を想定している(センタ環境(本番用)及びセンタ環境(総合試験用)用で共通)。 ●OCR手書き認識用半角フォント <ul style="list-style-type: none"> ア. JIS X 9005~8 準拠 イ. TrueType フォント ウ. 上記に示す要件を満たすフォントの利用者として、約5,000名を想定している(センタ環境(本番用)及びセンタ環境(総合試験用)用で共通)。 ●OCR手書き認識用全角フォント <ul style="list-style-type: none"> ア. 一般的にいわれる「教科書体」と呼ばれる手書き風の書体 イ. JIS X 0208 における第一水準漢字(16区~47区)、第二水準漢字(48区~84区)の範囲 ウ. JIS X 0208 における英数字、かな(01区~08区)の範囲 エ. TrueType フォント オ. 上記に示す要件を満たすフォントの利用者として、約5,000名を想定している(センタ環境(本番用)及びセンタ環境(総合試験用)用で共通)。 ●プリンタ監視ツール <ul style="list-style-type: none"> ア. 汎用プリンタの監視が可能であること。 ●アンチウイルス <ul style="list-style-type: none"> ア. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。 イ. リアルタイムスキャンにより、スパイウェアを自動的に検知して駆除する機能を有すること。 ウ. Webベースのグラフィカルなレポートと集中管理を1台のコンソールから実行可能であること。 エ. 定期的なディスク操作のほかに、メール受信や補助記憶媒体へのアクセスの都度、ファイルの走査を行う機能を有すること。 オ. 複合的なコンピュータ環境にも対応可能であること。 カ. 更新されたウイルスパターンファイルを端末に配布できること。 キ. メニューが日本語であること。 ●エージェントソフトウェア <ul style="list-style-type: none"> ア. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。 イ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。
6.5	11	<ul style="list-style-type: none"> ■(総合試験用)認証サーバ ●オペレーティングシステム(OS)

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>ア. 32bitまたは64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. ファイアウォール機能を有すること。</p> <p>ウ. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能を備えていること。</p> <p>エ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>オ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408 におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>カ. 冗長化構成が組めること。</p> <p>キ. 仮想化機能を備えていること。</p> <p>●シングルサインオンソフトウェア</p> <p>ア. エージェントインストール型リバースプロキシ方式を採用していること。</p> <p>イ. 認証サーバへのトラフィック集中によるパフォーマンス低下を抑制した仕組みであること。</p> <p>ウ. OSやWebサーバを選ばずにシングルサインオンできること。</p> <p>エ. クライアントでの設定が不要であること。</p> <p>オ. ID/PWよりも強固な認証が可能なこと。また、システムにより認証方式を容易に選択可能なこと。</p> <p>●アンチウイルス</p> <p>ア. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。</p> <p>イ. リアルタイムスキャンにより、スパイウェアを自動的に検知して駆除する機能を有すること。</p> <p>ウ. Webベースのグラフィカルなレポートと集中管理を1台のコンソールから実行可能であること。</p> <p>エ. 定期的なディスク操作のほかに、メール受信や補助記憶媒体へのアクセスの都度、ファイルの走査を行う機能を有すること。</p> <p>オ. 複合的なコンピュータ環境にも対応可能であること。</p> <p>カ. 更新されたウイルスパターンファイルを端末に配布できること。</p> <p>キ. メニューが日本語であること。</p> <p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p>
6.5	12	<p>■(総合試験用)マスタディレクトリサーバ</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. IEEE 1003.1-1996及びIEEE 1003.2-1992に準拠していること。</p> <p>ウ. 扱える物理メモリの最大容量が1,152GBであること。</p> <p>エ. OSレベルでパーティション機能を有すること。</p> <p>オ. RBAC(Role Based Access Control/ロールベースでのアクセス制御管理)機能を有していること。</p> <p>カ. HTTP、FTP、TELNET、DNS、NTP、DHCP、SNMP、LDAP、SMTP、NISのインターネット標準に準拠していること。</p> <p>キ. システムに関連した問題をシステムの停止なしに、リアルタイムで問題解決できること。</p> <p>ク. CPU、メモリ、I/Oシステムの監視及び診断を行い、障害リソースを自動的にオフライン化できる予測的自己修復機能を有すること。</p> <p>ケ. I18nによる国際化、L10Nによる地域化による英語化、日本語化を実装すること。</p> <p>コ. ネットワーク仮名漢字変換システムを実装すること。</p> <p>サ. サーバシステムで採用するOSについては極力統一を図ることとし、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>シ. ソフトウェア構築上のソフトウェア製品等のプラットフォームについて極力統一し、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>ス. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>セ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		ソ. 稼働中のシステムを動作させたまま、ブート環境のコピーを作成したり、コピー環境にパッチを適用したりできる機能を有していること。
		タ. レプリケーション機能、スナップショット、クローン、クォータを有したボリューム管理機能を備えていること。
		●ディレクトリサービスソフトウェア(LDAP)
		ア. 64bit対応していること。
		イ. 12CPU までのリニアなスケーラビリティを備えていること。
		ウ. 4 台構成によるマルチマスターレプリケーションの実装によるサービスの冗長化が可能であること。
		エ. リポジトリの分散配置や他ディレクトリー製品との連携が容易であること。
		オ. ID情報/アプリケーション情報/ネットワークのリソース情報を、一元化したリポジトリとして格納できる機能を有すること。なお、上記のID情報/アプリケーション情報/ネットワークのリソース情報とは、物理情報ではなく、データとして一元的に格納できることを期待したものを指す。
		カ. DoS攻撃からの防御/特定の基準に基づいたアクセス制御/不正なアクセスの排除等の仕組みを有すること。
		キ. フェイルオーバー機能を提供することで、障害時においてもサービスを継続して提供可能 であること。
		ク. ディレクトリ環境を負荷に起因した障害から保護し、読み出しと検索/照会/閲覧に対する水平拡張性を提供できること。
		ケ. ディレクトリ・プロキシ・サービスを有すること。
		コ. DBの分散配置や他ディレクトリ製品との連携が容易であること。
		サ. Webベースの管理インタフェースを有すること。
		シ. データベースのエントリがレプリケーションされた場合に、特定の属性値だけを除外する、というような部分レプリケーションが可能であること。
		ス. マルチマスター機能を有すること。
		セ. 管理ツールより、複数のDirectory Serverインスタスの一元管理が可能なこと。
		ソ. 管理用にWebGUIツールが用意されていること。また、あわせてコマンドラインツールも提供されること。
		タ. 属性値の暗号化が可能なこと。
		チ. 現存するLDAPデータベースを全て次期環境に移管できること。
		●ディレクトリサービス連携ソフトウェア
		ア. マスタディレクトリサーバ上のディレクトリサービスソフトウェア(LDAP)で追加/変更されたユーザ情報・グループ情報は、認証サーバがもつディレクトリサービス機能やRDBMS 等と連携できること。
		イ. 1件対象のリアルタイム連携、全件対象のバッチ連携といったディレクトリ連携が可能であること。
		ウ. バッチ処理はスケジュールによる自動実行が可能であること。
		エ. CSVファイル、LDIFファイルやJDBC、ODBCインタフェースを介してデータベース等とLDAPサーバを直接連携した一括メンテナンスが可能であること。
		オ. 管理者向けメンテナンス画面が用意されていること。
		カ. マスタディレクトリサーバ上のディレクトリサービスソフトウェア(LDAP)のユーザ情報の内パスワード属性など既定の情報に関しては暗号化して保存が可能であること。
		キ. SSL通信をサポートしていること。
		ク. LDAP、CSV、RDBMS の項目など、各ディレクトリサービスやファイル間で異なる項目や属性は、マッピング(紐付け)という形で各々の対応を設定可能であること。
		ケ. ディレクトリサービスへの登録・更新・削除、連携先への反映状況などは、ログとして記録・保管できること。
		コ. 本務、兼務など複数の所属が管理可能なこと。所属ごとに異なる役職が管理可能なこと。
		サ. 組織、利用者、役職、組織と役職の組み合わせなどにより、利用者をグルーピング可能なこと。
		シ. プロジェクト、ワーキンググループ、タスクフォースなどを定義し、メンバーを管理可能なこと。また、利用者がプロジェクトなどで担う役割をあわせて管理可能なこと。
		ス. 組織、利用者、役職、組織と役職の組み合わせなどにより、利用者を特定し、システムの利用権を自動的に付与可能なこと。
		セ. IDの管理、認証にかかわる証跡を取得し、必要に応じて検索が可能なこと。

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>ソ. 任意のタイミング、かつ複数回ユーザーへのメール通知が可能なこと。また、通知のメール文書の内容は運用開始後も容易に変更可能なこと。</p> <p>●アプリケーションサーバ</p> <p>ア. J2EE 1.4 以降の仕様をサポートしていること。</p> <p>イ. JDK1.4.2_10 以降、JDK1.5.0_04 以降上で動作すること。</p> <p>ウ. 静的コンテンツだけでなく、動的コンテンツをキャッシュする機能及び各サーバ間の通信でもロード・バランシングが設定可能であること。</p> <p>エ. データベースサーバに対してJDBC 等を用いたコネクションプール機能を有していること。</p> <p>オ. IPv6をサポートしていること。</p> <p>カ. 業務を停止せずにアプリケーションの追加・削除・修正が行えること。</p> <p>キ. データベースサーバに対する負荷分散と障害時のフェイルオーバー機能を有していること。</p> <p>ク. 障害時の自動的な情報収集の機能を有していること。</p> <p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。</p>
6.5	13	<p>■(総合試験用)運用管理サーバ兼、ネットワーク管理サーバ</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. IEEE 1003.1-1996及びIEEE 1003.2-1992に準拠していること。</p> <p>ウ. 扱える物理メモリの最大容量が1,152GBであること。</p> <p>エ. OSレベルでパーティション機能を有すること。</p> <p>オ. RBAC(Role Based Access Control/ロールベースでのアクセス制御管理)機能を有していること。</p> <p>カ. HTTP、FTP、TELNET、DNS、NTP、DHCP、SNMP、LDAP、SMTP、NISのインターネット標準に準拠していること。</p> <p>キ. システムに関連した問題をシステムの停止なしに、リアルタイムで問題解決できること。</p> <p>ク. CPU、メモリ、I/Oシステムの監視及び診断を行い、障害リソースを自動的にオフライン化できる予測的自己修復機能を有すること。</p> <p>ケ. I18nによる国際化、L10Nによる地域化による英語化、日本語化を実装すること。</p> <p>コ. ネットワーク仮名漢字変換システムを実装すること。</p> <p>サ. サーバシステムで採用するOSについては極力統一を図ることとし、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>シ. ソフトウェア構築上のソフトウェア製品等のプラットフォームについて極力統一し、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>ス. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>セ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>ソ. 稼働中のシステムを動作させたまま、ブート環境のコピーを作成したり、コピー環境にパッチを適用したりできる機能を有していること。</p> <p>タ. レプリケーション機能、スナップショット、クローン、クォータを有したボリューム管理機能を備えていること。</p> <p>●クラスタソフトウェア</p> <p>ア. 3ノード以上のクラスタ構成をサポートできること。</p> <p>イ. 稼働待機構成以外に、複数の稼働系に対して1台に待機系(N:1)、あるいはすべて稼働系(N:N)といった柔軟なクラスタ構成が可能であること。</p> <p>ウ. アプリケーション単位に柔軟に最適なサーバに処理を引き継ぐことが可能であること。</p> <p>エ. 複数サービスを連動したサービス切り替えが可能であること。たとえば、Web サーバは DB サーバが必要であるとサービス間で依存関係を定義した場合、Web アプリケーションサーバが DB サーバの起動を待ってから起動し、DB サーバで障害を検出した場合には Web アプリケーションサーバも切り替えるといった運用が可能である等。</p> <p>オ. RDBMSに対応したエージェント(起動・停止・系切り替え等の処理を行う)を有すること。</p> <p>カ. Quorumサーバとして構成したサーバを、共有ディスクの代わりにQuorumデバイスとして構成できること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		キ. 全クラスターノードに対して、一度に同じコマンドを実行するためのユーティリティを備えていること。
		●ボリューム管理ソフトウェア
		ア. ノード間での排他制御機能を有すること。
		イ. パスのマネージメント機能を有すること。
		ウ. ストレージ筐体をまたいだRAIDが構成できること。
		エ. ファイルシステムと連携した書き込みが可能であること。
		オ. ファイルシステムのオンラインデフラグが可能であること。
		カ. ファイルシステムの拡張・縮小が可能であること。
		キ. 現存するバッチプログラムを継続利用できること。
		●RDBMS
		ア. ディレクトリサービス連携ソフトウェアが指定、推奨するRDBMSとする。
		イ. ITILサポートツールが指定、推奨するRDBMSとする。
		●RDBMS
		ア. SQL 92 以降に準拠していること。
		イ. Transact-SQL が利用可能であること。
		ウ. 非同期通信によるイメージデータ転送を行うことができること。
		エ. SSL等の暗号化通信をサポートしていること。
		オ. IPv6に対応していること。
		カ. RDBMS との接続及び同期が可能であること。同期元と同期先とで、整合性が保障されること。
		キ. 同期時には、データの消失が発生しない仕組みを有すること。
		ク. ページサイズを2KB、4KB、8KB、16KB から選択できること。
		ケ. クライアントアプリケーションからデータベースアクセス用のAPI としてODBC、OLEDB、JDBC 等が利用できること。
		コ. 1,000 台以上での転送実績を有すること。
		●バックアップソフトウェア(サーバ)
		ア. バックアップとリカバリ環境全体の集中管理が可能であること。
		イ. バックアップの自動スケジュール実行が可能であること。
		ウ. 日次のバックアップが毎回確実に取得できているかの確認が可能であること。
		エ. リアルタイム監視が可能であること。
		オ. 履歴レポートを作成できること。
		カ. アラート管理が可能であること。
		キ. トラブルシューティング等が利用できること。
		ク. バックアップ対象の規模に合わせて、容易に対応可能であること。
		ケ. 地理的な場所に関係なくすべてのバックアップとリカバリの操作が1つのコンソール上から実行可能であること。
		コ. 複数のプラットフォーム、データベース、アプリケーション、デバイス、アーキテクチャなどが混在する環境についても対応可能であること。
		サ. バックアップにディスクとテープの両方を使用できること。
		シ. テープの外地保管を支援する機能を有すること。
		ス. クライアント重複排除、サーバ重複排除、ストレージ重複排除に対応可能であること。
		セ. 重複排除バックアップしたデータを、遠隔地のバックアップサーバにレプリケーションが可能であること。
		ソ. 現存するバッチプログラムを継続利用できること。
		●ITILサポートツール

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>ア. 問い合わせ受付・管理機能として以下を有すること。 (ア) 受付手段として、電話・FAX・メール・WWW 画面を有すること。 (イ) 電話については着信課金方式とし、受託者が料金を負担すること。 (ウ) 受付操作を行うための端末及びソフトウェアを用意すること。 (エ) 受付内容を一元的に管理するデータベース機能を有すること。 (オ) 受付内容の進捗状況について管理するための機能を有すること。 (カ) 2 次サポート窓口へ展開した場合も、進捗状況を管理可能とすること。 (キ) 呼応率を管理するための機能を有すること。 (ク) レポート機能を有すること。</p>
		<p>イ. 問い合わせ履歴分析機能として以下を有すること。 (ア) 問い合わせ内容を多角的に分析・統計を行い、保守計画立案やシステムの機能改善提案を行うためのデータベース機能を有すること。 (イ) レポート機能を有すること。</p>
		<p>ウ. インシデント管理機能として以下を有すること。 (ア) インシデントの内容を一元的に管理するデータベース機能を有すること。 (イ) インシデント解消の進捗状況について管理するための機能を有すること。 (ウ) レポート機能を有すること。</p>
		<p>エ. 問題管理機能として以下を有すること。 (ア) 問題の内容を一元的に管理するデータベース機能を有すること。 (イ) 問題解決の進捗状況について管理するための機能を有すること。 (ウ) レポート機能を有すること。</p>
		<p>オ. 変更管理機能として以下を有すること。 (ア) 変更の内容を一元的に管理するデータベース機能を有すること。 (イ) 変更作業の進捗状況について管理するための機能を有すること。 (ウ) レポート機能を有すること。</p>
		<p>カ. 同時接続端末数は10 台可能であること。</p>
		<p>キ. 構成管理を一元的に行うデータベース機能を有すること。</p>
		<p>ク. サービスレベル管理を一元的に行うデータベース機能を有すること。</p>
		<p>●ジョブスケジュール制御</p>
		<p>ア. GUI を使用して、ジョブの定義が行えること。なお、GUI を利用する際に、走査するユーザの権限を管理する機能を提供すること。</p>
		<p>イ. OS 混在環境でも制御が可能であること。</p>
		<p>ウ. カレンダーに基づいてジョブ群を年次、月次、週次、日次等計画スケジュールできること。</p>
		<p>エ. ジョブの実行タイミングとして、①即時に実行②計画的に実行③ファイル着信等のイベントに応じて実行が設定できること。また、異常終了時を考慮し、ジョブの再実行も行えること。</p>
		<p>オ. 一連のジョブ群(ジョブネット)の先行・後行が定義できること。また、一連のジョブ群を3 階層以上の階層で定義・実行できること。</p>
		<p>カ. 異常時の対応も含めた、ジョブの定義が行えること。</p>
		<p>キ. ジョブの保留・解除が行えること。</p>
		<p>ク. システムの時刻を日本標準時と同期し、システム全体へ即時反映する機能を有すること。</p>
		<p>ケ. ジョブ実行対象となるサーバにエージェントを用意すること。</p>
		<p>コ. ジョブネット数を必要最低限の数で構成できること。</p>
		<p>サ. 複数のイベントを待っている状態で、いずれかのイベントが1つ終了した時点で次のジョブに進むことができること。</p>
		<p>シ. ジョブネットの実行に際しては、先行ジョブのリターンコードに応じてその後の実行すべきジョブネットが自動的に選択されること。振り分けは10種類以上可能であること。</p>
		<p>ス. 業務の管理単位であるルートジョブネットの実行順序を制御することができ、異なる部門で管理する別ルートジョブネットとの実行順序関係も容易に定義できること。</p>
		<p>セ. 基準となるジョブの先行・後続のアイコンを強調表示でき、異常時の影響範囲や、関連性の認識がしやすいこと。</p>
		<p>ソ. ジョブ実行状況及び結果は色によりビジュアルに監視できること。最低限、実行待ち、正常終了、警告終了及び異常終了は色で判別できること。</p>
		<p>タ. 全体で10,000件/日異常のジョブが実行できること。</p>
		<p>チ. 操作コンソールは操作者によって任意の機能のみ表示する機能を有すること。</p>
		<p>ツ. 現存するジョブネットを全て次期環境に移管できること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>●ネットワーク監視</p> <p>ア. 障害検知、通知にSNMP プロトコルを使用していること。</p> <p>イ. SNMP エージェントからMIB 値を収集し、リアルタイムな監視を可能とすること。</p> <p>ウ. しきい値の設定が行え、値を超える場合にはメール等による通知ができること。</p> <p>エ. RDBMS やアプリケーションサーバパッケージなどの重要なプロセスの稼働・停止を監視できること。</p> <p>オ. ネットワーク上のIP ノードを自動的に検出し、監視画面に表示すること。</p> <p>カ. 監視画面について、XGA 以上の解像度で、65型以上の大型ディスプレイに表示すること。</p> <p>キ. 状態の変化がビジュアルで分かる機能を有すること。なお、同時に自動的にメールによる通知等のアクションを行えること。</p> <p>ク. IPv4、IPv6が混在したネットワークを管理できること。</p> <p>ケ. 監視対象外とする設定も可能であること。</p> <p>コ. 外部システムを除くネットワーク上の全ての装置について、画面状態を監視するための機能を提供すること。ただし、画面を保持しないものは除く。</p> <p>サ. 監視対象となるサーバにエージェントを用意すること。</p> <p>シ. ネットワーク管理マップでは、ユーザ独自でグループ化でき、ロケーションを意識した階層化したシンボルで表示でき、障害は表示したシンボルの色で判別できること。</p> <p>ス. 各IPノードとの通信を定期的を確認でき、異常時には通報する仕組みを有すること。</p> <p>セ. ネットワークの障害を検知したとき、事前に設定された特定の動作(プログラム)を実行させることができ、ネットワークの障害に素早く対応することができること。</p> <p>ソ. ネットワーク管理ツールのDBバックアップを、ツールの停止なく実現できること。</p> <p>タ. ノードの状態監視、サーバのリソースしきい値監視、プロセス監視がネットワーク管理マップ上で表現され、同じ操作イメージで監視ができること。</p> <p>チ. フェールオーバーに対応できること。</p> <p>ツ. ファイアウォールをはさんだネットワークや、NAT環境下のネットワークも監視できること。</p> <p>テ. 監視ノード異常時に繰り返し発生するメッセージを圧縮する相関処理機能を有すること。また、監視対象が障害から回復に遷移した場合、自動で受諾する機能を有すること。</p> <p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>ウ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p>
6.5	14	<p>■(総合試験用)問い合わせ受付管理サーバ</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. IEEE 1003.1-1996及びIEEE 1003.2-1992に準拠していること。</p> <p>ウ. 扱える物理メモリの最大容量が1,152GBであること。</p> <p>エ. OSレベルでパーティション機能を有すること。</p> <p>オ. RBAC(Role Based Access Control/ロールベースでのアクセス制御管理)機能を有していること。</p> <p>カ. HTTP、FTP、TELNET、DNS、NTP、DHCP、SNMP、LDAP、SMTP、NISのインターネット標準に準拠していること。</p> <p>キ. システムに関連した問題をシステムの停止なしに、リアルタイムで問題解決できること。</p> <p>ク. CPU、メモリ、I/Oシステムの監視及び診断を行い、障害リソースを自動的にオフライン化できる予測的自己修復機能を有すること。</p> <p>ケ. I18nによる国際化、L10Nによる地域化による英語化、日本語化を実装すること。</p> <p>コ. ネットワーク仮名漢字変換システムを実装すること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>サ. サーバシステムで採用するOSについては極力統一を図ることとし、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>シ. ソフトウェア構築上のソフトウェア製品等のプラットフォームについて極力統一し、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>ス. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>セ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>ソ. 稼働中のシステムを動作させたまま、ブート環境のコピーを作成したり、コピー環境にパッチを適用したりできる機能を有していること。</p> <p>タ. レプリケーション機能、スナップショット、クローン、クォータを有したボリューム管理機能を備えていること。</p>
		<p>●RDBMS</p> <p>ア. デイレクトリサービス連携ソフトウェアが指定、推奨するRDBMSとする。</p> <p>イ. ITILサポートツールが指定、推奨するRDBMSとする。</p>
		<p>●ITILサポートツール</p> <p>ア. 問い合わせ受付・管理機能として以下を有すること。 (ア) 受付手段として、電話・FAX・メール・WWW 画面を有すること。 (イ) 電話については着信課金方式とし、受託者が料金を負担すること。 (ウ) 受付操作を行うための端末及びソフトウェアを用意すること。 (エ) 受付内容を一元的に管理するデータベース機能を有すること。 (オ) 受付内容の進捗状況について管理するための機能を有すること。 (カ) 2 次サポート窓口へ展開した場合も、進捗状況を管理可能とすること。 (キ) 呼応率を管理するための機能を有すること。 (ク) レポート機能を有すること。</p> <p>イ. 問い合わせ履歴分析機能として以下を有すること。 (ア) 問い合わせ内容を多角的に分析・統計を行い、保守計画立案やシステムの機能改善提案を行うためのデータベース機能を有すること。 (イ) レポート機能を有すること。</p> <p>ウ. インシデント管理機能として以下を有すること。 (ア) インシデントの内容を一元的に管理するデータベース機能を有すること。 (イ) インシデント解消の進捗状況について管理するための機能を有すること。 (ウ) レポート機能を有すること。</p> <p>エ. 問題管理機能として以下を有すること。 (ア) 問題の内容を一元的に管理するデータベース機能を有すること。 (イ) 問題解決の進捗状況について管理するための機能を有すること。 (ウ) レポート機能を有すること。</p> <p>オ. 変更管理機能として以下を有すること。 (ア) 変更の内容を一元的に管理するデータベース機能を有すること。 (イ) 変更作業の進捗状況について管理するための機能を有すること。 (ウ) レポート機能を有すること。</p> <p>カ. 同時接続端末数は10 台可能であること。</p> <p>キ. 構成管理を一元的に行うデータベース機能を有すること。</p> <p>ク. サービスレベル管理を一元的に行うデータベース機能を有すること。</p>
		<p>●バックアップソフトウェア</p> <p>ア. エージェントを配置しネットワークを経由してマネージャにバックアップデータを転送可能であること。</p> <p>イ. RAWデバイスのバックアップから、個別のファイルがリストアップできること。</p>
		<p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>ウ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p>
6.5	15	<p>■(総合試験用)CTIサーバ</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. CTIパッケージの指定するオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. 32bitまたは64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<ul style="list-style-type: none"> ウ. ファイアウォール機能を有すること。 エ. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能を備えていること。 オ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。 カ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408 におけるEAL4以上の認定を取得していること。 キ. 冗長化構成が組めること。 ク. 仮想化機能を備えていること。 <p>●CTIシステム(コールセンタシステム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ア. オペレータの人数や配置に応じて、外線からの着信に対して、一斉着信、優先着信、順次着信等を設定できること。 イ. 発信者番号通知機能を用いて、発信者情報(電話番号、氏名、局署名、過去の問い合わせ履歴等)をオペレータのディスプレイに表示させること。 ウ. 応答記録を保管できること。なお、保管に当たっては、外部補助記憶媒体への保管も可能であること。 エ. 応答内容をあらかじめ定めた分類で記録できること。 オ. オペレータ管理者から、各オペレータの応答状況をモニターできること。また管理者と問い合わせ者との通話に切替えられること。 カ. オペレータから管理者に対して、応答中に、状況のモニターを要請できること。 キ. 文字メッセージの送信により、管理者からオペレータの応答を支援できること。
6.5	16	<p>■(総合試験用)音声応答サーバ</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <ul style="list-style-type: none"> ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。 イ. ファイアウォール機能を有すること。 ウ. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能を備えていること。 エ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。 オ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408 におけるEAL4以上の認定を取得していること。 カ. 冗長化構成が組めること。 キ. 仮想化機能を備えていること。 <p>●音声自動応答ソフトウェア</p> <ul style="list-style-type: none"> ア. 不特定の人の声をほぼ確実に聞き取る事ができること。 イ. コード表を見ながらのダイヤル操作ではなく、自然な対話形式で、誰でも簡単に目的の情報を取り出せること。 ウ. 同時に4~16人(回線)の方へそれぞれの情報を提供できること。 エ. 1つの項目に対し、複数の読みや表現が設定できること。 オ. 情報を特定できない場合は、ガイダンス音声に従って絞り込みを行うことができること。 カ. パージン機能を有し、ガイダンス途中の発声やダイヤル操作が可能であること。 キ. 従来のテレホンガイドのような、メニューコード(情報番号)によるプッシュ入力操作も可能であること。 ク. 高精度なダイヤルパルス認識機能により、回転ダイヤル式の電話からも利用できること。 ケ. FAXで情報を取り出すことができること。 コ. 1項目に対し最大100種類の情報が登録でき、それぞれに案内期間が設定できること。 サ. 期間により異なる情報も事前に登録できること(スケジュール登録できること)。 シ. 項目ごとや時間帯ごとの利用状況がプリントできること。 ス. 情報の入れ替えや追加・削除を、離れた電話機やFAXから簡単に行うことができること。 セ. 項目ごとのパスワード設定ができ、部外者からの操作や誤って他の情報を更新してしまわない仕組みを有すること。 ソ. 音声やFAXデータは、必要に応じてバックアップ及び復元を行うことができること。 タ. ワープロ等で入力した漢字かな混じりのテキストデータを、自然な音声に変換する機能を備えていること。

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>チ. アナウンサーに依頼することなく、容易に音声メッセージが作成できること。</p> <p>ツ. ワープロ等で作成した内容を、そのままFAXデータとして登録できること。</p> <p>●アンチウイルス</p> <p>ア. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。</p> <p>イ. リアルタイムスキャンにより、スパイウェアを自動的に検知して駆除する機能を有すること。</p> <p>ウ. Webベースのグラフィカルなレポートと集中管理を1台のコンソールから実行可能であること。</p> <p>エ. 定期的なディスク操作のほかに、メール受信や補助記憶媒体へのアクセスの都度、ファイルの走査を行う機能を有すること。</p> <p>オ. 複合的なコンピュータ環境にも対応可能であること。</p> <p>カ. 更新されたウイルスパターンファイルを端末に配布できること。</p> <p>キ. メニューが日本語であること。</p>
6.5	17	<p>■(総合試験用)統制サーバ</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. ファイアウォール機能を有すること。</p> <p>ウ. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能を備えていること。</p> <p>エ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>オ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408 におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>カ. 冗長化構成が組めること。</p> <p>キ. 仮想化機能を備えていること。</p> <p>●UPS統合管理</p> <p>ア. UPSの管理機能を有すること。</p> <p>●アンチウイルス</p> <p>ア. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。</p> <p>イ. リアルタイムスキャンにより、スパイウェアを自動的に検知して駆除する機能を有すること。</p> <p>ウ. Webベースのグラフィカルなレポートと集中管理を1台のコンソールから実行可能であること。</p> <p>エ. 定期的なディスク操作のほかに、メール受信や補助記憶媒体へのアクセスの都度、ファイルの走査を行う機能を有すること。</p> <p>オ. 複合的なコンピュータ環境にも対応可能であること。</p> <p>カ. 更新されたウイルスパターンファイルを端末に配布できること。</p> <p>キ. メニューが日本語であること。</p> <p>●プログラム配布</p> <p>ア. 配付プログラムを圧縮する機能を有すること。</p> <p>イ. 配付が失敗した配付先に再配付を行う機能を有すること。</p> <p>ウ. 配付中の処理を中断する機能を有すること。</p> <p>エ. 配付プログラム毎に、配付待ち装置数、配付失敗装置数を表示する機能を有すること。また、各装置の配付待ち、配付済み、及び配付失敗を一覧表示する機能を有すること。</p> <p>オ. インストール前にディスク容量をチェックし、不足している場合は警告を出す機能を有すること。</p> <p>カ. インストールプログラム毎に、インストール待ち装置数、インストール済装置数、インストール失敗装置数を表示する機能を有すること。また、各装置のインストール待ち、インストール済、インストール失敗を一覧表示する機能を有すること。</p> <p>キ. 配付するプログラムについては、配付先を個々に指定できること。</p> <p>ク. 装置故障の復旧時に、速やかにプログラム配付を行う仕組みを有すること。</p> <p>ケ. プログラム配付先対象となるサーバにエージェントを用意すること。</p> <p>コ. 管理対象がWindows、UNIXの混在環境でもシームレスな運用ができること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>サ. 配布形態として、サーバから一方的に配布インストールする方式(PUSH型)と、クライアントユーザが選択してインストールする方式(PULL型)とがあり、配布内容によりそれらを選択できること。</p> <p>シ. 管理側が、クライアントのIPアドレス及びホスト名の変更を意識することなく管理ができること。</p> <p>ス. 即時/スケジュール配布、インストールができること。</p> <p>セ. クライアントPCが一般権限のユーザIDでログインしていた場合でも、配布・インストールができること。</p> <p>ソ. インストール直前、直後及びエラー時に任意のプログラム起動ができること。</p> <p>タ. システム条件(ハード条件)、ソフトウェア条件によって、それにマッチしないクライアントに対してはインストールを行わないことができること。</p> <p>チ. 配布資源のダウンロード中、インストール中及びインストールエラー時のダイアログをクライアント画面に表示及び抑止ができること。</p> <p>ツ. 通信方法として、ユニキャスト及びマルチキャストのどちらの環境でも運用が可能であること。また、ネットワーク負荷を考慮し分割配布が可能であること。</p> <p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>ウ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p>
6.5	18	<p>■(総合試験用)検査サーバ</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. ファイアウォール機能を有すること。</p> <p>ウ. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能を備えていること。</p> <p>エ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>オ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>カ. 冗長化構成が組めること。</p> <p>キ. 仮想化機能を備えていること。</p> <p>●RDBMS</p> <p>ア. 端末検査ソフトウェアが指定、推奨するRDBMSとする。</p> <p>●端末検査ソフトウェア</p> <p>ア. 端末に対して、ネットワーク接続時にセキュリティチェックを行い、脆弱性のある端末を検疫(隔離)する機能を備えていること。</p> <p>イ. Thin Clientであることを判別し、検疫を通過させること。</p> <p>ウ. 端末構成情報、ウイルス対策状況等を自動的に収集し、データベースに登録できること。</p> <p>エ. 構成情報の収集方法として、Webブラウザによる収集、構成管理エージェントによる自動収集、コマンドによるネットワーク非接続端末からの構成情報収集に対応していること。</p> <p>オ. 各端末から収集された構成情報を集計する機能を備えていること。</p> <p>カ. ソフトウェアライセンス管理向けのワークフロー機能を備えていること。</p> <p>キ. ハードウェア属性情報を管理、集計する機能を備えていること。</p> <p>ク. 自動収集したマシン情報と資産情報を連携管理する機能を備えていること。</p> <p>ケ. 構成情報を登録したマシンの配置場所をブラウザから容易に管理可能な機能を備えていること。</p> <p>コ. OSのセキュリティパッチを配布することができること。</p> <p>サ. 個々の端末単位でウイルス対策ソフトの設定状態をチェックし、ウイルス定義ファイルの自動更新や、リアルタイム保護機能の自動有効化を行うことができること。</p> <p>●アプリケーションサーバ</p> <p>ア. 蓄積されたHTML文書や画像等のファイルを、Webブラウザ等の端末ソフトウェアからの要求に応じてHTTP1.1対応の手順で送信可能であること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>イ. HTTPS接続に対応可能であること。</p> <p>ウ. 仮想ホスト、ソフトウェアロードバランシング機能を有すること。</p> <p>エ. コンテンツへのアクセス記録、エラー記録等の記録をcombined形式、common形式等の標準的な書式で保管可能であること。</p> <p>オ. アクセスもとのマシン名とともに、アクセスしたコンテンツの内容を記録・保管可能であること。</p> <p>カ. 保管に当たっては、外部補助記録媒体への保管が可能であること。</p> <p>キ. ディレクトリ単位でのアクセス制限を定義可能であること。</p> <p>●アンチウイルス</p> <p>ア. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。</p> <p>イ. リアルタイムスキャンにより、スパイウェアを自動的に検知して駆除する機能を有すること。</p> <p>ウ. Webベースのグラフィカルなレポートと集中管理を1台のコンソールから実行可能であること。</p> <p>エ. 定期的なディスク操作のほか、メール受信や補助記憶媒体へのアクセスの都度、ファイルの走査を行う機能を有すること。</p> <p>オ. 複合的なコンピュータ環境にも対応可能であること。</p> <p>カ. 更新されたウイルスパターンファイルを端末に配布できること。</p> <p>キ. メニューが日本語であること。</p> <p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。</p> <p>イ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p>
6.5	19	<p>■(総合試験用)外部システム連携サーバ</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. IEEE 1003.1-1996及びIEEE 1003.2-1992に準拠していること。</p> <p>ウ. 扱える物理メモリの最大容量が1,152GBであること。</p> <p>エ. OSレベルでパーティション機能を有すること。</p> <p>オ. RBAC(Role Based Access Control/ロールベースでのアクセス制御管理)機能を有していること。</p> <p>カ. HTTP、FTP、TELNET、DNS、NTP、DHCP、SNMP、LDAP、SMTP、NISのインターネット標準に準拠していること。</p> <p>キ. システムに関連した問題をシステムの停止なしに、リアルタイムで問題解決できること。</p> <p>ク. CPU、メモリ、I/Oシステムの監視及び診断を行い、障害リソースを自動的にオフライン化できる予測的自己修復機能を有すること。</p> <p>ケ. I18nによる国際化、L10Nによる地域化による英語化、日本語化を実装すること。</p> <p>コ. ネットワーク仮名漢字変換システムを実装すること。</p> <p>サ. サーバシステムで採用するOSについては極力統一を図ることとし、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>シ. ソフトウェア構築上のソフトウェア製品等のプラットフォームについて極力統一し、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>ス. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>セ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>ソ. 稼働中のシステムを動作させたまま、ブート環境のコピーを作成したり、コピー環境にパッチを適用したりできる機能を有していること。</p> <p>タ. レプリケーション機能、スナップショット、クローン、クォータを有したボリューム管理機能を備えていること。</p> <p>●システム連携アプリケーション</p> <p>ア. 複数の異なるベンダの非同期メッセージングシステムとのデータ授受をサポートしていること。</p> <p>イ. 複数の異なるベンダのRDBMSとのデータ授受をサポートしていること。</p> <p>ウ. ファイルシステムとのデータ授受をサポートしていること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		エ. FTP、SNTP、POP、SOAP、MQをサポートしていること。
		オ. RDBMS のレプリケーショントランザクションを受信可能であること。
		カ. ビジネスプロセスの動作をモニタリング可能であること。
		キ. OASIS 策定のBPEL に準拠していること。
		●RDBMS
		ア. SQL 92 以降に準拠していること。
		イ. 64bit対応していること。
		ウ. 1つのデータベースサーバ(インスタンス)あたり100 以上のデータベースを稼働させられること。
		エ. 1データベースあたり20TB 以上で作成できること。
		オ. 物理デバイスが10,000 以上作成できること。物理デバイスとしてローデバイスを指定できること。また、ファイルシステム上に物理デバイスを配置して利用する場合、ハードディスクへの書き込みを保証できること。
		カ. 1物理デバイスが2TB 以上で作成できること。
		キ. ページサイズを2KB、4KB、8KB、16KB から選択できること。
		ク. 1テーブルあたり1,000 を超えるカラムを保持できること。
		ケ. ロック機構として、行単位、ページ単位、テーブル単位、全ページと指定できること。
		コ. データベースサーバ内のログインユーザ単位で複数テンポラリ領域を確保できること。テンポラリ領域を使い果たした場合でも、他の処理には影響を与えないこと。
		サ. データベースサーバにて格納データに対する暗号化をサポートしていること。なお、暗号化の対象をデータベース単位、カラム単位で行えること。
		シ. SSL等の暗号化通信をサポートしていること。
		ス. データベースへの更新を契機としてデータベースサーバ外の任意のプログラムにアクセスできること。また、メッセージキューイングシステムに対してメッセージを送受信できること。
		セ. データベースサーバへのアクセス権限管理にはロールベースのものを利用できること。
		ソ. ネイティブXML格納及びXML検索とクエリをサポートしていること。 (ア)XMLをそのままの形でデータベースに格納できる。 (イ)XMLを格納時に検証し、データベースには検証済みのXMLドキュメントとして格納できる。 (ウ)XMLファイルと通常のRDBデータを一つのデータベースに格納できる。 (エ)DTD または XMLスキーマの定義に照らしてXMLを検証することができる。 (オ)通常のRDBの検索結果をXML形式で出力する機能を有する。 (カ)検索式によって、格納されたXML形式のデータに対してXMLの構造のどの部分に対してもアクセスできる。
		タ. 現行基準システムで利用しているSybase Adaptive Server Enterpriseのストアド・プロシージャが問題なく利用可能であること。
		チ. 1ファイル2GB までのテキストやイメージを格納できること。
		ツ. データベースサーバの設定を再起動せずに動的に変更可能であること。
		テ. スケジュールによりデータベースサーバの設定を変更したり、バックアップなどの処理を自動化できる仕組みを有すること。
		ト. クラスタソフトウェアと連動し、起動・停止を自動化できること。また、障害発生時には自動的に系切り替えができること。
		ナ. パーティション機能を有すること。パーティションの種類を複数選択できること。
		ニ. Transact-SQL が利用可能であること。
		ヌ. クライアントアプリケーションからデータベースアクセス用のAPI が利用できること。
		ネ. SQL 文のトレース等の監査ができること。ただし、RDBMS への負荷を小さくすること。
		●クラスタソフトウェア
		ア. 3ノード以上のクラスタ構成をサポートできること。
		イ. 稼働待機構以外に、複数の稼働系に対して1台に待機系(N:1)、あるいはすべて稼働系(N:N)といった柔軟なクラスタ構成が可能であること。
		ウ. アプリケーション単位に柔軟に最適なサーバに処理を引き継ぐことが可能であること。

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>エ. 複数サービスを連動したサービス切り替えが可能であること。たとえば、Web サーバは DB サーバが必要であるとサービス間で依存関係を定義した場合、Web アプリケーションサーバが DB サーバの起動を待ってから起動し、DB サーバで障害を検出した場合には Web アプリケーションサーバも切り替えるといった運用が可能である等。</p> <p>オ. RDBMSに対応したエージェント(起動・停止・系切り替え等の処理を行う)を有すること。</p> <p>カ. Quorumサーバとして構成したサーバを、共有ディスクの代わりにQuorumデバイスとして構成できること。</p> <p>キ. 全クラスターノードに対して、一度に同じコマンドを実行するためのユーティリティを備えていること。</p> <p>●ボリューム管理ソフトウェア</p> <p>ア. ノード間での排他制御機能を有すること。</p> <p>イ. パスのマネージメント機能を有すること。</p> <p>ウ. ストレージ筐体をまたいだRAIDが構成できること。</p> <p>エ. ファイルシステムと連携した書き込みが可能であること。</p> <p>オ. ファイルシステムのオンラインデフラグが可能であること。</p> <p>カ. ファイルシステムの拡張・縮小が可能であること。</p> <p>キ. 現存するバッチプログラムを継続利用できること。</p> <p>●アンチウイルス</p> <p>ア. アプリケーションサーバ上の業務アプリケーションから、任意のタイミングにて指定するファイルに対してウイルスの検知を行い、駆除する機能を有すること。</p> <p>イ. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。</p> <p>ウ. 1つのライセンスで複数のOS(Windows、UNIX)に対応できること。</p> <p>エ. 複数のOS(Windows、UNIX)を一元的に管理できるコンソールを有すること。</p> <p>オ. 1つのライセンスでデータ流出を防ぐデバイス制御機能を有すること。</p> <p>●エージェントソフトウェア</p> <p>ア. ジョブスケジューリング制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。</p>
6.5	20	<p>■(総合試験用)プロキシサーバ兼、メールG/Wサーバ</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. IEEE 1003.1-1996及びIEEE 1003.2-1992に準拠していること。</p> <p>ウ. 扱える物理メモリの最大容量が1,152GBであること。</p> <p>エ. OSレベルでパーティション機能を有すること。</p> <p>オ. RBAC(Role Based Access Control/ロールベースでのアクセス制御管理)機能を有していること。</p> <p>カ. HTTP、FTP、TELNET、DNS、NTP、DHCP、SNMP、LDAP、SMTP、NISのインターネット標準に準拠していること。</p> <p>キ. システムに関連した問題をシステムの停止なしに、リアルタイムで問題解決できること。</p> <p>ク. CPU、メモリ、I/Oシステムの監視及び診断を行い、障害リソースを自動的にオフライン化できる予測的自己修復機能を有すること。</p> <p>ケ. I18nによる国際化、L10Nによる地域化による英語化、日本語化を実装すること。</p> <p>コ. ネットワーク仮名漢字変換システムを実装すること。</p> <p>サ. サーバシステムで採用するOSについては極力統一を図ることとし、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>シ. ソフトウェア構築上のソフトウェア製品等のプラットフォームについて極力統一し、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>ス. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>セ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>ソ. 稼働中のシステムを動作させたまま、ブート環境のコピーを作成したり、コピー環境にパッチを適用したりできる機能を有していること。</p> <p>タ. レプリケーション機能、スナップショット、クローン、クォータを有したボリューム管理機能を備えていること。</p> <p>●アンチウイルス</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		ア. メールを媒介とした攻撃をフィルタリングプロセスの前段階でブロックするメールファイアウォール機能があること。
		イ. 最新情報に基づいたスパムフィルタリングを行うアンチスパム機能があること。
		ウ. SMTPトラフィックに対して、頻繁に改変され多種発生する不正コードの受信を予防できること。
		エ. 監視時間、比率、総メール数により、スパイ型(ターゲティングアタック)のスパムメールの送信元IPアドレスを特定し、それらのメールをブロック可能であること。
		オ. 監視時間、比率、総メール数により、スパイ型(ターゲティングアタック)のウイルスメールの送信元IPアドレスを特定し、それらのメールをブロック可能であること。
		カ. DNSBL機能においてメールサーバの設定が不要なブラックリストをレピュテーションサービスのサーバ側で設定し、メールサーバの再起動なしに運用に反映できること。
		キ. DNSBL機能においてメールサーバの設定が不要なホワイトリストをレピュテーションサービスのサーバ側で設定し、メールサーバの再起動なしに運用に反映できること。
		●メールリレーサーバ
		ア. 送受信される1通あたりの電子メールのサイズ制限を設定できること。
		イ. 電子メールへのファイル添付ができること。
		ウ. メールボックス単位で容量制限が行えること。
		エ. 受信した電子メールに対して迷惑メールを自動的に判別できること。
		オ. 自分宛の電子メールを許可された指定の電子メールアドレス宛へ再送信する転送機能を有すること。
		カ. SMTP(Simple Mail Transfer Protocol)、POP3(Post Office Protocol3)、IMAP4(Internet Mail Access Protocol4)、HTTP、HTTPS、HTML、MIME、SMTP Authentication、LDAPに対応していること。
		キ. ユーザに割り当てたメールボックスサイズに対して、指定の量(%)を超えた場合に指定した期間より前のメールを削除する。
		ク. ポリシー強制ルールの適用対象はユーザ単位、グループ単位で設定可能であること。
		ケ. 適用対象を限定して不適切な通信を防止するルールを作成することができること。
		コ. クラスタによる冗長化構成がとれること。
		サ. アカウント管理用にWebGUIツールが用意されていること。また、あわせてコマンドラインツールも提供されること。
		シ. 利用可能なサービス(POP、IMAP等)の制限をユーザ単位でかけられること。またユーザ単位での制限はIPベースでの制限も設定できること。
		ス. サーバ側で定義したポリシーにより、不要なメールを自動的に削除できること。
		セ. マルチドメインがサポートされていること。
		ソ. 容量制限実施時、メールボックスの使用量が一定の閾値を超えた場合ユーザに通知できること。
		タ. Quota Overしたユーザ宛のメールをキューに保持できること。また、Quota Overしたメールのキューへの保持期間を指定できること。
		●プロキシサーバ
		ア. すべてのサポート対象プラットフォームでExtended HTTPS及びSSLを扱うことができること。
		イ. NSAPI フィルタをサポートしていること。
		ウ. ファイアウォール越しのユーザアクセスの制御を集約的に行うことができること。
		エ. 最新の HTTPコアベースのプッシュテクノロジーを採用していること。
		オ. サーバの再起動を行うことなく動的再構成が可能であること。
		カ. コンテンツURLリトライングをサポートしていること。
		キ. 頻繁にアクセスされるコンテンツをプロキシが自動的に蓄積しクライアントのリクエストに対しキャッシュから素早く配信する機能を備えていること。
		ク. アクセスの多い時間帯にはキャッシュを最新のデータに更新しておくなどスケジュールに基づいたキャッシュのアップデートが可能であること。
		ケ. 複数の拠点をネットワークの構成に応じて配置する階層型キャッシング、同一拠点の複数のコンピュータをアレイ構成する分散キャッシングなど、様々な方法に対し拡張可能であること。

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>コ. CARP(キャッシュレイレーティングプロトコル)をサポートし、クライアントからのリクエストを複数のプロキシに振り分けることが可能であること。</p> <p>サ. ICPをサポートし、文書が利用可能であるかどうかを隣接したキャッシュに問い合わせる動的クエリを生成できること。</p> <p>シ. 外部ネットワークとのゲートウェイとしてトラフィックを集中制御し、すべてのトランザクションをログに記録できること。</p> <p>ス. 詳細なアクセス制御機能によって、文書やサイトへのアクセスを、個々のユーザ、グループ、IP アドレス、ホスト名、などを基に制限できること。</p> <p>セ. 条件の指定にはワイルドカード文字も使用でき、望ましくないURLやHTMLタグなどのコンテンツ、ActiveXなどのコンテンツタイプなどにフィルタをかけられること。</p> <p>ソ. ユーザ認証に関して、マスタディレクトリサーバ上のディレクトリサービスソフトウェア(LDAP)と連携できること。</p> <p>タ. クラスタ管理機能を持ち、管理者は複数のプロキシを管理、設定できること。</p> <p>チ. SNMPバージョンのサポートにより、標準に準拠したリモート監視と管理が可能であること。</p> <p>ツ. ロールバック機能を持ち、構成変更を行なった後に、以前の安定構成に戻すことが容易であること。</p> <p>テ. リバース・プロキシ機能を備えていること。</p> <p>ト. 管理者用ユーザインタフェースを持ち、複数サーバの管理や操作を簡単に行うことができること。</p>
6.5	21	<p>■(総合試験用)ワンタイムパスワード認証サーバ (搭載ソフトウェアはなし)</p>
6.5	22	<p>■(総合試験用)共有ディスク(イメージ格納用)管理サーバ</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。</p> <p>イ. IEEE 1003.1-1996及びIEEE 1003.2-1992に準拠していること。</p> <p>ウ. 扱える物理メモリの最大容量が1,152GBであること。</p> <p>エ. OSレベルでパーティション機能を有すること。</p> <p>オ. RBAC(Role Based Access Control/ロールベースでのアクセス制御管理)機能を有していること。</p> <p>カ. HTTP、FTP、TELNET、DNS、NTP、DHCP、SNMP、LDAP、SMTP、NISのインターネット標準に準拠していること。</p> <p>キ. システムに関連した問題をシステムの停止なしに、リアルタイムで問題解決できること。</p> <p>ク. CPU、メモリ、I/Oシステムの監視及び診断を行い、障害リソースを自動的にオフライン化できる予測的自己修復機能を有すること。</p> <p>ケ. I18nによる国際化、L10Nによる地域化による英語化、日本語化を実装すること。</p> <p>コ. ネットワーク仮名漢字変換システムを実装すること。</p> <p>サ. サーバシステムで採用するOSについては極力統一を図ることとし、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>シ. ソフトウェア構築上のソフトウェア製品等のプラットフォームについて極力統一し、システムメンテナンス性を確保すること。</p> <p>ス. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>セ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>ソ. 稼働中のシステムを動作させたまま、ブート環境のコピーを作成したり、コピー環境にパッチを適用したりできる機能を有していること。</p> <p>タ. レプリケーション機能、スナップショット、クローン、クォータを有したボリューム管理機能を備えていること。</p> <p>●RDBMS</p> <p>ア. SQL 92 以降に準拠していること。</p> <p>イ. 64bit対応していること。</p> <p>ウ. 1つのデータベースサーバ(インスタンス)あたり100 以上のデータベースを稼働させられること。</p> <p>エ. 1データベースあたり20TB 以上で作成できること。</p> <p>オ. 物理デバイスが10,000 以上作成できること。物理デバイスとしてローデバイスを指定できること。また、ファイルシステム上に物理デバイスを配置して利用する場合、ハードディスクへの書き込みを保証できること。</p> <p>カ. 1物理デバイスが2TB 以上で作成できること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>キ. ページサイズを2KB、4KB、8KB、16KB から選択できること。</p> <p>ク. 1テーブルあたり1,000 を超えるカラムを保持できること。</p> <p>ケ. ロック機構として、行単位、ページ単位、テーブル単位、全ページと指定できること。</p> <p>コ. データベースサーバ内のログインユーザ単位で複数テンポラリ領域を確保できること。テンポラリ領域を使い果たした場合でも、他の処理には影響を与えないこと。</p> <p>サ. データベースサーバにて格納データに対する暗号化をサポートしていること。なお、暗号化の対象をデータベース単位、カラム単位で行えること。</p> <p>シ. SSL等の暗号化通信をサポートしていること。</p> <p>ス. データベースへの更新を契機としてデータベースサーバ外の任意のプログラムにアクセスできること。また、メッセージキューイングシステムに対してメッセージを送受信できること。</p> <p>セ. データベースサーバへのアクセス権限管理にはロールベースのものを利用できること。</p> <p>ソ. ネイティブXML格納及びXML検索とクエリをサポートしていること。 (ア)XMLをそのままの形でデータベースに格納できる。 (イ)XMLを格納時に検証し、データベースには検証済みのXMLドキュメントとして格納できる。 (ウ)XMLファイルと通常のRDBデータを一つのデータベースに格納できる。 (エ)DTD または XMLスキーマの定義に照らしてXMLを検証することができる。 (オ)通常のRDBの検索結果をXML形式で出力する機能を有する。 (カ)検索式によって、格納されたXML形式のデータに対してXMLの構造のどの部分に対してもアクセスできる。</p> <p>タ. 現行基準システムで利用しているSybase Adaptive Server Enterpriseのスタアド・プロシージャが問題なく利用可能であること。</p> <p>チ. 1ファイル2GB までのテキストやイメージを格納できること。</p> <p>ツ. データベースサーバの設定を再起動せずに動的に変更可能であること。</p> <p>テ. スケジュールによりデータベースサーバの設定を変更したり、バックアップなどの処理を自動化できる仕組みを有すること。</p> <p>ト. 形態素解析を利用した全文検索が可能であること。</p> <p>ナ. クラスタソフトウェアと連動し、起動・停止を自動化できること。また、障害発生時には自動的に系切り替えができること。</p> <p>ニ. パーティション機能を有すること。パーティションの種類を複数選択できること。</p> <p>ヌ. Transact-SQL が利用可能であること。</p> <p>ネ. クライアントアプリケーションからデータベースアクセス用のAPI が利用できること。</p> <p>ノ. SQL 文のトレース等の監査ができること。ただし、RDBMS への負荷を小さくすること。</p> <p>●レプリケーションソフトウェア</p> <p>ア. レプリケーションはトランザクションログベースタイプのものであり、複写タイミングはデータベースのチェックポイントと連動できること。</p> <p>イ. レプリケーション対象データはデータベース単位、テーブル単位、ロー単位で指定可能であること。</p> <p>ウ. スタアド・プロシージャのレプリケーションを行えること。(スタアド・プロシージャの実行結果の転送ではなく、複写先でスタアド・プロシージャの実行を行えること。)</p> <p>エ. レプリケーションのルートに障害が発生した場合、復旧後自動的に複写が行われること。</p> <p>オ. 万レプリケーションに発生した障害によってデータベース間に不整合が発生した場合、不整合を検知できる仕組みがあること。また、不整合を修復するツールを用意すること。</p> <p>カ. 複数のトランザクションの中の有効な変更差分を取り出し、一括して複写側データベースに適用することで、複写側データベース更新の高速化が図れる機能を有していること。</p> <p>キ. 上記の機能は、複写先としてRDBMS (DWH)と、通常のRDBMSの両方に対応していること。</p> <p>●バックアップソフトウェア</p> <p>ア. RDBMSに対応するデータベース エージェントが用意されていること。</p> <p>イ. SAN上の共有テープストレージに対してエージェントから直接バックアップが可能であること。</p> <p>ウ. バックアップクライアント、バックアップサーバ側でSANのバックアップが可能であること。</p>
6.5	23	<p>■(総合試験用)共有ディスク</p> <p>●ストレージ管理用ソフトウェア</p> <p>ア. SAN接続にてディスクを共有化し、データを一元的に管理する機能を有すること。</p>
6.5	24	<p>■(総合試験用)運用管理/ヘルプデスク端末及び各種シュミレータ及びプリントスプーラ用FatClient端末</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能に接続できること。</p> <p>イ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>ウ. シンクライアントサーバ等で採用するOSと容易に連携できること。</p> <p>エ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408 におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>オ. 現行OSのビジネスプログラムを実行できること。</p> <p>カ. 32bitのOSであること。</p>
		<p>●オフィスアプリケーションソフトウェア(OAソフトウェア)</p> <p>ア. Microsoft Office 2003以降で作成された現行資産を正常に扱うことができること。</p> <p>イ. 文書作成ソフトウェア、表計算ソフトウェア、プレゼンテーションソフトウェア、簡易データベースソフトウェア、メール閲覧・作成ソフトウェアで構成されていること。</p> <p>ウ. メール閲覧・作成ソフトウェアとしては、POP3、IMAP4、SMTP に対応可能であること。S/MIME ならびにOpenPGP に対応した暗号化メールのための拡張機能を有していること。</p> <p>エ. OASIS (Organization for the Advancement of Structured Information Standards) 公開文書形式標準に準拠した文書の読み込み、編集、印刷、書き出しが可能であること。</p> <p>オ. メニューが日本語であること。</p> <p>カ. ディレクトリサービスと連携し、制限等を一括管理できること。</p> <p>キ. インターフェイスのメニューがリボンスタイルであること。</p> <p>ク. スクリーンショット機能として、2クリックの操作でウィンドウを貼り付けられること。</p> <p>ケ. [保存]、[印刷]、[送信]、などのファイル全体の操作が一括でできること。</p>
		<p>●端末エミュレータ(端末ウィンドウ)</p> <p>ア. Solaris, SunOS, Linux, HP-UX, AIX, IRIX, Tru64UNIX, EWS4800, 各種PC UNIXなどに対応していること。サーバごとに対応可能な端末エミュレータを用意してもよい。</p> <p>イ. 運用管理/ヘルプデスク端末から、各サーバのデスクトップをリモート環境で表示できること。</p> <p>ウ. フルカラー画面での256色モードエミュレーション、各UNIX OS用の代替フォントの搭載など、UNIXホストのコンソールとの高い互換性を実現し、様々なUNIXアプリケーションが表示可能であること。</p> <p>エ. 端末のOS上の日本語入力機構からUNIXアプリケーションへの日本語入力が可能であること。端末のOSとUNIX間の日本語文字列のカットアンドペーストが可能であること。</p> <p>オ. NFSプロトコルを使用したフォントファイルへのアクセス機能を標準で実装していること。</p>
		<p>●PDFファイル閲覧ソフトウェア</p> <p>ア. 無償のPDFファイル閲覧ソフトウェアであること。</p>
		<p>●Webブラウザソフトウェア</p> <p>ア. W3C HTML5に準拠したコンテンツの処理が行えること。</p> <p>イ. ECMAScript5に準拠したコンテンツの処理が行えること。</p> <p>ウ. メニューが日本語で表示できること。</p>
		<p>●ワークスペース</p> <p>ア. 基準労災DBサーバに搭載されるRDBMSに関する開発ツール機能を有すること。</p>
		<p>●アンチウイルス(マネージャー含む)</p> <p>ア. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。</p> <p>イ. リアルタイムスキャンにより、スパイウェアを自動的に検知して駆除する機能を有すること。</p> <p>ウ. Webベースのグラフィカルなレポートと集中管理を1台のコンソールから実行可能であること。</p> <p>エ. 定期的なディスク操作のほかに、メール受信や補助記憶媒体へのアクセスの都度、ファイルの走査を行う機能を有すること。</p> <p>オ. 複合的なコンピュータ環境にも対応可能であること。</p> <p>カ. 更新されたウイルスパターンファイルを端末に配布できること。</p> <p>キ. メニューが日本語であること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<ul style="list-style-type: none"> ●エージェントソフトウェア <ul style="list-style-type: none"> ア. ジョブスケジュール制御に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した運用管理サーバ付属のものを使用すること。
6.5	25	<p style="background-color: yellow;">■(総合試験用)プリンタサーバ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●オペレーティングシステム(OS) <ul style="list-style-type: none"> ア. 64bit対応のオペレーティングシステム(OS)であること。 イ. ファイアウォール機能を有すること。 ウ. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能を備えていること。 エ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。 オ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408 におけるEAL4以上の認定を取得していること。 カ. 冗長化構成が組めること。 キ. 仮想化機能を備えていること。 ●Webブラウザソフトウェア <ul style="list-style-type: none"> ア. W3C HTML5に準拠したコンテンツの処理が行えること。 イ. ECMAScript5に準拠したコンテンツの処理が行えること。 ウ. メニューが日本語で表示できること。 ●エージェントソフトウェア <ul style="list-style-type: none"> ア. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。 イ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。 ●アンチウイルス <ul style="list-style-type: none"> ア. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。 イ. リアルタイムスキャンにより、スパイウェアを自動的に検知して駆除する機能を有すること。 ウ. Webベースのグラフィカルなレポートと集中管理を1台のコンソールから実行可能であること。 エ. 定期的なディスク操作のほかに、メール受信や補助記憶媒体へのアクセスの都度、ファイルの走査を行う機能を有すること。 オ. 複合的なコンピュータ環境にも対応可能であること。 カ. 更新されたウイルスパターンファイルを端末に配布できること。 キ. メニューが日本語であること。
6.5	26	<p style="background-color: yellow;">■(総合試験用)Thin Client</p> <ul style="list-style-type: none"> ●オペレーティングシステム(OS)またはファームウェア <ul style="list-style-type: none"> ア. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。 イ. シンククライアントサーバ等で採用するOSと容易に連携できること。 ウ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。 エ. IPv6に対応していること。 オ. UPnP 対応していること。 カ. 32bitのOSであること。 ●シンククライアントサーバ接続ミドルウェア <ul style="list-style-type: none"> ア. シンククライアントサーバが提供するサーバベースコンピューティング環境に接続可能であること。 イ. オペレーティングシステム(OS)との親和性が保証されていること。 ウ. Thin Client とシンククライアントサーバとの間の通信がスムーズであること。WANなどの狭帯ネットワーク環境でも常に快適にアプリケーションを利用できること。 エ. 画像転送方式のシンククライアントサーバに接続できること。 ●端末検疫エージェント <ul style="list-style-type: none"> ア. 検疫サーバが提供する端末検疫アプリケーションに接続可能であること。

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>イ. 検疫サーバからのセキュリティパッチの配信を受けることが可能であること。</p> <p>ウ. ユーザ認証を行う前に、端末検疫及びセキュリティパッチ配信を受けられること。</p> <p>●アンチウイルス</p> <p>ア. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。</p> <p>イ. リアルタイムスキャンにより、スパイウェアを自動的に検知して駆除する機能を有すること。</p> <p>ウ. Webベースのグラフィカルなレポートと集中管理を1台のコンソールから実行可能であること。</p> <p>エ. 定期的なディスク操作のほかに、メール受信や補助記憶媒体へのアクセスの都度、ファイルの走査を行う機能を有すること。</p> <p>オ. 複合的なコンピュータ環境にも対応可能であること。</p> <p>カ. 更新されたウイルスパターンファイルを端末に配布できること。</p> <p>キ. メニューが日本語であること。</p>
6.5	27	<p>■(総合試験用)Fat Client 及び OCRスキャナ</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能に接続できること。</p> <p>イ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>ウ. シンクライアントサーバ等で採用するOSと容易に連携できること。</p> <p>エ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>オ. 現行OSのビジネスプログラムを実行できること。</p> <p>カ. 32bitのOSであること。</p> <p>●シンクライアントサーバ接続ミドルウェア</p> <p>ア. シンクライアントサーバが提供するサーバベースコンピューティング環境に接続可能であること。</p> <p>イ. オペレーティングシステム(OS)との親和性が保証されていること。</p> <p>ウ. Fat Client とシンクライアントサーバとの間の通信がスムーズであること。WAN などの狭帯ネットワーク環境でも常に快適にアプリケーションを利用できること。</p> <p>エ. 画像転送方式のシンクライアントサーバに接続できること。</p> <p>●RDBMS</p> <p>ア. SQL 92 以降に準拠していること。</p> <p>イ. Transact-SQL が利用可能であること。</p> <p>ウ. 非同期通信によるイメージデータ転送を行うことができること。</p> <p>エ. SSL等の暗号化通信をサポートしていること。</p> <p>オ. IPv6に対応していること。</p> <p>カ. RDBMS との接続及び同期が可能であること。同期元と同期先とで、整合性が保障されること。</p> <p>キ. 同期時には、データの消失が発生しない仕組みを有すること。</p> <p>ク. ページサイズを2KB、4KB、8KB、16KB から選択できること。</p> <p>ケ. クライアントアプリケーションからデータベースアクセス用のAPI としてODBC、OLEDB、JDBC 等が利用できること。</p> <p>コ. 1,000 台以上での転送実績を有すること。</p> <p>●Webブラウザソフトウェア</p> <p>ア. W3C HTML5に準拠したコンテンツの処理が行えること。</p> <p>イ. ECMAScript5に準拠したコンテンツの処理が行えること。</p> <p>ウ. メニューが日本語で表示できること。</p> <p>●オフィスアプリケーションソフトウェア</p> <p>ア. Microsoft Office 2003以降で作成された現行資産を正常に扱うことができること。</p> <p>イ. 文書作成ソフトウェア、表計算ソフトウェア、プレゼンテーションソフトウェア、簡易データベースソフトウェア、メール閲覧・作成ソフトウェアで構成されていること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>セ. 紙帳票のイメージデータにもとづいて認識領域を設定ができること。</p> <p>ソ. 認識領域ごとに認識対象のデータ種別(文字もしくはイメージ)、文字種類(英字、数字、漢字等)ならびに活字・手書きの区別を指定できること。</p> <p>タ. 知識処理の登録文字辞書が装備され、これにユーザが知識処理の登録文字を追加可能であること。</p> <p>チ. インプリンティング機能を持つスキャナに対して、印字開始位置決定等の印字機能が制御可能であること。</p>
		<p>●PDFファイル編集ソフトウェア</p> <p>ア. OA ソフトウェアから、PDF 文書をドラッグ&ドロップやワンクリックで作成できること。</p> <p>イ. 印刷可能な、どのアプリケーションからでも、印刷メニューで選択するだけで PDF文書を作成できること。</p> <p>ウ. PDF ファイルの表示、編集、注釈の付加、電子署名または印刷を許可するかどうかを制御できること。</p> <p>エ. PDF 文書にパスワードを割り当てて、第三者が機密性の高い文書を開いたり表示することを防ぐことができること。</p> <p>オ. メニューが日本語であること。</p> <p>カ. 作成されたPDFファイルは、無償で配布されている閲覧用ソフトウェアを使用して閲覧や印刷が可能であること。</p> <p>キ. 一度作成したPDF文書から、任意のページを削除したり、新たに追加したり、ページの順番を入れ替えることが可能であること。</p> <p>ク. パスワード、アクセス権を設定でき、機密文書をより安全に保護可能であること。</p> <p>ケ. 電子署名とタイムスタンプを組み合わせた長期保存署名に対応していること。</p> <p>コ. テキストの直接編集が可能であること。</p> <p>サ. PDF作成時に、自動ファイル名生成(連番/日付)が可能であること。また、同名ファイルがある場合に、元ファイルに追加できること。</p>
		<p>●端末検疫エージェント</p> <p>ア. 検疫サーバが提供する端末検疫アプリケーションに接続可能であること。</p> <p>イ. 検疫サーバからのセキュリティパッチの配信を受けることが可能であること。</p> <p>ウ. ユーザ認証を行う前に、端末検疫及びセキュリティパッチ配信を受けられること。</p>
		<p>●PDFファイル閲覧ソフトウェア</p> <p>ア. 無償のPDFファイル閲覧ソフトウェアであること。</p>
		<p>●OCR-K/Bフォント</p> <p>ア. JIS X 9001(B)準拠</p> <p>イ. JIS X 9003(K)準拠</p> <p>ウ. TrueType フォント</p> <p>エ. 上記に示す要件を満たすフォントの利用者として、約5,000名を想定している(センタ環境(本番用)及びセンタ環境(総合試験用)用で共通)。</p>
		<p>●OCR手書き認識用半角フォント</p> <p>ア. JIS X 9005~8 準拠</p> <p>イ. TrueType フォント</p> <p>ウ. 上記に示す要件を満たすフォントの利用者として、約5,000名を想定している(センタ環境(本番用)及びセンタ環境(総合試験用)用で共通)。</p>
		<p>●OCR手書き認識用全角フォント</p> <p>ア. 一般的にいわれる「教科書体」と呼ばれる手書き風の書体</p> <p>イ. JIS X 0208 における第一水準漢字(16区~47区)、第二水準漢字(48区~84区)の範囲</p> <p>ウ. JIS X 0208 における英数字、かな(01区~08区)の範囲</p> <p>エ. TrueType フォント</p> <p>オ. 上記に示す要件を満たすフォントの利用者として、約5,000名を想定している(センタ環境(本番用)及びセンタ環境(総合試験用)用で共通)。</p>
		<p>●日本語変換ソフト</p> <p>ア. オフィスアプリケーションソフトウェアに付属する日本語変換機能を有すること。</p>
		<p>●イメージデータ編集ソフト</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>ア. OCRスキャナに付属するイメージデータ編集機能を有すること。</p> <p>●プリンタ監視ツール ア. プリンタの監視機能を有すること。</p> <p>●NET対応アプリケーションソフト ア. NET対応アプリケーションに関する動作が可能であること。</p> <p>●帳票アプリケーション(XMLライブラリ) ア. 帳票アプリケーションに同梱されているXMLライブラリを有すること。</p> <p>●UPS統合管理 ア. UPSの管理機能を有すること。</p> <p>●アンチウイルス ア. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。 イ. リアルタイムスキャンにより、スパイウェアを自動的に検知して駆除する機能を有すること。 ウ. Webベースのグラフィカルなレポートと集中管理を1台のコンソールから実行可能であること。 エ. 定期的なディスク操作のほかに、メール受信や補助記憶媒体へのアクセスの都度、ファイルの走査を行う機能を有すること。 オ. 複合的なコンピュータ環境にも対応可能であること。 カ. 更新されたウイルスパターンファイルを端末に配布できること。 キ. メニューが日本語であること。</p> <p>●エージェントソフトウェア ア. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。 イ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。</p>
6.5	28	<p>■(総合試験用)モバイル端末</p> <p>●オペレーティングシステム(OS) ア. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能に接続できること。 イ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。 ウ. シンクライアントサーバ等で採用するOSと容易に連携できること。 エ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。 オ. 現行OSのビジネスプログラムを実行できること。 カ. 32bitのOSであること。</p> <p>●シンクライアントサーバ接続ミドルウェア ア. シンクライアントサーバが提供するサーバベースコンピューティング環境に接続可能であること。 イ. モバイル端末で採用するオペレーティングシステム(OS)との親和性が保証されていること。 ウ. モバイル端末とシンクライアントサーバとの間の通信がスムーズであること。WANなどの狭帯ネットワーク環境でも常に快適にアプリケーションを利用できること。 エ. 画像転送方式のシンクライアントサーバに接続できること。</p> <p>●オフィスアプリケーションソフトウェア(OAソフトウェア) ア. Microsoft Office 2003以降で作成された現行資産を正常に扱うことができること。 イ. 文書作成ソフトウェア、表計算ソフトウェア、プレゼンテーションソフトウェア、簡易データベースソフトウェア、メール閲覧・作成ソフトウェアで構成されていること。 ウ. メール閲覧・作成ソフトウェアとしては、POP3、IMAP4、SMTPに対応可能であること。S/MIMEならびにOpenPGPに対応した暗号化メールのための拡張機能を有していること。 エ. OASIS(Organization for the Advancement of Structured Information Standards)公開文書形式標準に準拠した文書の読み込み、編集、印刷、書き出しが可能であること。 オ.メニューが日本語であること。 カ. ディレクトリサービスと連携し、制限等を一括管理できること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		キ. インターフェイスのメニューがリボンスタイルであること。
		ク. スクリーンショット機能として、2クリックの操作でウィンドウを貼り付けられること。
		ケ. [保存]、[印刷]、[送信]、などのファイル全体の操作が一括でできること。
		●PDFファイル編集ソフトウェア
		ア. OA ソフトウェアから、PDF 文書をドラッグ&ドロップやワンクリックで作成できること。
		イ. 印刷可能な、どのアプリケーションからでも、印刷メニューで選択するだけで PDF文書を作成できること。
		ウ. PDF ファイルの表示、編集、注釈の付加、電子署名または印刷を許可するかどうかを制御できること。
		エ. PDF 文書にパスワードを割り当てて、第三者が機密性の高い文書を開いたり表示することを防ぐことができること。
		オ. メニューが日本語であること。
		カ. 作成されたPDFファイルは、無償で配布されている閲覧用ソフトウェアを使用して閲覧や印刷が可能であること。
		キ. 一度作成したPDF文書から、任意のページを削除したり、新たに追加したり、ページの順番を入れ替えることが可能であること。
		ク. パスワード、アクセス権を設定でき、機密文書をより安全に保護可能であること。
		ケ. 電子署名とタイムスタンプを組み合わせた長期保存署名に対応していること。
		コ. テキストの直接編集が可能であること。
		サ. PDF作成時に、自動ファイル名生成(連番/日付)が可能であること。また、同名ファイルがある場合に、元ファイルに追加できること。
		●端末検疫エージェント
		ア. 検疫サーバが提供する端末検疫アプリケーションに接続可能であること。
		イ. 検疫サーバからのセキュリティパッチの配信を受けることが可能であること。
		ウ. ユーザ認証を行う前に、端末検疫及びセキュリティパッチ配信を受けられること。
		●ディスク暗号化
		ア. OS やシステムファイル領域を含め、ハードディスクを丸ごと暗号化できること。
		イ. PC 使用中のデータの暗号化/復号が自動的に行われること。
		ウ. パスワードの定期的な変更、アカウントの使用期間の設定、ログイン試行回数の制限(アカウントロック機能)の設定が可能であること。
		エ. セキュリティポリシーの設定を管理者が一括して行い、全ユーザにセキュリティルールの実行を強制する機能を備えていること。
		オ. OS 起動前に独自認証を行う仕組みを有していること。
		カ. OS 起動前の独自認証には、シングルサインオン(Windows ドメインのID/パスワード)が設定できること。
		キ. OS 起動前の独自認証には、USB キーやスマートカード、ワンタイムパスワードとの連携が可能であること。
		ク. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。
		●ワンタイムパスワード認証エージェント
		ア. LAN接続時に、ワンタイムパスワードのサーバから数日分のワンタイムパスワード情報をダウンロードできること。
		イ. オンライン、オフラインに関わらず、OS ログイン時にワンタイムパスワードを用いた認証が可能であること。
		ウ. 認証サーバ上のユーザ情報とは連動しない状態にすることが可能であること。
		●Webブラウザソフトウェア
		ア. W3C HTML5に準拠したコンテンツの処理が行えること。
		イ. ECMAScript5に準拠したコンテンツの処理が行えること。
		ウ. メニューが日本語で表示できること。
		●画像処理ソフトウェア
		ア. 定画像データの処理等を目的として、サイズ変更、減色処理、形式変更が可能であること。
		イ. 画像形式としては、BMP、JPEG、GIF、PNG が含まれていること。
		ウ. メニューが日本語であること。
		●ファイル圧縮ソフトウェア

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>ア. ファイルの圧縮、解凍ができること。</p> <p>イ. ファイルの分割、結合ができること。</p> <p>ウ. 圧縮時には解凍用パスワードを設定できること。</p> <p>エ. メニューが日本語であること。</p> <p>オ. パスワード条件や暗号化方法を事前に指定してインストールできること。</p> <p>●CADデータ閲覧ソフトウェア</p> <p>ア. CAD データ交換標準フォーマット(DWG)に対応したCAD ソフトウェアによって作成された図面データを表示・印刷できること。</p> <p>イ. 全体表示やズーム・画面移動などの操作が CAD データ/画像データともに同じ操作で扱え、データの種類を意識することなく利用できること。</p> <p>ウ. データ全体、または表示しているデータ範囲の印刷が可能であること(全体/部分印刷)。</p> <p>エ. メニューが日本語であること。</p> <p>●PDFファイル閲覧ソフトウェア</p> <p>ア. 無償のPDFファイル閲覧ソフトウェアであること。</p> <p>●日本語変換ソフト</p> <p>ア. オフィスアプリケーションソフトウェアに付属する日本語変換機能を有すること。</p> <p>●アンチウイルス</p> <p>ア. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。</p> <p>イ. リアルタイムスキャンにより、コンピュータ上で実行またはインストールを試みるスパイウェアを自動的に検知して駆除する機能を有すること。</p> <p>ウ. Webベースのグラフィカルなレポートと集中管理を1台のコンソールから実行可能であること。</p> <p>エ. 定期的なディスク操作のほかに、メール受信や補助記憶媒体へのアクセスの都度、ファイルの走査を行う機能を有すること。</p> <p>オ. 複合的なコンピュータ環境にも対応可能であること。</p> <p>カ. 更新されたウイルスパターンファイルを端末に配布できること。</p> <p>キ. メニューが日本語であること。</p>
6.5	29	<p>■(総合試験用)免許証発行機</p> <p>●オペレーティングシステム(OS)</p> <p>ア. リソースの一元管理を行うことができるディレクトリサービス機能に接続できること。</p> <p>イ. 不具合対応、バージョンアップ等に関して、契約期間中の対応を保証できるものであること。</p> <p>ウ. シンクライアントサーバ等で採用するOSと容易に連携できること。</p> <p>エ. システム運用開始までに、ISO/IEC15408におけるEAL4以上の認定を取得していること。</p> <p>オ. 現行OSのビジネスプログラムを実行できること。</p> <p>カ. 32bitのOSであること。</p> <p>●シンクライアントサーバ接続ミドルウェア</p> <p>ア. シンクライアントサーバが提供するサーバベースコンピューティング環境に接続可能であること。</p> <p>イ. オペレーティングシステム(OS)との親和性が保証されていること。</p> <p>ウ. 免許証発行機とシンクライアントサーバとの間の通信がスムーズであること。WANなどの狭帯ネットワーク環境でも常に快適にアプリケーションを利用できること。</p> <p>エ. 画像転送方式のシンクライアントサーバに接続できること。</p> <p>●RDBMS</p> <p>ア. SQL 92 以降に準拠していること。</p> <p>イ. Transact-SQL が利用可能であること。</p> <p>ウ. 非同期通信によるイメージデータ転送を行うことができること。</p> <p>エ. SSL等の暗号化通信をサポートしていること。</p> <p>オ. IPv6に対応していること。</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		<p>カ. RDBMS との接続及び同期が可能であること。同期元と同期先とで、整合性が保障されること。</p> <p>キ. 同期時には、データの消失が発生しない仕組みを有すること。</p> <p>ク. ページサイズを2KB、4KB、8KB、16KB から選択できること。</p> <p>ケ. クライアントアプリケーションからデータベースアクセス用のAPI としてODBC、OLEDB、JDBC 等が利用できること。</p> <p>コ. 1,000 台以上での転送実績を有すること。</p>
		<p>●帳票アプリケーション</p> <p>ア. 帳票アプリケーションにおけるWebプラグイン機能を有すること。</p>
		<p>●OCR入力処理アプリケーション</p> <p>ア. 認識アルゴリズム、知識処理により、手書き文字でも高精度な変換処理を実現可能であること。</p> <p>イ. TWAIN の規格に準拠した制御API を有すること。</p> <p>ウ. 縦・横、どちらの方向からも帳票の読み取りが可能であること。</p> <p>エ. 帳票の傾きや伸縮、ラインマークなどの補正作業を自動処理可能であること。</p> <p>オ. 黒枠帳票のOCR 認識に対応可能であること。</p> <p>カ. 認識対象文字として活字ANKS(英数カナ記号)における数字(0～9)、記号(¥、-)、英字(A～Z)をJIS X 9001 に規定するOCR-B フォントに準拠した文字にて、カタカナ(ア～ン、一、`、°)をJIS X 9003 に規定するOCR-K フォントに準拠した文字にて印字された帳票に対応していること。</p> <p>キ. 認識対象文字として手書きANKS(英数カナ記号)における数字(0～9)、記号(¥、+、-、*、#、.)、英字(A～Z)、カタカナ(ア～ン、一、`、°)及び手書き日本語における数字(0～9)、記号(¥、+、-、*、#、.、(、)、)、タ、ヅ、ヅ、一)、英字(A～Z)、漢字(JIS 第1 水準、第2 水準)、平仮名(あ～わ)、カタカナ(ア～ン、一、`、°)で記述された帳票に対応していること。</p> <p>ク. 帳票ID 等による帳票識別が可能で、異なる種類の帳票をまとめて認識することができること。</p> <p>ケ. イメージデータによる認識を行う際に、bmp、jpeg、tiff(非圧縮、G3等)等の標準化されたフォーマットの画像を対象とする。</p> <p>コ. 認識結果に関して、ソフトウェア側が「疑わしい」と判断したもの、ならびに認識不能であるものについては、これを他の認識結果と区別して表示できること。</p> <p>サ. 対象となる帳票の種類が増加した場合、新たな認識設定の追加ができること。</p> <p>シ. 登録された帳票のデザインに変更が生じた場合、容易に認識設定の変更ができること。</p> <p>ス. ユーザ登録した知識処理の登録文字について、外部への取出しができること。</p> <p>セ. 紙帳票のイメージデータにもとづいて認識領域を設定ができること。</p> <p>ソ. 認識領域ごとに認識対象のデータ種別(文字もしくはイメージ)、文字種類(英字、数字、漢字等)ならびに活字・手書きの区別を指定できること。</p> <p>タ. 知識処理の登録文字辞書が装備され、これにユーザが知識処理の登録文字を追加可能であること。</p> <p>チ. インプリンティング機能を持つスキャナに対して、印字開始位置決定等の印字機能が制御可能であること。</p>
		<p>●OCR-K/Bフォント</p> <p>ア. JIS X 9001(B)準拠</p> <p>イ. JIS X 9003(K)準拠</p> <p>ウ. TrueType フォント</p> <p>エ. 上記に示す要件を満たすフォントの利用者として、約5,000名を想定している(センタ環境(本番用)及びセンタ環境(総合試験用)用で共通)。</p>
		<p>●OCR手書き認識用半角フォント</p> <p>ア. JIS X 9005～8 準拠</p> <p>イ. TrueType フォント</p> <p>ウ. 上記に示す要件を満たすフォントの利用者として、約5,000名を想定している(センタ環境(本番用)及びセンタ環境(総合試験用)用で共通)。</p>
		<p>●OCR手書き認識用全角フォント</p> <p>ア. 一般的にいわれる「教科書体」と呼ばれる手書き風の書体</p> <p>イ. JIS X 0208 における第一水準漢字(16 区～47 区)、第二水準漢字(48区～84 区)の範囲</p>

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		ウ. JIS X 0208 における英数字、かな(01 区～08 区)の範囲
		エ. TrueType フォント
		オ. 上記に示す要件を満たすフォントの利用者として、約5,000名を想定している(センタ環境(本番用)及びセンタ環境(総合試験用)用で共通)。
		●日本語変換ソフト
		ア. オフィスアプリケーションソフトウェアに付属する日本語変換機能を有すること。
		●アプリケーションサーバ
		ア. 蓄積されたHTML文書や画像等のファイルを、Webブラウザ等の端末ソフトウェアからの要求に応じてHTTP1.1対応の手順で送信可能であること。
		イ. HTTPS接続に対応可能であること。
		ウ. 仮想ホスト、ソフトウェアロードバランシング機能を有すること。
		エ. コンテンツへのアクセス記録、エラー記録等の記録をcombined形式、common形式等の標準的な書式で保管可能であること。
		オ. アクセスもとのマシン名とともに、アクセスしたコンテンツの内容を記録・保管可能であること。
		カ. 保管に当たっては、外部補助記録媒体への保管が可能であること。
		キ. ディレクトリ単位でのアクセス制限を定義可能であること。
		●.NET対応アプリケーションソフト
		ア. .NET対応アプリケーションに関する動作が可能であること。
		●プリンタポート接続増設FDDデバイスドライバソフト
		ア. プリンタポートに接続して増設可能なFDDデバイスに関するドライバ機能を有すること。
		●FDDデバイスドライバソフト
		ア. FDDデバイスに関するドライバ機能を有すること。
		●イメージ画像ソフトウェア
		ア. OCRスキャナに付属するイメージデータ編集機能を有すること。
		●オフィスアプリケーションソフトウェア
		ア. Microsoft Office 2003以降で作成された現行資産を正常に扱うことができること。
		イ. 文書作成ソフトウェア、表計算ソフトウェア、プレゼンテーションソフトウェア、簡易データベースソフトウェア、メール閲覧・作成ソフトウェアで構成されていること。
		ウ. メール閲覧・作成ソフトウェアとしては、POP3、IMAP4、SMTP に対応可能であること。S/MIME ならびにOpenPGP に対応した暗号化メールのための拡張機能を有していること。
		エ. OASIS (Organization for the Advancement of Structured Information Standards) 公開文書形式標準に準拠した文書の読み込み、編集、印刷、書き出しが可能であること。
		オ. メニューが日本語であること。
		カ. ディレクトリサービスと連携し、制限等を一括管理できること。
		キ. インターフェイスのメニューがリボンスタイルであること。
		ク. スクリーンショット機能として、2クリックの操作でウィンドウを貼り付けられること。
		ケ. [保存]、[印刷]、[送信]、などのファイル全体の操作が一括でできること。
		●UPS統合管理
		ア. UPSの管理機能を有すること。
		●アンチウイルス
		ア. セキュリティ機能の無効化を試みるウイルスに対する改ざん防止機能を有すること。
		イ. リアルタイムスキャンにより、スパイウェアを自動的に検知して駆除する機能を有すること。
		ウ. Webベースのグラフィカルなレポートと集中管理を1台のコンソールから実行可能であること。
		エ. 定期的なディスク操作のほかに、メール受信や補助記憶媒体へのアクセスの都度、ファイルの走査を行う機能を有すること。
		オ. 複合的なコンピュータ環境にも対応可能であること。
		カ. 更新されたウイルスパターンファイルを端末に配布できること。

別紙3 ソフトウェア一覧
別紙3.2 総合試験用ソフトウェア一覧

章番号	項番	機能要件
		キ. メニューが日本語であること。
		●エージェントソフトウェア
		ア. ネットワーク監視に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応したネットワーク管理サーバ付属のものを使用すること。
		イ. プログラム配布に係るエージェント等のアプリケーションパッケージについては、オペレーティングシステムに対応した統制サーバ付属のものを使用すること。